

岩手県内遺跡発掘調査報告書

(平成27年度 国庫補助事業)

平成29年3月

岩手県教育委員会

岩手県内遺跡発掘調査報告書

(平成27年度 国庫補助事業)

岩 手 県 教 育 委 員 会

序

埋蔵文化財は、先人の残した貴重な歴史的財産であり、国民共有の財産です。文化財保護法の理念にもとづき、埋蔵文化財を保護し後世に伝えていくことは、現代に生きる私たちの責務です。

当教育委員会では、昭和52年から国庫補助金の交付を受けて遺跡の分布調査を実施し、現在、岩手県内には約1万3千箇所あまりの遺跡が確認されています。これらの遺跡を広く周知するとともに、開発事業と埋蔵文化財保護の調整を図るために行った、遺跡の範囲や内容確認を目的とした試掘調査、小規模な記録保存目的の発掘調査について、その成果を報告書として平成元年度から刊行しています。

本県では、平成23年3月11日に発災した東日本大震災からの復興に係る埋蔵文化財の調査に鋭意取り組んでいる他、国・県関連の開発事業に係る埋蔵文化財の調査にも取り組んでいるところです。

本報告書は、平成27年度に実施した県内遺跡調査事業による発掘調査及び試掘調査・分布調査の成果をまとめたものです。本書が広く活用され、埋蔵文化財保護の一助になれば幸いに存じます。

調査の実施と報告書の作成にあたり、御指導と御協力をいただきました関係機関ならびに関係者の皆様に、心から感謝申し上げます。

平成29年3月

岩手県教育委員会
教育長 高橋 嘉行

例 言

- 1 本書は岩手県教育委員会が平成27年度に実施した県内遺跡調査事業に係る調査成果の報告である。
- 2 本事業は岩手県教育委員会が調査主体となり、(公財)岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター(以下、県埋蔵文化財センターと略記)及び関係市町村教育委員会の協力を得て行った。
- 3 遺跡位置図は、国土地理院の承認を得て、同院発行の数値地図(国基本情報)電子国土基本図(地図情報)、数値地図(国土基本情報)電子国土基本図(地名情報)及び数値地図(国土基本情報)基盤地図情報(数値標高モデル)を使用した。(承認番号平28情使、第169号)
- 4 発掘調査及び試掘調査の調査位置図は各事業者から提供された工事計画図・地形図などを原図として作成した。
- 5 発掘調査の遺物実測図・遺物観察表は遺跡ごとに、試掘調査・工事立会の遺物実測図は一括して掲載した。
- 6 遺構・遺物名称は次のように略号を付した。
堅穴建物：SI、掘立柱建物：SB、炉：SL、土坑：SK、土坑墓：ST、溝：SD、柱穴：SP、
堅穴建物内柱穴：P、柵：SA、不明遺構：SX、石器：S
- 7 遺構・遺物実測図の縮尺は以下のとおりで、それぞれにスケールを付した。実測図の表現は凡例のとおりである。
遺構：1/20、1/30、1/40、1/50、1/60、1/80、1/150、1/200
遺物：土器・土製品1/3、陶磁器1/3、石器・石製品1/2、1/3、1/4、金属製品1/3
- 8 写真図版は、主な遺構・遺物を選択して掲載した。掲載縮尺は遺構については任意、遺物については、向山遺跡は任意、他は実測図と同寸である。
- 9 平成27年度の調査体制は次のとおりである。

〈埋蔵文化財担当総括〉	首席文化財専門員	菅 常 久
〈予 算 ・ 経 理〉	主 任	藤 村 フサ子
〈通 常 事 業 担 当〉	文化財専門員	千 葉 正 彦
	文化財専門員	佐々木 務
	文化財調査員	高 橋 祐
〈復 興 事 業 担 当〉	文化財専門員	半 澤 武 彦
	文化財専門員	鳥 居 達 人
	文化財専門員	佐 藤 淳 一 (山田町派遣)
	文化財調査員	長屋敷 淳 史
[派 遣 専 門 職 員]	文化財専門員	赤 井 文 人 (北海道)
	文化財専門員	新 海 和 広 (秋田県)
	文化財専門員	岩 名 建 太 郎 (静岡県)
	文化財専門員	小 竹 森 直 子 (滋賀県)
	首席文化財専門員	篠 宮 正 (兵庫県)

上席文化財専門員 友 岡 信 彦 (大分県)
 文化財専門員 上 床 真 (鹿児島県)
 文化財専門員 具志堅 清 大 (沖縄県)

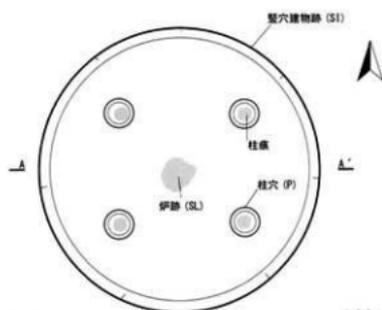
※ () は派遣元の道県、文化庁の調整による復興調査支援

- 10 野外調査・室内整理は主として通常事業担当が担当し、報告書の作成は主として鳥居・小竹森・大関・高橋、編集は高橋が行った。なお、復興事業関係の調査については第149集として別途刊行している。
- 11 向山遺跡出土人骨は新潟医療福祉大学 奈良貴史・佐伯史子の協力を得て、人類学的調査を行った。
- 12 本事業の調査記録及び出土品は、岩手県教育委員会事務局生涯学習文化課が保管している。

凡 例

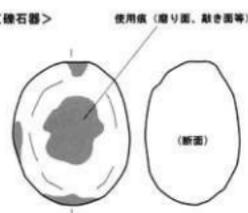
遺構図の表現

<平面図>



遺物実測図の表現

<隕石器>



※他表現は各実測図中に記載

<断面図>



目 次

序

例言

凡例

I 発掘調査

- 1 主要地方道北上東和線才の羽々地区地域連携道路整備事業（野田Ⅰ遺跡）…………… 2
- 2 一般国道340号和井内地区地域連携道路整備事業（和井内西遺跡）…………… 5
- 3 主要地方道重茂半島線大沢～浜川目地区地域連携道路整備事業
（浜川目沢田Ⅰ遺跡）…………… 13
- 4 災害復旧工事白浜（鶴）地区（向山遺跡）…………… 15

II 試掘調査

- 1 一般国道4号水沢東バイパス（町屋敷遺跡）…………… 58
- 2 主要地方道重茂半島線大沢～浜川目地区地域連携道路整備事業
（浜川目沢田Ⅰ遺跡）…………… 59
- 3 主要地方道重茂半島線大沢～浜川目地区地域連携道路整備事業
（浜川目沢田Ⅱ遺跡）…………… 60
- 4 一般国道106号宮古西道路地域連携道路整備事業（田鎖館跡）…………… 61
- 5 農用地災害復旧関連区画整理事業山田北地区（豊間根工区）（馬越沢遺跡）…………… 62
- 6 東北自動車道滝沢南スマートインターチェンジ事業（大久保遺跡）…………… 63

III 調査一覧

- 1 発掘調査一覧…………… 65
- 2 試掘調査一覧…………… 66
- 3 工事立会一覧…………… 73
- 4 分布調査一覧…………… 76

報告書抄録

插图目次

発掘調査	
第1図 発掘調査位置図……………1	
野田Ⅰ遺跡	
第2図 野田Ⅰ遺跡位置図……………2	
第3図 調査位置図……………2	
第4図 遺構配置・検出遺構図……………3	
第5図 出土遺物……………3	
和井内西遺跡	
第6図 和井内西遺跡位置図……………5	
第7図 調査位置図……………7	
第8図 遺構配置図……………8	
第9図 検出遺構図……………9	
第10図 出土遺物……………10	
浜川目沢田Ⅰ遺跡	
第11図 浜川目沢田Ⅰ遺跡位置図……………13	
第12図 調査位置・遺構配置図……………13	
第13図 出土遺物……………14	
向山遺跡	
第14図 向山遺跡位置図……………15	
第15図 調査位置図……………15	
第16図 遺構配置図(全体)……………16	
第17図 Ⅰ区平面図、西壁断面図、SK05・SK06・ SP27～SP37断面図……………17	
第18図 Ⅰ区・Ⅱ区出土遺物……………18	
第19図 Ⅲ区SI02～SI06平面図、SI03～SI06 断面図……………20	
第20図 Ⅲ区SL02・SL03・SL05・SL07平面図・ 断面図、SI03・SI04・SK01・SL09・SL12 断面図……………21	
第21図 Ⅲ区SL01・SL04平面図・断面図……………22	
第22図 Ⅲ区SI04～SI06出土遺物(1)……………24	
第23図 Ⅲ区SI04～SI06出土遺物(2)……………25	
第24図 Ⅲ区SI04～SI06出土遺物(3)、 SL04・SI05出土遺物……………26	
第25図 Ⅲ区SX03出土遺物……………27	
第26図 Ⅲ区ST01～ST03平面図・断面図、 ST01出土遺物……………29	
第27図 Ⅲ区西半部出土遺物(1)……………32	
第28図 Ⅲ区西半部出土遺物(2)……………33	
第29図 Ⅲ区東半部、北西突出部出土遺物(1)……………34	
第30図 Ⅲ区北西突出部出土遺物(2)……………35	
第31図 Ⅳ区遺構配置図……………37	
第32図 Ⅳ区東壁・南壁(SK07)断面図、 SI01断面図、SK01・SK02・SK08・ SK09平面図・断面図……………39	
第33図 Ⅳ区SI01出土遺物(1)……………40	
第34図 Ⅳ区SI01出土遺物(2)……………41	
第35図 Ⅳ区SX02・SK02出土遺物……………42	
第36図 Ⅳ区遺物包含層出土遺物(1)……………43	
第37図 Ⅳ区遺物包含層出土遺物(2)……………44	
第38図 Ⅳ区遺物包含層出土遺物(3)……………45	
第39図 Ⅳ区遺物包含層出土遺物(4)……………46	
試掘調査	
第40図 試掘調査位置図……………57	
第41図 町屋敷遺跡位置図……………58	
第42図 町屋敷遺跡調査位置図……………58	
第43図 浜川目沢田Ⅰ遺跡位置図……………59	
第44図 浜川目沢田Ⅰ・Ⅱ遺跡調査位置図……………59	
第45図 浜川目沢田Ⅱ遺跡位置図……………60	
第46図 浜川目沢田Ⅱ遺跡調査位置図……………60	
第47図 田鎖館跡位置図……………61	
第48図 田鎖館跡調査位置図……………61	
第49図 馬越沢遺跡位置図……………62	
第50図 馬越沢遺跡調査位置図……………62	
第51図 大久保遺跡位置図……………63	
第52図 大久保遺跡調査位置図……………63	
第53図 試掘調査出土遺物……………64	
第54図 試掘調査位置図一覽(1)……………68	
第55図 試掘調査位置図一覽(2)……………69	
第56図 試掘調査位置図一覽(3)……………70	
第57図 試掘調査位置図一覽(4)……………71	
第58図 試掘調査位置図一覽(5)……………72	
工事立会	
第59図 工事立会位置図一覽(1)……………74	
第60図 工事立会位置図一覽(2)……………75	

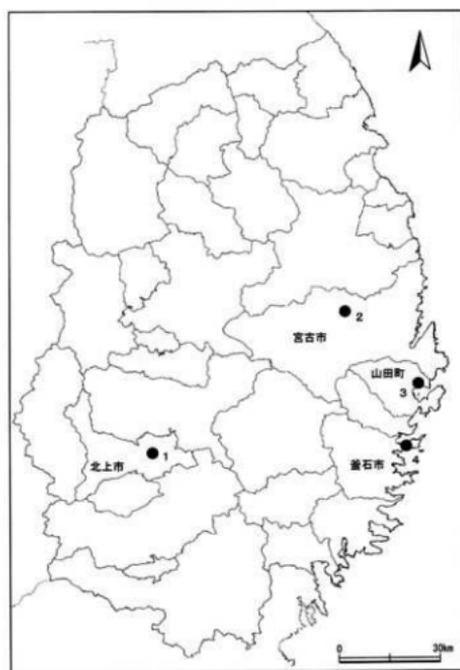
表 目 次

第1表 野田Ⅰ遺跡出土遺物観察表……………3	第3表 浜川目沢田Ⅰ遺跡出土遺物観察表……………14
第2表 和井内西遺跡出土遺物観察表……………10	第4表 試掘調査出土遺物観察表……………64

写真図版目次

写真図版1 野田Ⅰ遺跡 検出遺構・調査状況…4	写真図版9 向山遺跡 全景Ⅰ区・Ⅱ区……………47
写真図版2 野田Ⅰ遺跡 出土遺物……………4	写真図版10 向山遺跡 Ⅲ区全景・調査状況……………48
写真図版3 和井内西遺跡 検出遺構・調査 状況(1)……………11	写真図版11 向山遺跡 Ⅲ区検出遺構(1)……………49
写真図版4 和井内西遺跡 検出遺構・調査 状況(2)……………12	写真図版12 向山遺跡 Ⅲ区検出遺構(2)……………50
写真図版5 和井内西遺跡 出土遺物……………12	写真図版13 向山遺跡 Ⅳ区全景・検出遺構……………51
写真図版6 浜川目沢田Ⅰ遺跡 検出遺構・ 調査状況……………14	写真図版14 向山遺跡 出土遺物(1)……………52
写真図版7 浜川目沢田Ⅰ遺跡 出土遺物……………14	写真図版15 向山遺跡 出土遺物(2)……………53
写真図版8 向山遺跡 Ⅲ区ST01出土人骨……………30	写真図版16 向山遺跡 出土遺物(3)……………54
	写真図版17 向山遺跡 出土遺物(4)……………55
	写真図版18 向山遺跡 出土遺物(5)……………56
	写真図版19 試掘調査 出土遺物……………64

I 発掘調査



- 1 野田 I 遺跡 (北上市)
- 2 和井内西遺跡 (宮古市)
- 3 浜川目沢田 I 遺跡 (山田町)
- 4 向山遺跡 (釜石市)

第 1 図 発掘調査位置図

1 主要地方道北上東和線才の羽々地区
地域連携道路整備事業

野田 I 遺跡 (ME56-2213)

所在地：北上市二子町才の羽々地内

事業者：県南広域振興局土木部

花巻土木センター

調査期日：平成27年6月1日(月)～6月2日(火)

野田 I 遺跡は、北上市役所から北東に約3.0kmの北上市二子町才の羽々地区に所在する。

遺跡の所在する二子地区は北上川右岸の谷底平野に位置し、調査区は北上川支流の大堰川右岸の自然堤防上に立地する。本遺跡は縄文・弥生・平安の複合遺跡で、過去数回にわたり発掘調査が行われており、調査区周辺では平安時代の集落跡がみついている(岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第506集)。今回の発掘調査は、主要地方道北上東和線才の羽々地区地域連携道路事業に係る埋蔵文化財の記録保存を目的とした本発掘調査である。対象面積は約65㎡である。

今回の調査区における基本層序は以下のとおりである。

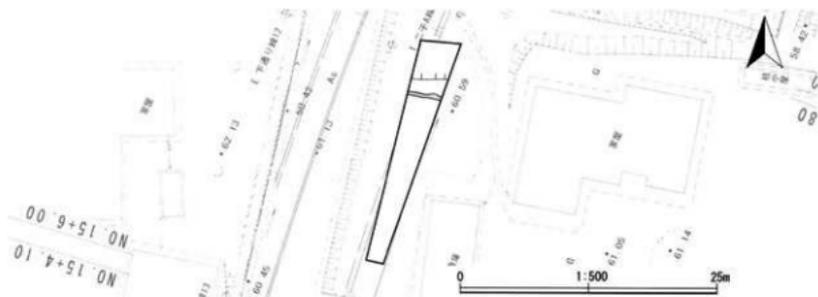
- I層：暗褐色土 層厚20～35cm しまりなし。(表土)
- II層：暗褐色土 層厚35～50cm 明黄褐色土粒を疎らに含む。(造成土)
- III層：黒褐色土 層厚0～10cm (自然堆積層)
- IV層：明黄褐色土 層厚20～40cm 橙色スコリアを疎らに含む。遺構検出面。(自然堆積層)
- V層：黄橙色土 層厚不明 橙色スコリア40%混入。(自然堆積層)

調査の結果、調査区北側のIV層上面より溝跡1条(SD01)を検出した。平面規模は2.5m以上×0.3m、深さは0.2mで、調査区外に続くものと考えられる。掘り込み面は不明で埋土から土師器が出土した。性格は不明である。過去の調査結果から道路に平行しない溝跡については古代以降の遺構と考えられ、今回検出した溝跡についても出土遺物から古代の遺構と考えられる。また、II層の暗褐色土から土師器片や須恵器片・縄文土器片が出土した。

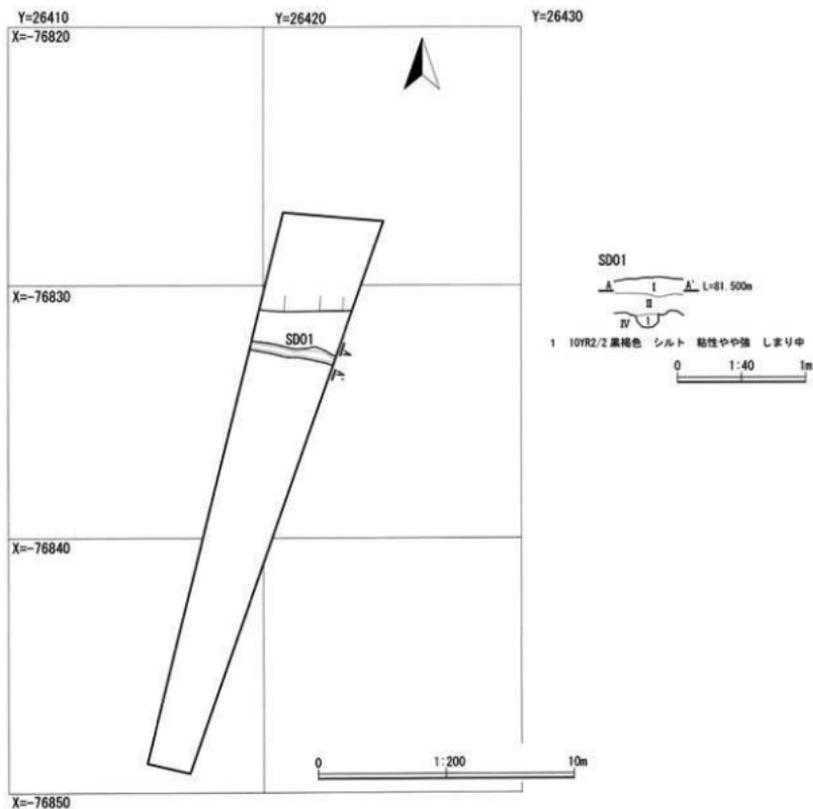
調査区北端では大堰川へと続くと推定される地形の落ち込みを確認しており、今回の調査区が古代の集落域の北端にあたと推測する。



第2図 野田 I 遺跡位置図



第3図 調査位置図



第4図 遺構配置・検出遺構図



第5図 出土遺物

第1表 野田I遺跡出土遺物観察表

掲載 番号	出土 地点	層位	種別	器種	部位	計測値 (cm・g)				特 徴
						口径 縦	器高 横	底部径 厚さ	重量	
1	SD01	I	縄文土器	深鉢	胴部					沈殿
2	SD01	I	土師器	坏	体部					内外面ロクロナデ
3		II	土師器	甕	口縁部					内外面ナデ
4		II	須恵器	甕	胴部					外面叩き紙、内面染紙

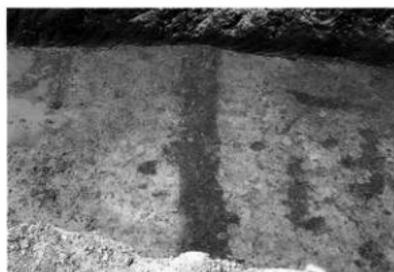
計測値の [] は推定値、() が残存値を表す。



調査前風景（北から）



調査区全景（北から）

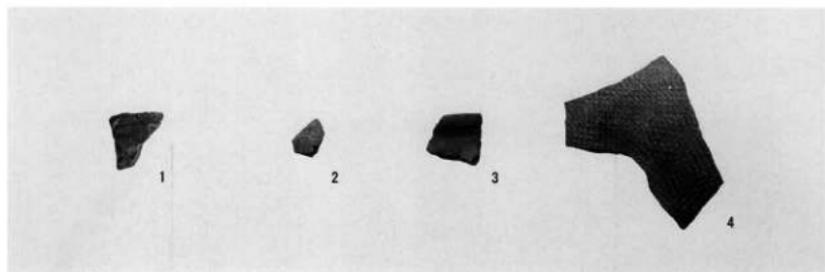


SD01 検出（西から）



SD01 完掘（西から）

写真図版1 野田I遺跡 検出遺構・調査状況



写真図版2 野田I遺跡 出土遺物

2 一般国道340号和井内地区地域連携道路整備事業

わ い ない に し い せき
和井内西遺跡 (LF18-1335)

所在地：宮古市和井内11地割

事業者：沿岸広域振興局土木部宮古土木センター

調査期日：平成26年6月9日(月)～24日(火)

平成27年7月13日(月)～16日(木)

21日(火)～22日(水)

11月9日(月)～10日(火)

和井内西遺跡は宮古市役所から西北西約22.1km、国道340号の東に位置する。刈屋川左岸の中起伏山地に囲まれた標高221m前後の砂礫段丘上に立地する。現在は平坦な畑地で周辺には杉林が散見される。当地域の遺跡の多くは狭小な河岸段丘上に分布し、その大半は縄文時代の遺跡であるが、本遺跡の南東に位置する和井内東遺跡では本発掘調査の結果、弥生土器や平安時代の遺物が出土している（新里村文化財調査報告書第4集）。

今回の発掘調査は、一般国道340号和井内地区地域連携道路事業に係る埋藏文化財の記録保存を目的とした本発掘調査である。対象面積は平成26年度約1,236㎡、平成27年度511㎡で計1,747㎡である。

今回の調査区における基本層序は以下のとおりである。

I層：表土	層厚20～60cm	耕作土
II層：黒灰色土層	層厚20～30cm	黒ボク土層
III層：暗褐色土層	層厚20～40cm	遺構検出面
IV層：黒色砂礫層	層厚10～30cm	
V層：灰褐色砂礫層	層厚40cm～	

二カ年の調査の結果、掘立柱建物跡3棟・櫓跡2列・土坑墓4基・小穴群が検出された。

平成26年度の調査では調査区北側-櫓、中央-土坑墓、南側-建物群と分布範囲が明確に区分できる。南側では柱穴と捉えられる小穴が重複関係を有して検出されていることから、建て替えを繰り返しながら長期間建物が存続したものと推定される。柱穴内には柱の根石と推定可能な扁平な石も確認されている。北側でも敷地を区画する施設に変遷があった可能性を指摘できる。

平成27年度の調査では掘立柱建物跡を1棟検出した。平成26年度のような石が出土する柱穴はなかった。調査区北側についてはI層下にV層とした砂礫層が確認されたことから、トレンチ調査に切り替え、遺構の検出を行ったものの遺構・遺物は発見されなかった。

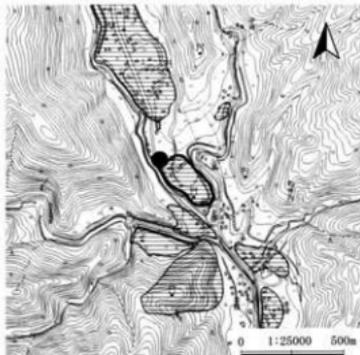
出土遺物は土器や陶磁器、^{ウツ}罎・銅銭などの金属製品が出土した。遺構の帰属年代を明確に把握することは困難であるが、概ね18世紀頃と捉えられる。

主要遺構について概要を記す。

掘立柱建物跡

平成26年度調査区南側の約10m×13mの範囲で、概ね平面形が円形を呈する小穴を90個前後検出した。その中から遺構埋土等の検出状況を勘案して、建物として成立する蓋然性の高い2棟を抽出することが出来た。

SB01 規模が約9.5m×7.0mの平面形態が矩形を成す掘立柱建物跡である。桁行3間・梁間2間の



第6図 和井内西遺跡位置図

柱間を呈する。ただし、後世の遺構との切り合いで一部の柱は消滅しているらしく、建物に係る全ての柱穴を検出していないため、正確な柱の数は把握できていない。なお、北側面の東1間分の外側に平行する小穴2個による列が存在している。小穴間の距離が当該建物の柱間とはほぼ同一であるため、SB01の張り出し部、もしくは縁といった付属施設の痕跡の可能性はある。建物の長軸方向は真北に対し約41度西に傾いているが、現況の国道340号に沿った方向を呈している。

SB02 建物北西隅のみが調査区内に存在する建物で、南北3間分約9.0m・東西1間分約2.9mのほぼ直角で接する柱穴列を検出した。また、後世の攪乱等による滅失で柱穴を検出できない部分もあるため、建物の正確な形状等は判然としない。現状で建物長軸と推定する方向は真北に対し約13度西に傾き、SB01と比較してより真北に近い方向を呈している。

SB03 平成27年度調査で検出したもの。規模は2.6m以上×1.3mの桁行2間以上×梁行1間、平面形態は長方形の掘立柱建物跡で、調査区外に続くと考えられる。掘り込み面は不明で遺物の出土もない。建物の長軸方向は真北に対し約51度東に傾いており、SA01とはほぼ同じ軸方向である。

柵跡

直線状に柱穴が配置される遺構を柵跡として2列抽出したが、小規模な柵跡を認識しきれていない可能性もある。柵跡内部の敷地に建物等は確認できなかった。

SA01 全長12.9mの南北方向の柵である。柱穴は7間分検出されているが、柱間寸法は1.65～2.4mと一定しない。柱穴の形状は直径30～40cmの円形が主体である。

SA02 全長11.7mの東西方向の柵跡である。柱穴は6間分検出されており、柱間寸法は一定せず、西から1.5m・3.0m・1.8m・1.8m・1.8m・1.8mである。柱穴の形状は直径25～50cmの不整形な円形が主体である。SA01を切っており、新旧関係が判明する。

土坑墓

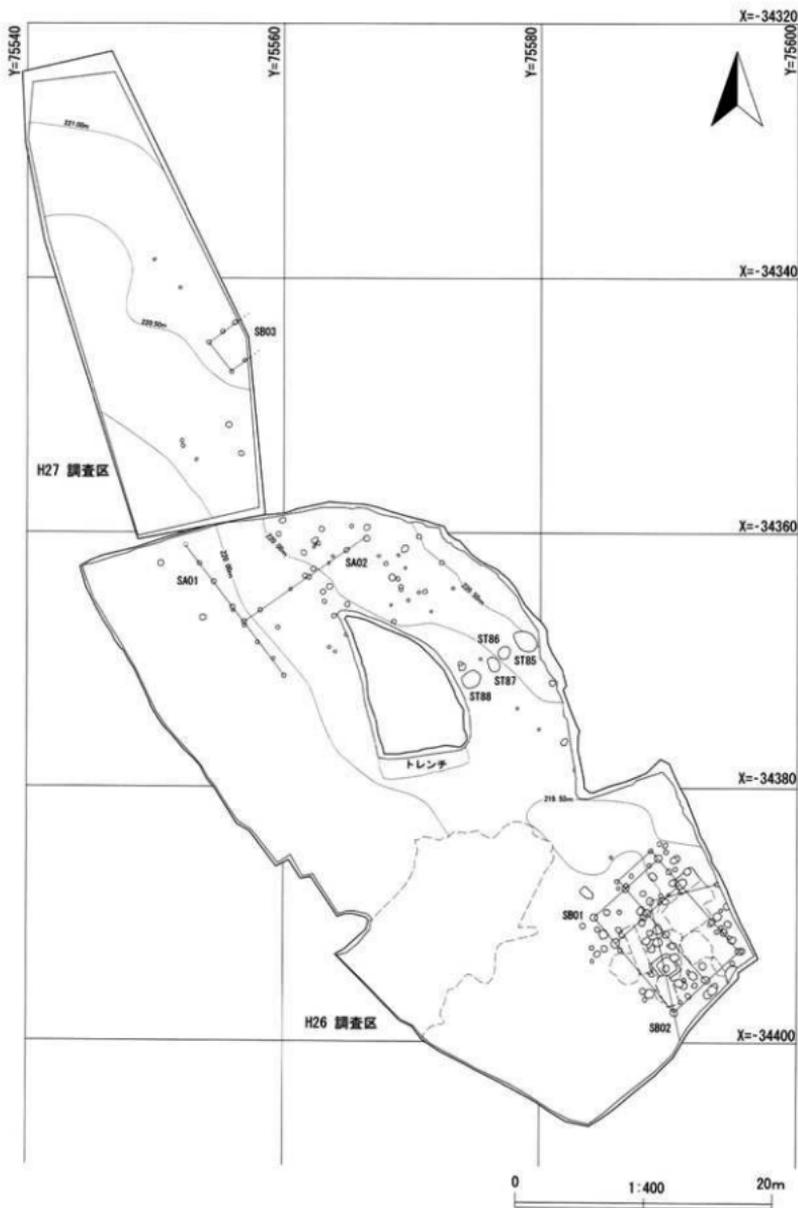
当初、土坑として検出したが、遺構の状況や周辺の調査事例から、近世の土坑墓と判断した。4基とも黒色～暗灰色土の埋土である。

ST85 平面形は長径約2.0m・短径約1.4mの不整形な楕円形を成すが、土坑墓内部は2段に掘削されており、下段は直径約1.2mの不整形な円形を成す。4基のうち最大規模で、唯一刀装具の銅製鏝（無紋）や鉄・毛抜きといった銅銭以外の副葬品が出土している。銅銭は北東部分で南北2箇所^{出所}に別れて出土し、南側から出土したものは3枚重なって壺着した状態にあった。鉄製の鉄及び毛抜き等は遺骨の南側に位置しているが、埋葬時の原位置を保っているとは断定できない。

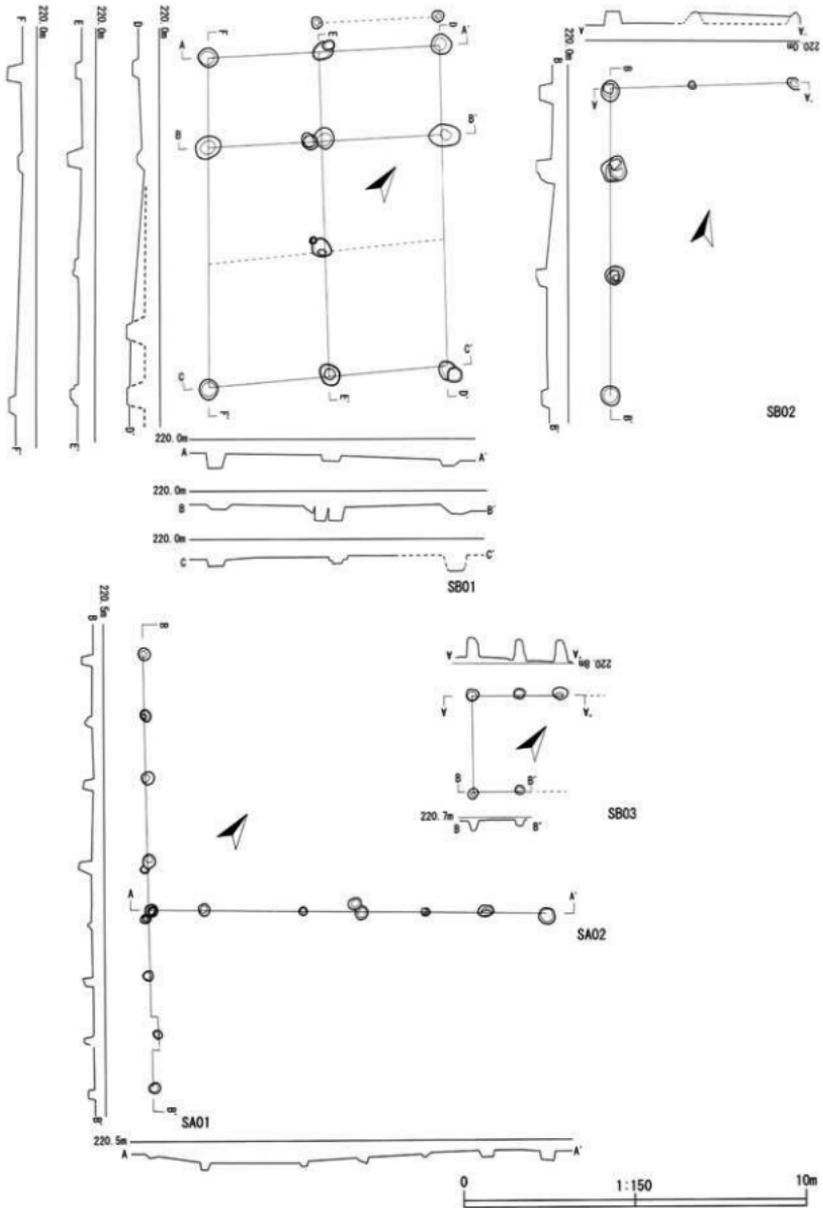
ST86 平面は直径約1.0mの不整形な円形を成す。中央の遺骨北側で銅銭1枚のみ出土した。

ST87 長径約1.2m・短径約0.8mの不整形な楕円形を成す。遺物の出土はなかった。

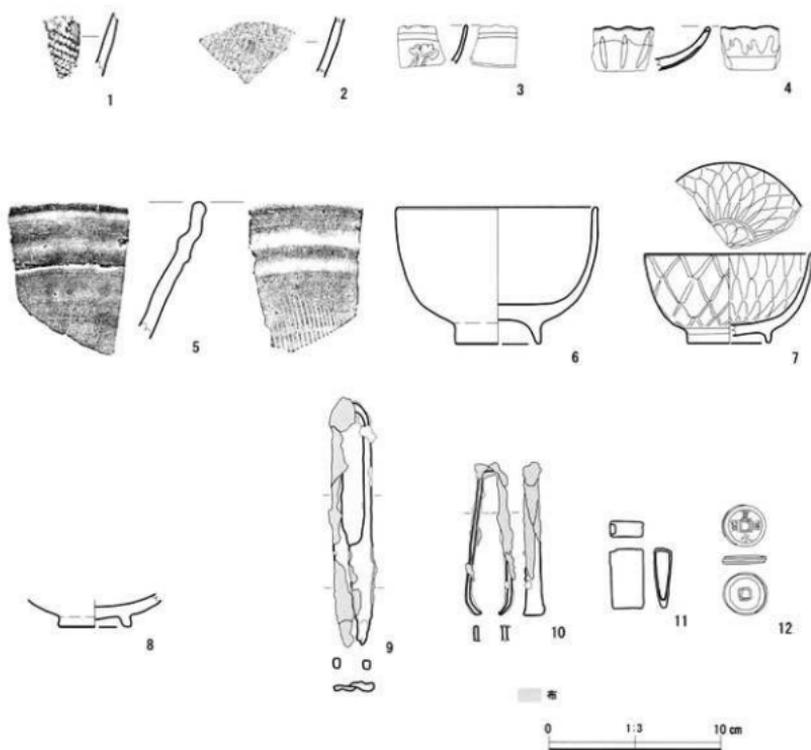
ST88 平面は長軸約1.5m・短軸約1.3mのやや方形に近い不整形な形状を成す。副葬品は中央の遺骨の西側に位置する銅銭1枚のみ出土した。



第 8 図 遺構配置図



第9図 検出遺構図



第10図 出土遺物

第2表 和井内西遺跡出土遺物観察表

掲載 番号	出土 地点	層位	種別	器種	部位	計測値 (cm・g)			重量	特 徴
						口径	器高 横	底径 厚さ		
1	SP	埋土	縄文土器	深鉢	胴部					LR 履
2		黒色土	弥生土器か	深鉢	胴部					撫糸文、赤穴式か
3		掘乱	陶磁器	碗	口縁部					近世 (18c 後半～19c 前半)・肥前
4		掘乱	陶磁器	皿	口縁部					近世 (19c)・江戸
5		掘乱	陶磁器	すり鉢	口縁部					近世 (18c～19c)・江戸
6		掘乱	陶磁器	碗	口縁部～底部	[118]	8.1	5		近世 (18c 中)・肥前
7		掘乱	陶磁器	碗	口縁部～底部	[98]	5.3	[4.8]		近世 (18c 後)・肥前
8	SP	埋土	陶磁器	碗	底部			[24]		近世
9	ST85	埋土	鉄製品	鉢		14.8	2.7	1.6	25.39	布が巻かれる
10	ST85	埋土	鉄製品	毛抜き		9.1	2.9	1.2	14.11	布が巻かれる
11	ST85	埋土	銅製品	縄		3.5	2.0	1.0	13.97	無紋
12	ST85	埋土	銅銭	寛永通宝		2.5	2.6	0.5	9.62	三枚重なる

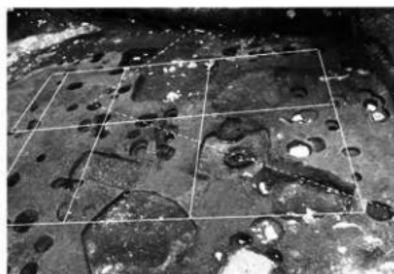
計測値の [] は推定値、() が残存値を表す。



H26北側調査区全景（北東から）



H26南側調査区全景（北西から）



H26南側 SB（南西から）



H26南側調査区 検出（南から）



SA01 完掘（南から）



ST85（南から）



ST86（南から）



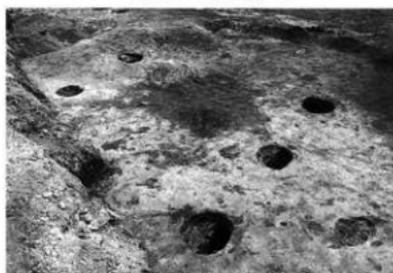
H27南側調査区全景（南から）



H27北側調査区全景（南から）

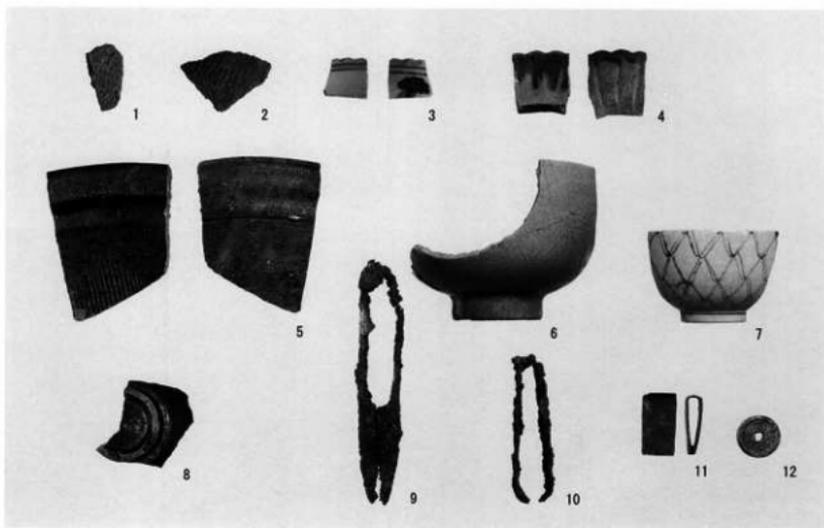


SB03 検出（西から）



SB03 完掘（北から）

写真図版4 和井内西遺跡 検出遺構・調査状況（2）



写真図版5 和井内西遺跡 出土遺物

3 主要地方道重茂半島線大沢～浜川目地区 地域連携道路整備事業

浜川目沢田 I 遺跡 (LG84-2393)

所在地：下閉伊郡山田町大沢浜川目地内
事業者：沿岸広域振興局土木部宮古土木センター
調査期日：平成27年6月15日(月)～19日(金)

浜川目沢田 I 遺跡は、山田町役場から北東に約3.6kmの下閉伊郡山田町大沢地内に所在する。遺跡の所在する浜川目地区は谷底平野及び段丘に位置し、調査区は谷底平野に立地する。

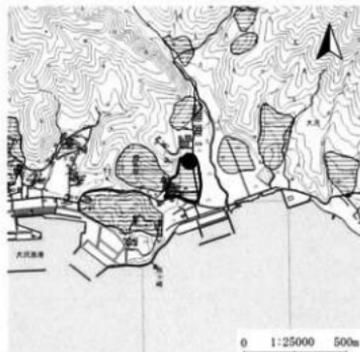
今回の調査区に隣接する南側の谷底平野部分について、震災復興に伴う土地区画整理事業に係り埋蔵文化財センターにより発掘調査が行われ、縄文時代中期の集落跡及び縄文時代晩期の捨て場跡が確認されている(平成29年度刊行予定)。今回の発掘調査は、主要地方道重茂半島線大沢～浜川目地区地域連携道路事業に係る埋蔵文化財の記録保存を目的とした本発掘調査である。対象面積は約140㎡である。

今回の調査区における基本層序は以下の通りである。

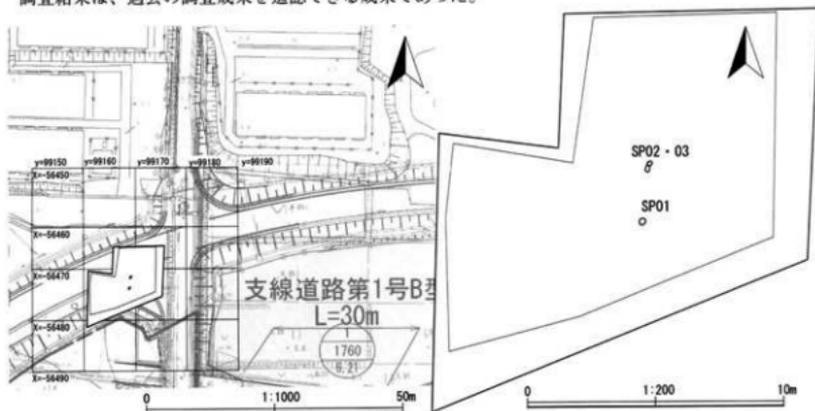
- | | | |
|-----------|-----------|------------------------|
| I層：暗褐色土 | 層厚10～20cm | しまりなし。(表土) |
| II層：暗褐色土 | 層厚35～50cm | 明黄褐色ブロックを含む。(造成土) |
| III層：暗褐色土 | 層厚10～20cm | (自然堆積層) |
| IV層：黒褐色土 | 層厚10～20cm | 遺物含む。(自然堆積層) |
| V層：灰黄褐色土 | 層厚10～20cm | 遺物含む。(自然堆積層) |
| VI層：黄橙色土 | 層厚不明 | 全体的に礫少量含む。遺構検出面(自然堆積層) |

調査の結果、調査区中央のVI層上面から柱穴3基を検出した。平面規模はそれぞれSP01が20cm×20cm、深さ15cm、SP02が25cm×15cm、深さ10cm、SP03が20cm×15cm、深さ20cmである。

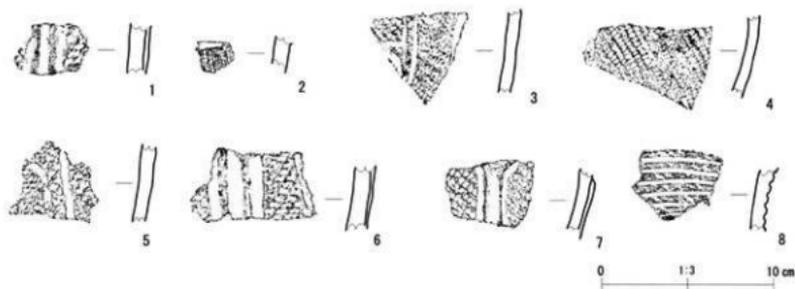
柱穴の埋土はいずれもIV層起源と考えられる黒褐色土で、いずれの柱穴も掘り込み面は判断に至らず、遺物も出土していないため、時期は不明である。出土遺物は縄文土器のほか、I層より鉄滓が出土した。過去の調査より、遺構や遺物の分布は山田湾に近い南側を中心としていることから、今回の調査結果は、過去の調査成果を追認できる成果であった。



第11図 浜川目沢田 I 遺跡位置図



第12図 調査位置・遺構配置図



第13図 出土遺物

第3表 浜川目沢田I遺跡出土遺物観察表

掲載 番号	出土 地点	層位	種別	器種	部位	計測値 (cm・g)				特徴
						口径	器高	底部径	重量	
						縦	横	厚さ		
1		I	縄文土器	深鉢	胴部					LR縦、貼付文、沈線
2		I	縄文土器	深鉢	胴部					0多LR斜、貼付文、沈線
3		III	縄文土器	深鉢	胴部					RL横、貼付文、沈線
4		IV	縄文土器	深鉢	胴部					結節縄文、LR横
5		IV	縄文土器	深鉢	胴部					RLR縦、貼付文、沈線
6		IV	縄文土器	深鉢	胴部					RLR縦、貼付文、沈線
7		IV	縄文土器	深鉢	胴部					LR縦、貼付文、沈線
8		IV	縄文土器	深鉢	胴部					LR縦、沈線

計測値の〔 〕は推定値、()が残存値を表す。

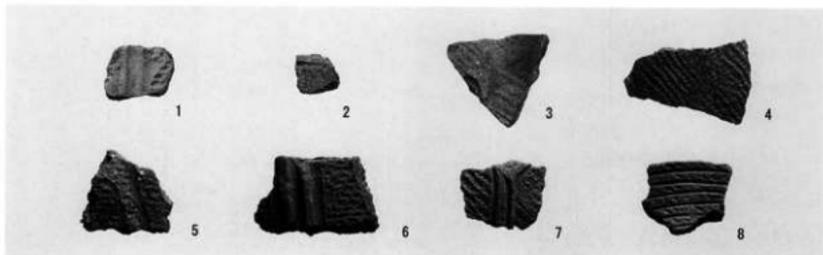


調査区 全景 (南西から)



柱穴 断面 (東から)

写真図版6 浜川目沢田I遺跡 検出遺構・調査状況



写真図版7 浜川目沢田I遺跡 出土遺物

4 災害復旧工事白浜(輪)地区

むかいやまいせき

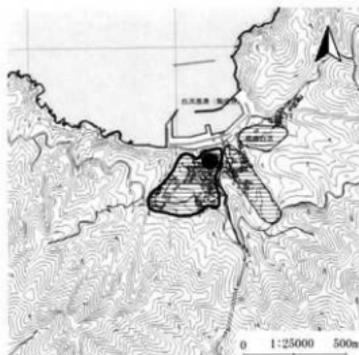
向山遺跡 (MG43-2358)

所在地：釜石市箱崎町白浜

事業者：沿岸広域振興局水産部

調査期日：平成27年6月22日(月)～7月16日(木)

向山遺跡は、大植湾と両石湾を隔てるように太平洋に突出する箱崎半島のほぼ中央部にあたる箱崎町白浜に所在し、釜石市役所の北東約7.5kmに位置する。背後を小起伏山地に囲まれ、大植湾に面した北向き緩斜面地に立地する。遺跡は、縄文土器・磨製石斧や寛永通宝など、縄文時代と近世の遺物散布地として周知されている。

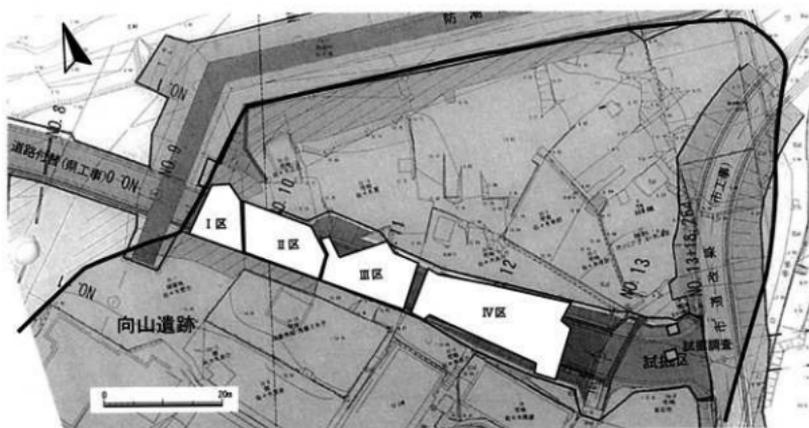


第14図 向山遺跡位置図

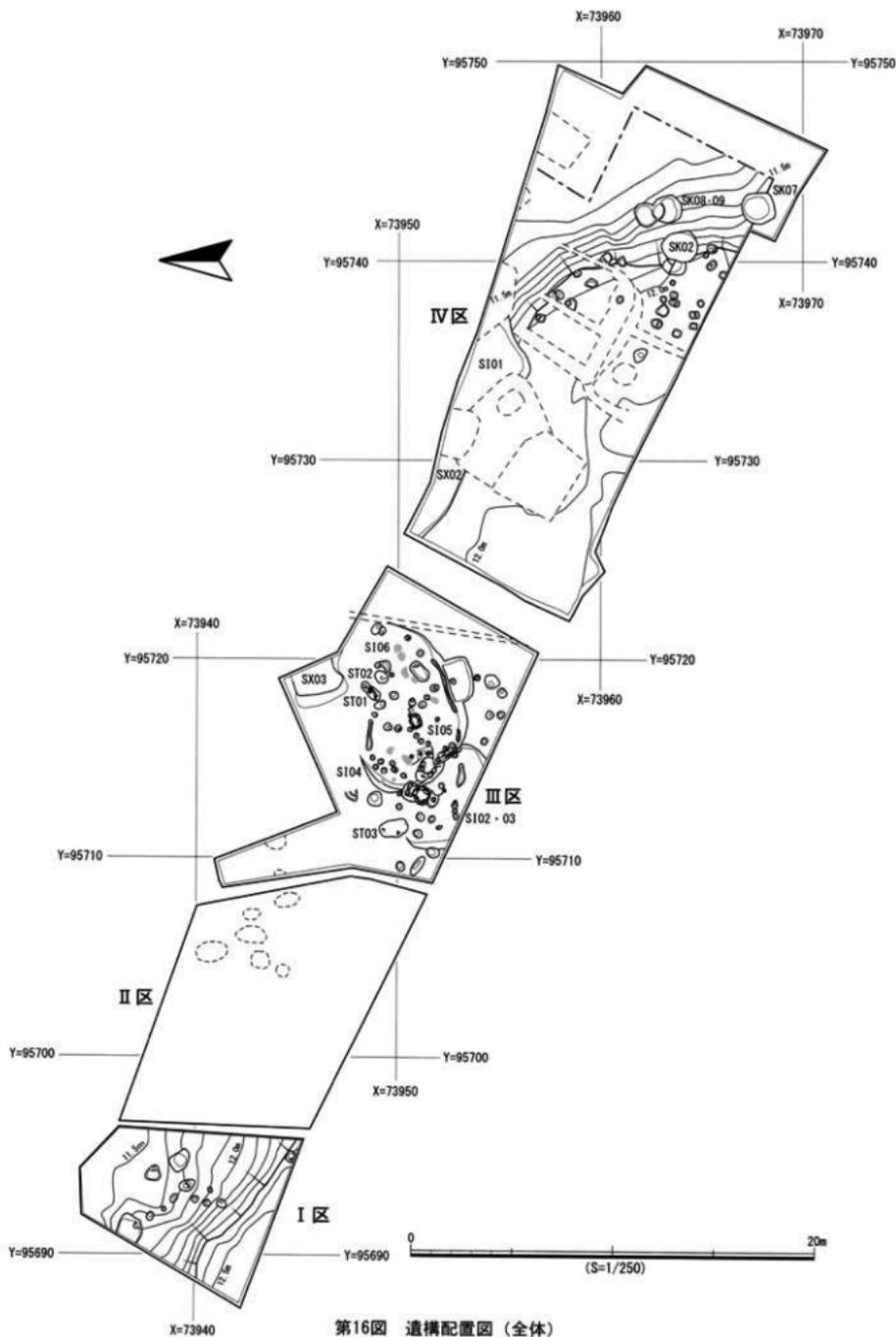
今回の調査は、防潮堤建設に係る付属道路の乗越え道建設に伴うものであり、平成26年度に実施した試掘調査結果に基づき本発掘調査が必要と判断した幅約7～10m、延長約70mの約600㎡を対象とした。なお、調査地は現況の宅地区画に基づき、西から順にⅠ区～Ⅳ区と称し、遺構番号は調査区全体で検出順に通し番号とした。

基本層序は、調査区毎に若干の差異はあるものの、以下のとおりである。

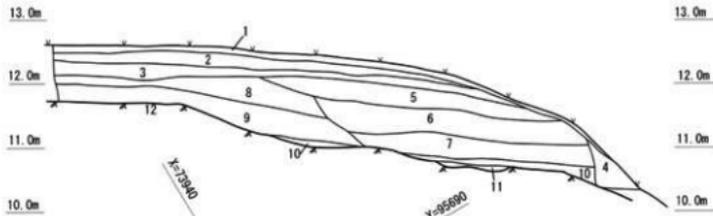
Ⅰ層：腐植土及び造成土・攪乱土(層厚10～120cm・現代ゴミを含む)、Ⅱ-1層：灰褐色土(層厚10～20cm・Ⅲ区遺物包含層)、Ⅱ-2層：暗橙褐色土(層厚10～30cm・Ⅳ区落ち込み上層遺物包含層)、Ⅲ層 黒褐色土(層厚10～40cm・Ⅳ区落ち込み黒ボク無遺物層)、Ⅳ層：暗茶褐色土(層厚5～10cm・Ⅰ区遺物包含層)、Ⅴ層：黄褐色パイラン土(花崗岩・粘板岩の風化礫を多量に含む地山層)



第15図 調査位置図

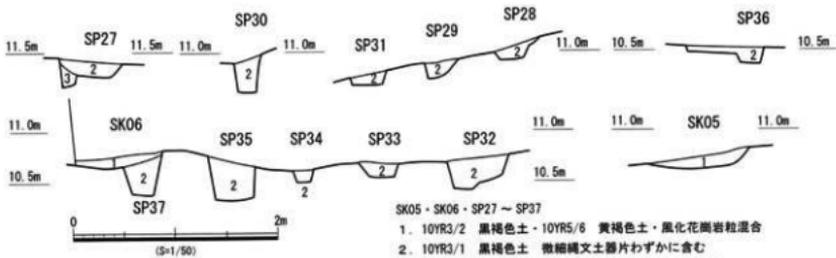


第16図 遺構配置図 (全体)



I 区西壁

1. 2.5YR4/2 暗灰黄色腐植土
2. 10YR5/6 黄褐色山砂系造成土
3. 2.5YR3/2 黒褐色土に拳大角礫含む
4. 法面石積裏込め土
5. 2.5YR2/1 黒色土 極小 締りなし
6. 5層黒色土に風化花崗岩粒 (φ1~5mm 大) 含む
7. 5層黒色土に拳~人頭大角礫含む
8. 2.5YR3/2 黒褐色土・2.5YR5/6 黄褐色土混合 極小~小 締りなし
9. 2.5YR3/2 黒褐色土 極小~小 締りなし
10. 10YR3/2 黒褐色土 極小~小=遺物古層
11. 10YR3/2 黒褐色土・10YR5/6 黄褐色土・風化花崗岩粒混合=SK06 埋土
12. 10YR5/6 黄褐色風化花崗岩土 斜面地では拳~人頭大角礫主体=地山層



SK05・SK06・SP27~SP37

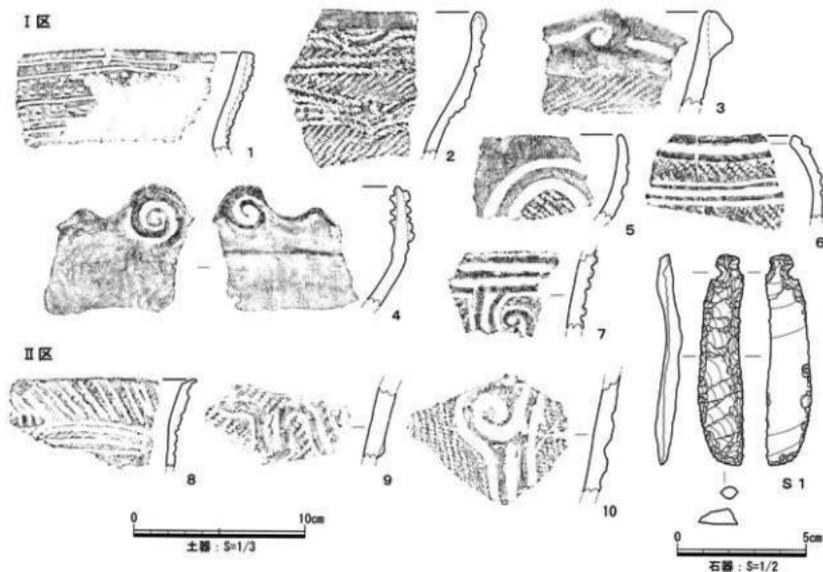
1. 10YR3/2 黒褐色土・10YR5/6 黄褐色土・風化花崗岩粒混合
2. 10YR3/1 黒褐色土 微細礫文土層片わずかに含む
3. 10YR3/1 黒褐色土 炭化物粒 (φ~5mm 程度) 含む

第17図 I 区平面図、西壁断面図、SK05・SK06・SP27~SP37断面図

I 区の調査結果

今回調査対象地の最も西に設定した調査区であり、東側に隣接するII区が宅地造成に際してかなり削平されていることもあり、他の調査区よりも2m程度高く見えるが、I区の現況自体が後世の造成であり、遺構検出面の標高は後述するIII区・IV区とほぼ同様の10.6~11.5m程度になる。遺構検出面は、南から北（海側）に向かって緩やかに下り、南側の平坦地でピット1個（SP27）、斜面地でピット10個（SP28~SP37）と土坑2基（SK05・06）を検出した。いずれも埋土には微細な縄文土器片・炭化物が含まれているが、明確な配列を把握することはできない。I区は遺構検出面となる地山のほぼ直上まで攪乱の影響が及んでおり、わずかな窪みに遺構埋土と近似する遺物包含層が認められることから、堅穴建物跡であった可能性もある。I区のピットは、遺構面直上の遺物包含層に近似した埋土内に、縄文土器の小片と炭化物を含む。遺構埋土と近似していることから、堅穴建物跡等の遺構埋土である可能性もある。

1~7は、遺物包含層から出土した縄文土器である。III区・IV区で多く出土したような一辺20cm以上の大形破片は見られないものの摩滅は全く認められない。1は、口縁部がくの字状に屈曲し、外面に沈線文と刺突文列を組み合わせて施す。口縁部が内彎するものでは、2は押圧縄文、6は沈線と隆帯で文様帯の区画と施文を行い、5は2本の太い沈線で曲線文を描き、内部に縄文を残す。4は内外面共に平滑に仕上げた波状口縁であり、高く突出させた波状部の内外面に貼付隆帯による渦巻き文を加える。7は、扁平な貼付隆帯による区画文と縦位の丁字文を持つ胴部破片である。3は、端部外面に粘土を貼付けて断面三角形に肥厚させる波形の低い波状口縁であり、太い沈線で直線と渦巻き文を施す。施文の特徴から、大木7b式（2）・大木8b式（3）・大木9式（5）が見られるが、縄文時代中期中葉の時期幅で取まる。



第18図 I区・II区出土遺物

II 区の調査結果

II区は、地山層（V層）をかなり削平して宅地造成されていたため、遺構だけでなく、旧地形自体が残っていないながら、二次的な堆積ではあるものの表土層から縄文土器（8～10）・石器（S1）が出土した。器厚が薄い8は、緩やかに外反する口縁部外面に沈線で斜線文・曲線文を施す。9は、低い断面二等片三角形の貼付隆帯で曲線文が描かれた胴部破片である。10は、太い沈線で区画・J字文様を描き、内部の縄文は磨り消す大木8b式の深鉢胴部である。S1は、硬質頁岩の縦長剥片を素材とした石匙である。全長8.3cm・刃部長7.5cm・刃部最大幅1.6cmを測り、突出部と刃部との境となる縁れ部の断面はラグビーボール状となる。背面側は丁寧な加工調整を加えるが、背面はほぼ剝離面のままである。

なお、人骨を伴う埋葬施設を6基検出したが、改葬されていること、近代陶磁器が出土していること、近代以降に臨時の埋葬場所となっていたとの情報があったことから、埋蔵文化財としての対象外と判断した上で、地元釜石警察署に連絡し、鑑識による現地確認を行い、人骨の取り扱いについては委託者と釜石警察署にて協議・調整して対処することとした。

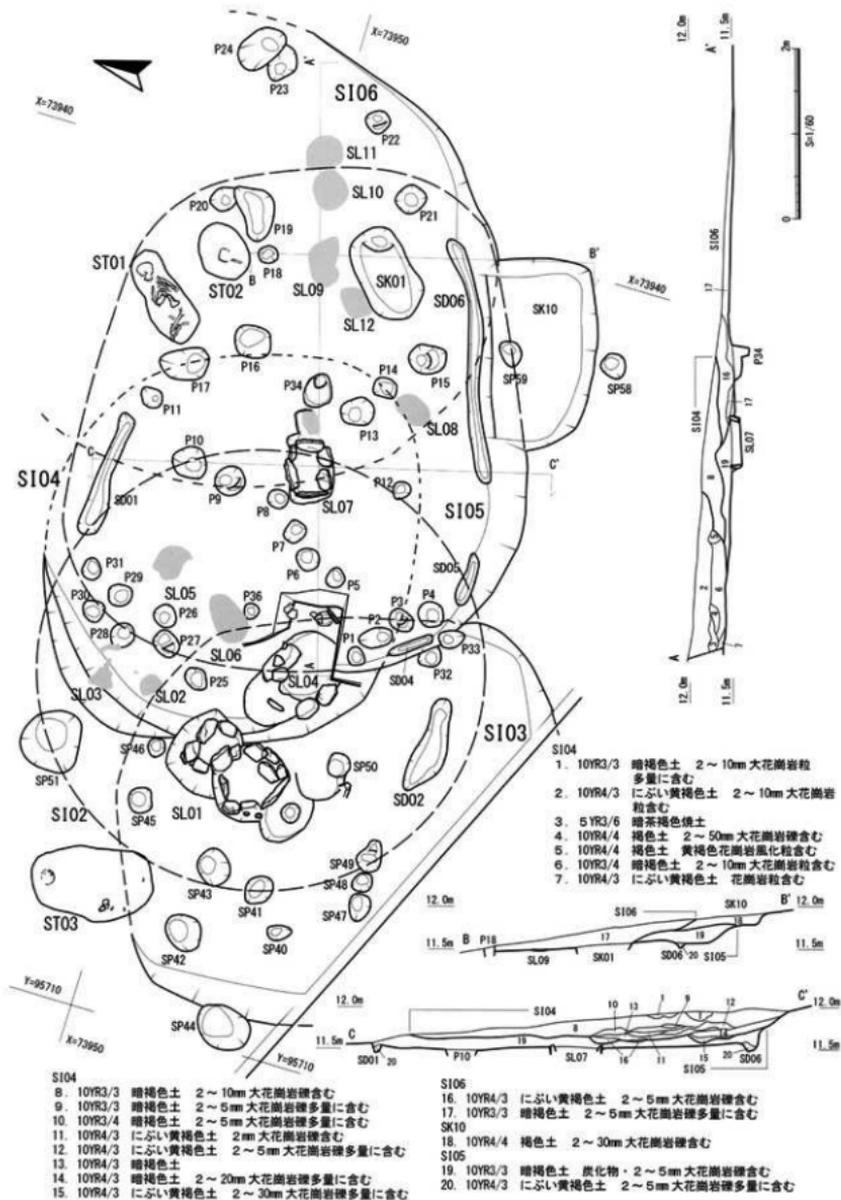
III 区の調査結果

調査対象地のほぼ中央に位置するIII区では、宅地造成・建物基礎などによる削平・攪乱の影響をかなり受けていたものの、標高11.5～12.0mとなるV層上面で住居跡となる竪穴建物跡5棟（SI02～SI06）、人骨が残る土坑墓3基（ST01～ST03）を検出した。また、V層直上には、焼土塊や炭化物をかなり含む厚さ10～20cm程度遺物包含層（II-1層）が堆積しており、ほとんど摩滅していない一辺20cm程度の大型縄文土器片や石器類が多量に出土した。

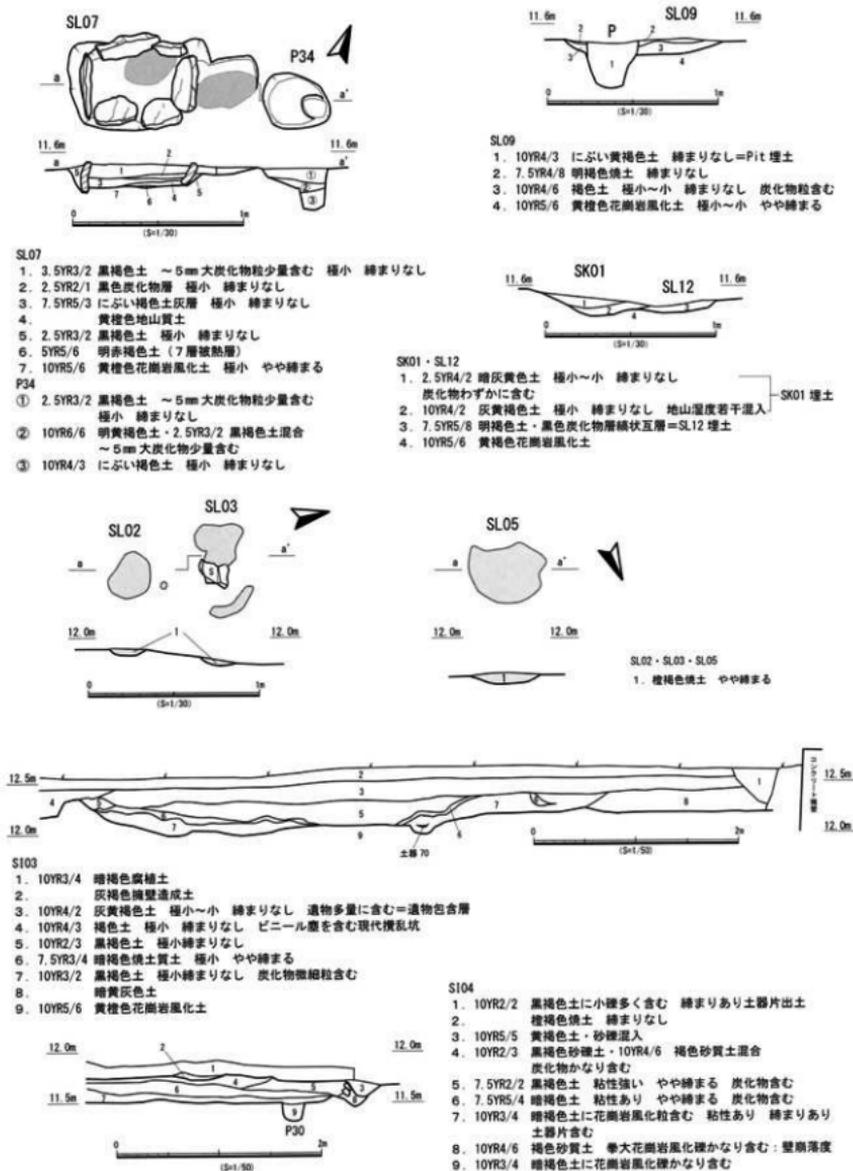
SI03・SL01 SI02・03は、石囲炉（SL01）を伴う竪穴建物跡の痕跡を精査する過程において、平面的に壁溝の一部を検出し、調査区南壁面の土層観察において竪穴壁面の立ち上がりを確認したこととで認識・把握した遺構である。

まず、SI03の竪穴壁面の立ち上がりは、調査区南壁面の土層断面で確認することができた。一方、埋土と遺物包含層との判別が困難であり、遺物包含層として埋土を掘削し遺物を取り上げたことから、平面的には竪穴壁面立ち上がりを明確に把握することができなかった。また、北東側には複数の遺構が重複していることから、その規模・形状は明確ではないが、直径5m程度の隅丸方形に近い円形の竪穴建物跡になると推定される。これに付随する遺構として明確なものは、北壁寄りに位置する石囲炉（SL01）である。SL01は、直径80cm程度の八角形石組の北側に50cm×30cmを測る平面が長方形になる組石が取り付く複式炉となる。石組みの背面には一回り大きな掘り方があり、後述するSI02・04の埋没後に掘り込まれていることを平面精査の中で確認している。炉石に使用されている石材は、風化が著しい花崗岩と節理が発達した結晶片岩系である。いずれも厚さ7cm程度の板状で、炉内に面した部分は被熱の影響により赤化している。八角形石組の南側の断面皿状の落ち込みには、中央部に地山質の花崗岩風化土を埋土とするピットが1個あり、SL01掘り方と同じ埋土の上面がレンズ状に赤化している。断面精査中に埋土7層から出土した70は、頸部から口縁部外面は平滑で、高さのある隆帯で区画文を施す。胴部は地紋の縄文があり、頸部に3条の沈線文と懸垂文を施した大木8a式の深鉢である。また、後述するように、包含層として取り上げた土器類には、大木7a式から大木8b式までが混在している。

SI02 SI03の床面では、直径30cm前後のピット、溝状遺構（SD02）を検出した。SD02は幅20～40cmで、検出し得たのは約1.2m分である。調査区南壁面での土層堆積状況の観察においては、SI03



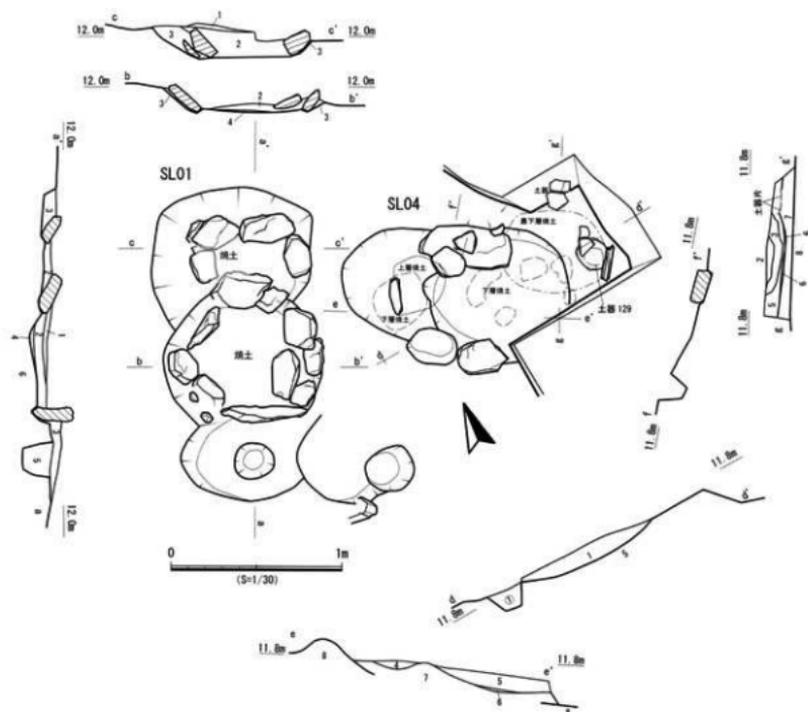
第19図 Ⅲ区 S102~S106平面図、S103~S106断面図



第20図 Ⅲ区 SL02・SL03・SL05・SL07平面図・断面図、S103・S104・SK01・SK09・SL12断面図

には壁溝や遺構の重複が認められない。また、SI03の壁溝とするには位置的に不自然であることから、SD02はSI03とは異なる堅穴建物跡（SI02）の存在を示す壁溝と判断した。

SL04・SL05 中央や南寄りには、石囲炉（SL04）が位置する。SL04は、重複するSI03を構築するにあたって炉壁の主たる石材が抜き取られているものの、①焼土層が3層あること②わずかに残る石材が上下に重複していること③その主軸方位が異なることから、2回以上改修されたと考える。最下層の炉底面の東端では、深鉢底部（40）が埋め込まれた状態で出土したほか、その上層の埋土中からは土器（37～39・41）が出土している。40は底部径13.2cmを測り、直立気味に立ち上がる胴部は、内外面共に平滑に仕上げられている。大形破片で出土した41は底部が欠損するものの、口径20cm・器高28cm程度になる。肥厚させた口縁部外面は、沈線に囲まれた区画内を短い斜線で充填する文様帯となり、大木7a式に相当する。小片ながら施文手法から38は大木8b式、39は大木7b式に相当する。



SL01

1. 7.5YR2/1 黒色炭化物層 極小 締まりなし
2. 7.5YR4/6 褐色土・5.YR4/6 赤褐色焼土混合
3. 2.5YR3/3 暗オリーブ褐色土 極小 締まりなし
4. 2.5YR4/2 暗灰黄色土 極小～小 締まりなし
5. 5YR5/6 明赤褐色焼土（6層被熱硬化面）
6. 2.5YR5/4 黄褐色花崗岩風化土

SL04

1. 10YR4/4 褐色シルトに2～10mm大花崗岩風化粒混入 粘性弱い 締まりあり
 2. 7.5YR3/3 暗褐色土 極小 締まりなし
 3. 5YR5/8 暗黄褐色土 極小 締まりなし
 4. 5YR6/8 褐色焼土 極小 締まりなし
 5. 10YR3/3 暗褐色土 1～5mm大褐色焼土・炭化物粒を含む
 6. 5YR5/6 明赤褐色焼土（8層被熱層）
 7. 10YR3/3 暗褐色土 炭化物細粒を含む
 8. 10YR5/6 黄褐色土 極小 やや締まる
- ① 1層に黄色砂粒多量に含む・炭化物混入なし＝伊石抜き痕

第21図 Ⅲ区 SL01・SL04平面図・断面図

さて、SL04がSI04に伴うと仮定すると、堅穴壁面に近接していること、主軸がほぼ壁面と平行することから、その仮定は否定される。一方、SL04の北側1.5～2mに位置する直径20～30cm・厚さ4cm程度のレンズ状に堆積する焼土遺構（SL02・03・05）と共に、SI02の床面標高とほぼ一致することから、SI02に付随する施設であると判断する。SL05からは、平底で内外面共に平滑に仕上げた深鉢底部（36）が1点出土している。以上のことから、SI02は、石囲炉と地床炉を組み合わせて利用した直径5m前後の円形の堅穴建物跡になると推定される。

SI04～SI06・SL07 SI04～SI06は、遺構検出時は見かけ上、埋土の範囲が短軸5.5m程度、長軸10m以上の長楕円形を呈しており、ロングハウスになる可能性を想定した。しかし、①南側壁面の平面が異なる円弧の連続となること、②床面の壁溝に連続性が認められないこと、③埋土堆積状況の観察から切り合い関係が認められること、④石組炉・地床炉に層位的な重複関係が認められることから、SI02・03を除く少なくとも3棟（SI04～SI06）の堅穴建物跡が重複していると判断した。

平面長方形を呈する石囲炉（SL07）が中心に位置するのが、SI05である。主に南壁から西壁にかけては、幅10～15cm程度の壁溝（SD04～06）が伴う。堅穴南辺のSD06は、全体として壁面に沿って直線的にのびているが、東端はやや北に向かって湾曲しており、長径約6m・短径5m程度の楕円形になると推定される。石囲炉（SL07）は、厚さ6cm程度の薄い板状の結晶片岩系の炉石6個を60cm×40cmの長方形に並べ、炉内には約15cmの灰層堆積が残る。その直下には硬化はしていないものの赤化した焼土面があり、炉石の炉内に向いた面は被熱により赤化している。

SL07の南側、SD06際の床面から若干上位において、石器2点（S3・4）が出土している。S3は、長さ13.7cm・刃部幅5.7cmを測るやや小型の磨製石斧である。S4は、長さ35.4cmを測る断面隅丸長方形を呈する石櫛である。表面はかなり風化して脆弱であり、明瞭な加工痕は見られない。

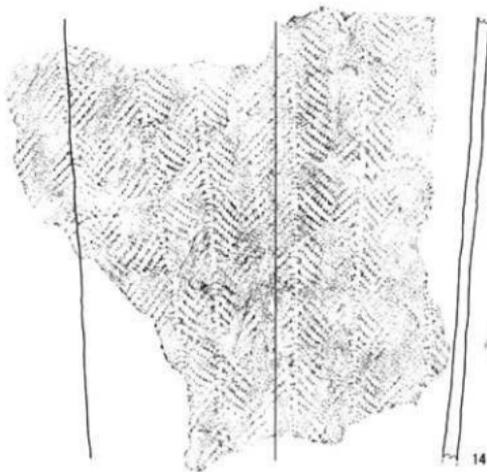
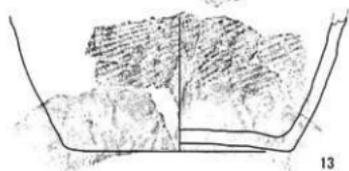
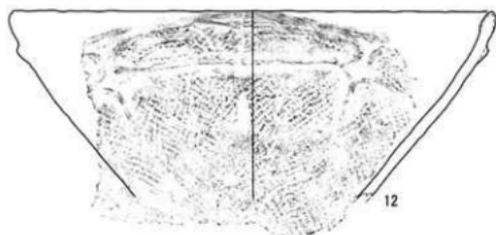
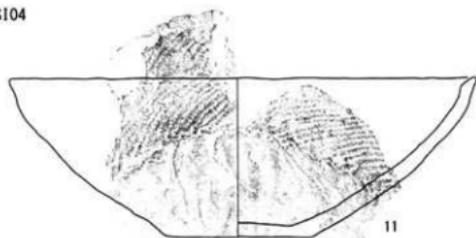
SL06・SL08～SL11・SK01 SI05の東側には、地床炉（SL08～11）あるいは石囲炉の残骸である可能性がある土坑（SK01）を持つSI06、西側には地床炉（SL06）を伴うSI04が重複している。SI05は、直径6m程度の円形を呈し、北側は削平されており確認はできない。床面で検出したP13・15・21・22は、南側壁面沿いに並んで配置されているように見える。SI04の土層断面の観察から、平面的には約10cm北側に拡張、層位的には約20cm上位に別の壁溝及び床面が認められ、ほぼ同位置で建て替えられていることになる。西側壁際には直径30cm程度のピットの2重に配列しているように見えるが、SI04とSI05のいずれに伴うかは判別できない。SI04の床面で検出した地床炉（SL06）は、直径1m程度の範囲に厚さ1cm未満の被熱赤化面が点在する状態であり、明瞭な硬化面や炉石の抜き痕は認められない。

各堅穴建物跡の在り方からは、①SI05に伴うSL07の上層にSI06の埋土が堆積している②SI05・06の埋土を掘り込んでSI04の埋土が堆積している③SI02の床面高はSI04の床面よりも上位である④SI03に伴うSL01はSI02の埋土を掘り込んでいることから、SI05→SI06→SI04→SI02→SI03との変遷となる。

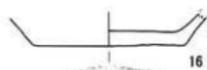
SI04～06出土遺物（11～41・S2～4） 明確に出土遺構を特定できるのは、前述したSL04・SL05に伴う縄文土器類（36～41）とSI05の床面やや上から出土した石器2点（S3・4）のみであり、その他については、土層断面観察用畦で区切った概ね2.5m区画毎に取り上げたものである。

11～14・31は、SI04の埋土に相当する層位・地区から出土した縄文土器である。11は口径27cm・底部径8.6cm・器高9.4cm、12は口径28cm・器高12cm前後になる浅鉢である。11は結節縄文を横位で施した地紋のみである。地紋を綾絡文が明瞭な縦位結節縄文とする12は、口縁部外面に隆帯による長楕円区画による文様帯を持つ。区画内は縄圧痕を加え、区画接合部の下方には短いY字態垂文を組み

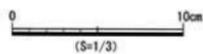
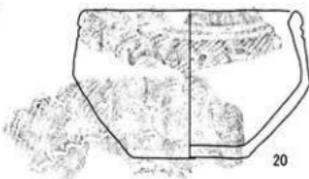
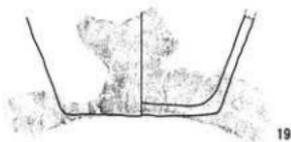
S104



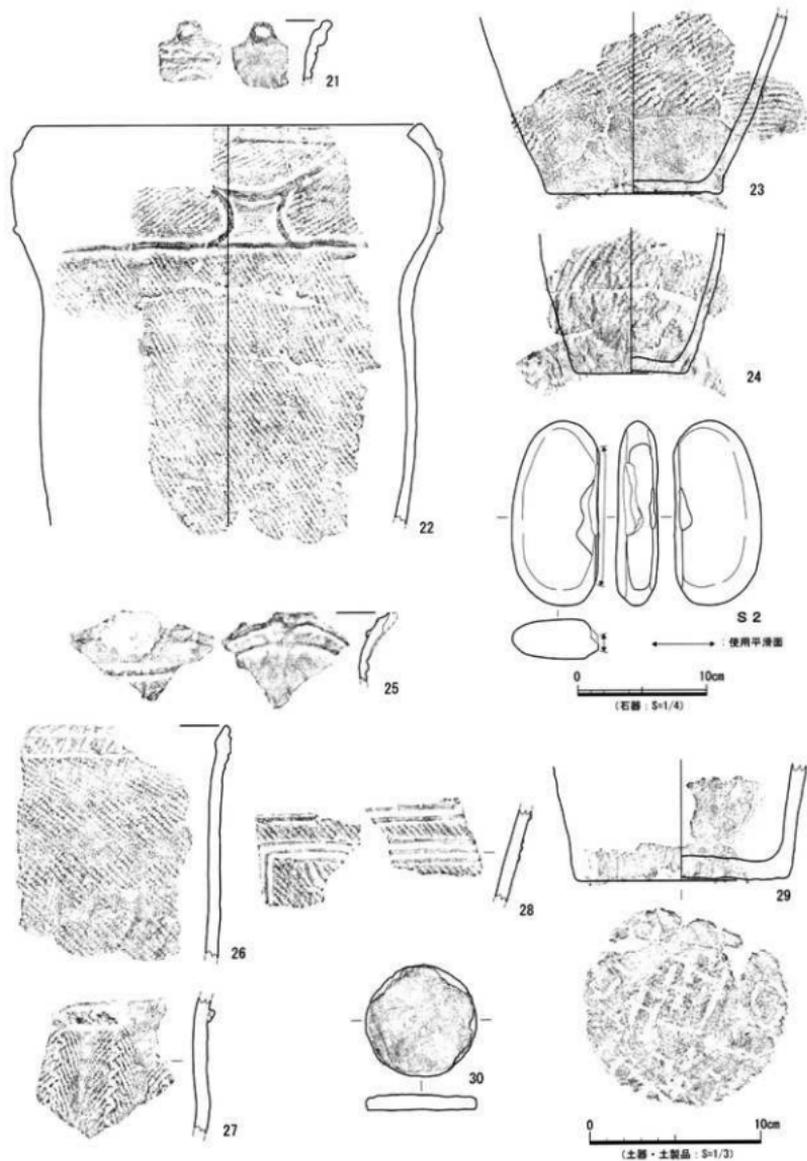
S106



S105 他

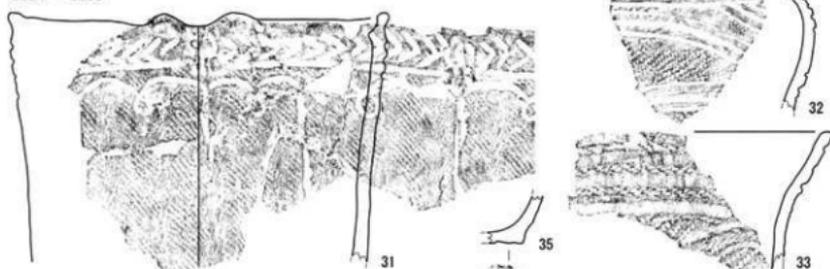


第22圖 Ⅲ区 S104~S106出土遺物 (1)

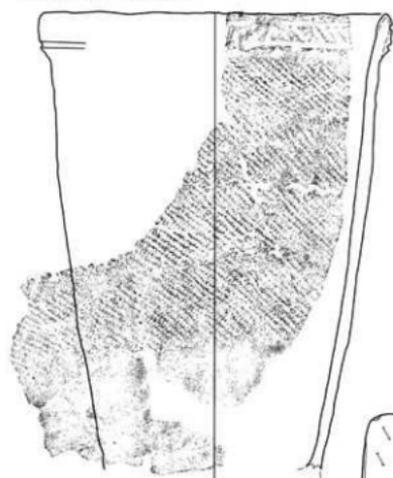


第23図 III区 S104~S106出土遺物(2)

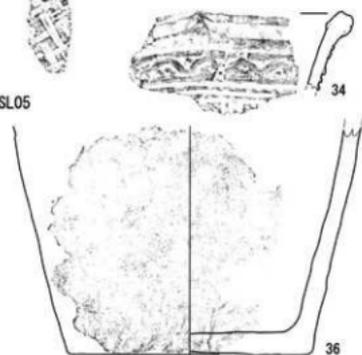
S104 ~ S106



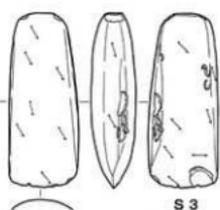
SL04 b - b' 下層4層



SL05



S105 床面やや上

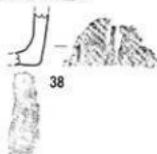


S 3
— : 磨痕
0 10cm
(石器 : S=1/4)

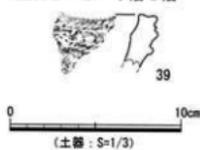
SL04 b - b'



SL04 炉内埋土



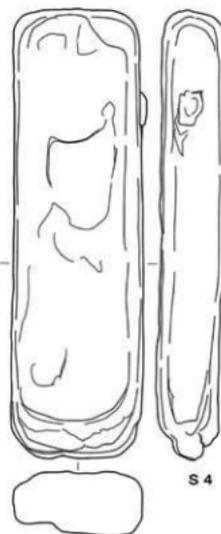
SL04 b - b' 下層3層



(土器 : S=1/3)

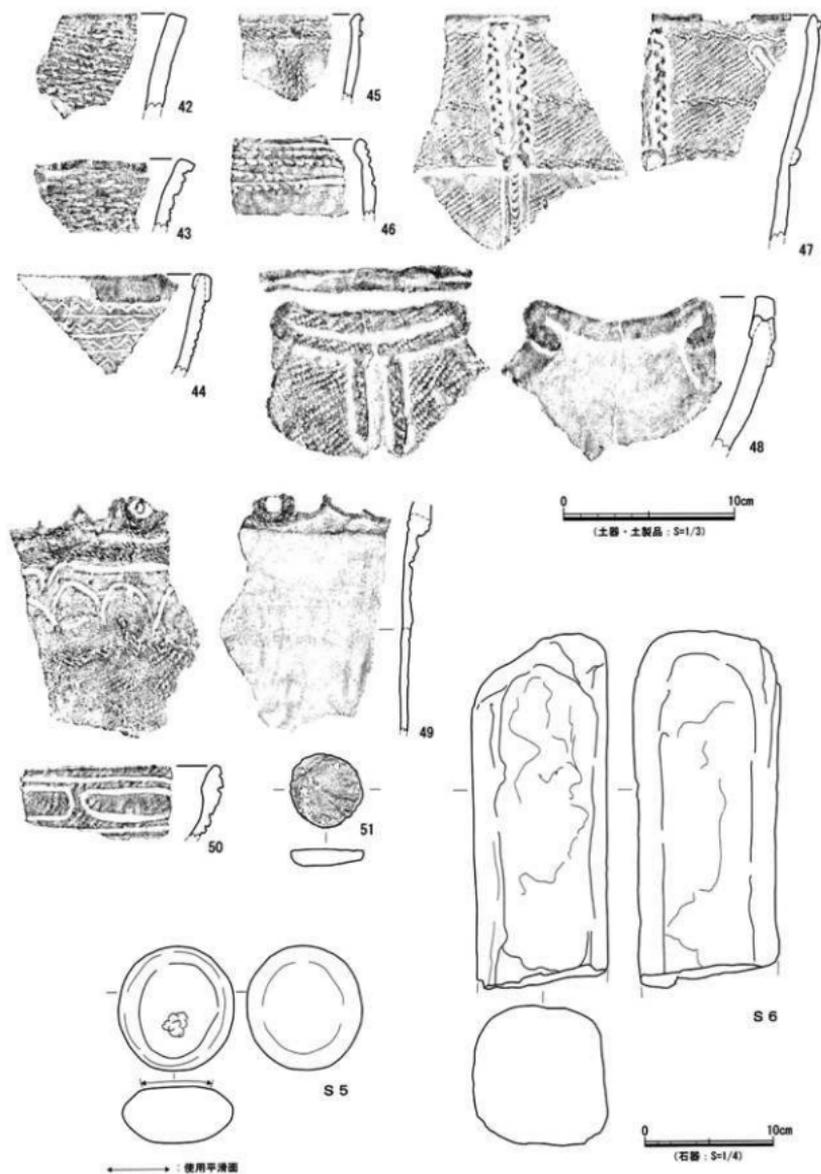


40



S 4

第24図 Ⅲ区 S104~S106出土遺物(3)、SL04・S105出土遺物



第25図 Ⅲ区 SX03出土遺物

合わせており、大木8a式に相当する。14・31は、胴部から口縁部までが直線的に連続する深鉢である。14の地紋は縦位結東羽状縄文、31は綾絡文が明瞭な縦位結節縄文とする。31は、口縁部外面に太めの沈線で横位羽状文を描き、口縁の2つの波形の谷間にあたる箇所は重弧文とする。さらに、口縁文様帯の直下には、太い沈線で一部をループ状にする連続円弧文を描いており、14でもその一部を確認できる。器形・文様の特徴から、大木7a式に相当する。

15～17は、SI06埋土からの出土となる。15は、内湾する口縁外面に縄圧痕・隆帯による区画文様帯を持つ。17はほぼ直立する胴部外面に、太めの沈線による円弧文・逆J字形文が描かれている。18～20は、遺構の重複が最も多い地区からの出土である。20は、口径12.4cm・底部径6.6cm・器高8.8cmを測る大木8a式の小形鉢である。地紋の綾絡文が明瞭な横位結節縄文は、口縁部には及ばず、2条の縄圧痕を施してその直下に連続円弧文を貼り付ける。

SI05・04のいずれかの埋土に対応する21～30・32～35の内、外反する口縁端部を肥厚させる34は、口縁部外面に粘土紐貼り付けによる鋸歯状文、直下に直線的な沈線文が認められる。施文手法などの特徴から前期に遡り、堅穴建物埋土からの出土した土器の中では、最も古相を呈する。35の底部外面には、幅5mm程度の材を用いた「四つ目編み」の網代圧痕が残る。

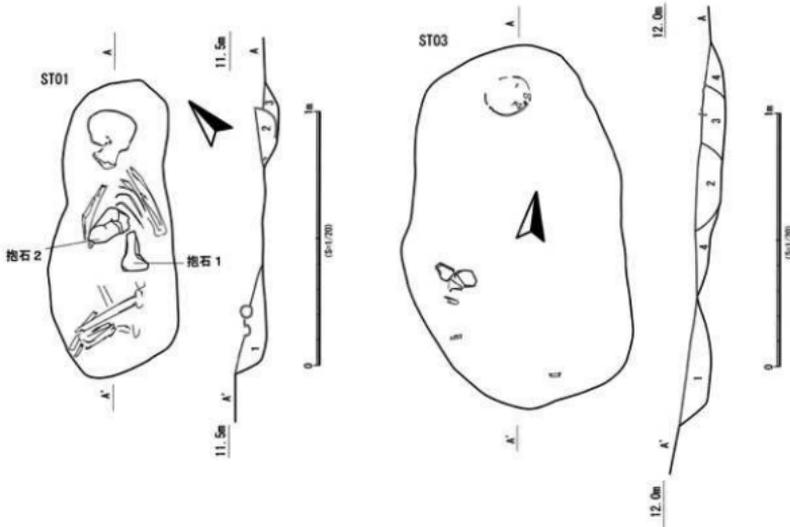
出土遺物からは、SI02～SI06は大木7b式から大木8a式の中で連続的に構築・使用・廃棄を繰り返していたとしか言えない。

SX03 SI02～06の北東側で検出した盛土状の遺構である。遺構検出時には堅穴建物跡の可能性が考えられたが、壁面の立ち上がりは不明瞭であり、底面にピットなどの付属施設もないことから、性格不明の遺構とした。

埋土からは、縄文土器(42～51)・石器(S5・6)が出土している。土器類は、縄文時代前期大木2b式(42・43)が小片で含まれているが、主体は縄文時代中期中葉で、大木7a式(47・48)・大木7b式(45)・大木8a式(50)の時期幅が見られる。51は、深鉢の胴部破片を再利用した直径4.2cmの土製円板である。S5は平滑面が見られる直径9cmの扁平な円礫である。S6は断面が一辺10cm前後の隅丸方形を呈する30cm以上の長さになる石棒である。明確な加工痕は認められないが、表面は全体にやや風化した石材節理が浮き上がっている。この他、人骨を含む動物遺存体の小片が出土している。

ST01～ST03 Ⅲ区は、北側ほど後世の造成・攪乱による遺構の削平が顕著であり、堅穴建物跡についても全形を確認することができなかったが、平面的にはSI05・06の堅穴内にあたる位置でST01・02を検出した。さらに、SI02の北辺部近くの床面と同一面でST03を検出した。いずれも、人骨が残る土坑墓である。ST01は、長軸方向が北からやや東に振れる長軸115cm×短軸50cm・残存深さ10cm程度の長楕円形の墓坑である。かなり脆弱な状態であり、頭骨については顔面がほとんど残っていないものの、頭を北に向けた上半身仰臥状態で、手足を屈折させた屈葬であることが確認できた。腹腔上からは、抱石と考えられる幼児頭大程度の風化花崗岩礫2個、砂岩質礫1個が出土している。ST01の東約50cmで検出したST02は、65cm×55cmの不整形な楕円形を呈する浅い皿状の土坑であり、腰及び腕の可能性が高い人骨の碎片の散布は認められたものの、規模・形状については原形を留めていない。ST03は、長軸方位が北からやや西に振れる長軸160cm×短軸80cm・残存深さ7cm程度の楕円形の墓坑である。人骨はほとんど消滅しているが、僅かに残る瓢箪形の痕跡からST01と同様に頭部を北に向けた屈葬である可能性が極めて高い。

ST01～ST03が僅かに残る堅穴建物跡(SI06)の埋土直下の検出であること、ST01の北東に人骨・獣骨の碎片が集中し石棒(S6)が出土した盛土状遺構(SX03)があることなどから、これらの土坑墓は堅穴建物に先行し、住居域に転換する際に整地・整理したと考えられる。



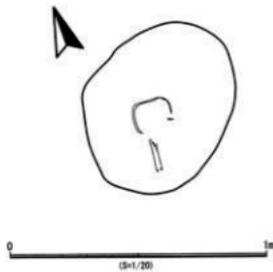
ST01

1. 10YR4/6 褐色シルト・10YR3/4 暗褐色シルト混合
準大花崗岩礫かなり含む
2. 10YR2/3 黒褐色弱粘性シルト 締りなし
3. 7.5YR5/6 明褐色砂質シルト 締りなし

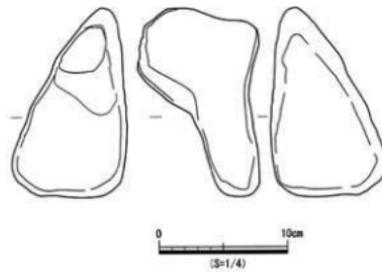
ST03

1. 10YR4/3 黄褐色シルト・10YR4/2 暗褐色土混合 締りなし
2. 10YR5/4 にぶい黄褐色砂質シルト 締りなし
3. 10YR4/3 暗褐色シルト 粘性あり
4. 10YR5/1 黄褐色砂 締りなし

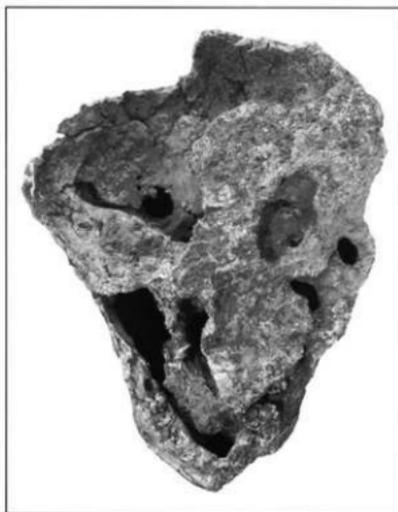
ST02



ST01 出土抱石 1



第26図 III区 ST01～ST03平面図・断面図、ST01出土遺物



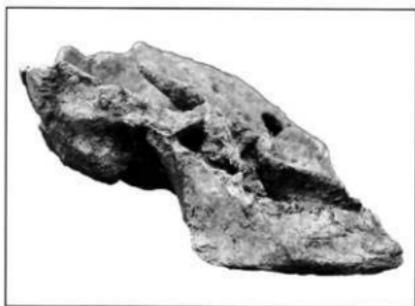
頭骨前面



下顎骨前面



頭骨底面



下顎骨右側面

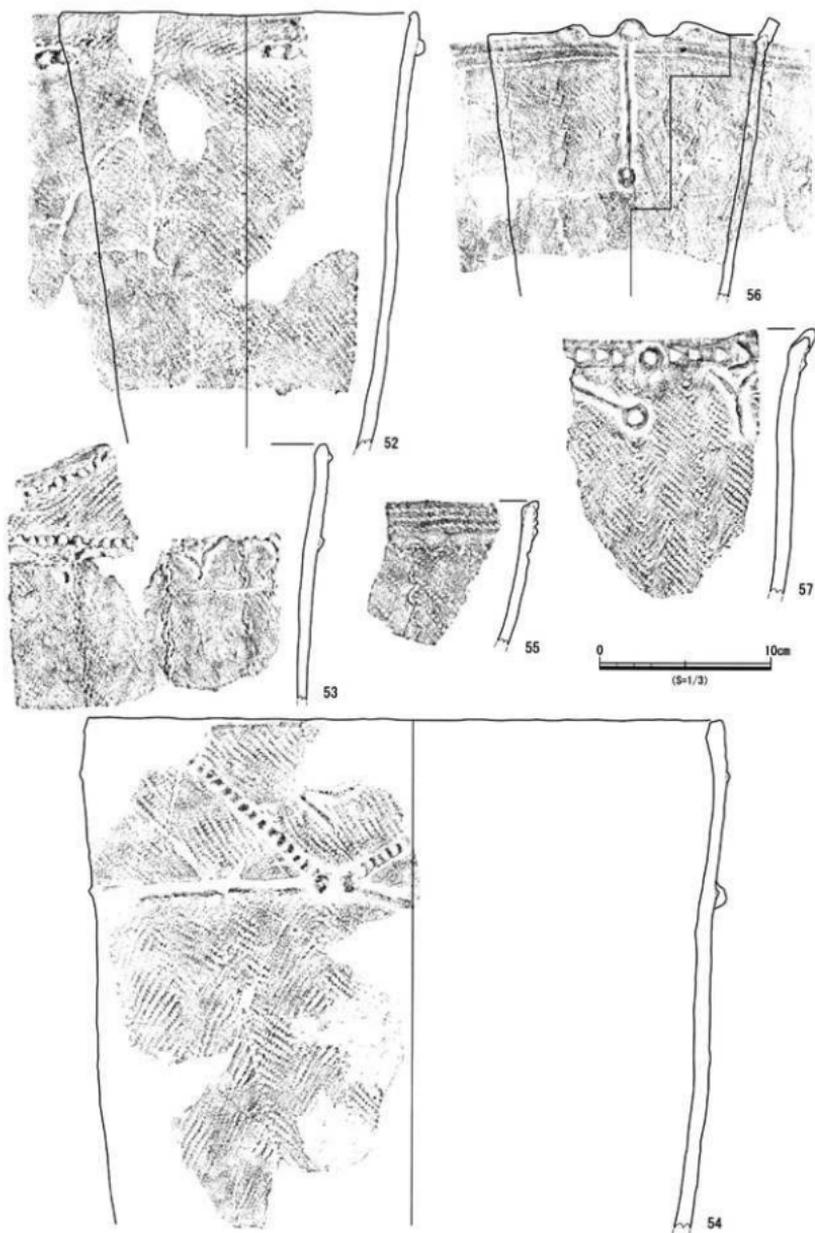
写真図版 8 向山遺跡 Ⅲ区 ST01出土人骨

ST01から出土した人骨については、動物遺存体同定の専門知識を有する生涯学習文化課文化財専門職員が人類学的な観察をしながらクリーニング作業を実施した。さらに、別途申請があり、新潟医療福祉大学奈良貴史・佐伯史子氏により人類学的調査が実施された。頭骨は顔面側が削平されており、両側の側頭骨外耳孔、後頭骨上項線より下が残りに（写真図版8-左上段）、比較的下顎骨の遺存状態が良好である（写真図版8-右下段）。大後頭孔から両側の下顎体の間に第1頸椎～第6頸椎までは、クリーニングの際に樹脂で固定した（写真図版8-左下段）。四肢骨は、脆く細片化しているため、同定できたのは大腿骨骨幹部片である。年齢については、下顎左の第3大臼歯が萌出完了していることから、成人段階に達している。第3大臼歯の咬耗が点状に象牙質まで達していることから、20代前半の可能性は低く（写真図版8-右上段）また、観察される頸椎に加齢性の骨増殖等を認めないので老年段階の可能性も低く、壮年期後半から熟年期と推定される。性別を推定するので有効な骨盤の骨が確認されていないので、頭骨の一部と大腿骨の粗線の形状から推定である。左右の側頭骨乳様突起は、比較的大きく男性的だが、男性ではよく発達する外後頭隆起は発達していないことから、女性の可能性もある。下顎骨の咬筋の附着面は、凹凸を呈し、外側方向に張り出している。また、大腿骨粗線部は、内側唇、外側唇とも明瞭で、かつ軽度の柱状性大腿を呈していて男性的である。下顎骨の頤付近は土圧で潰れているが、切歯は認められず、歯槽も認められないため、死後偶然に抜けたとは考え難く、抜歯の可能性がある。以上の観察から、性別については断定することはできないが、抜歯の痕跡のある壮年期後半から熟年期の人骨であると推定される。なお、安定同位体による食性分析と年代測定については、コラーゲンが十分検出されず測定は不能であった。

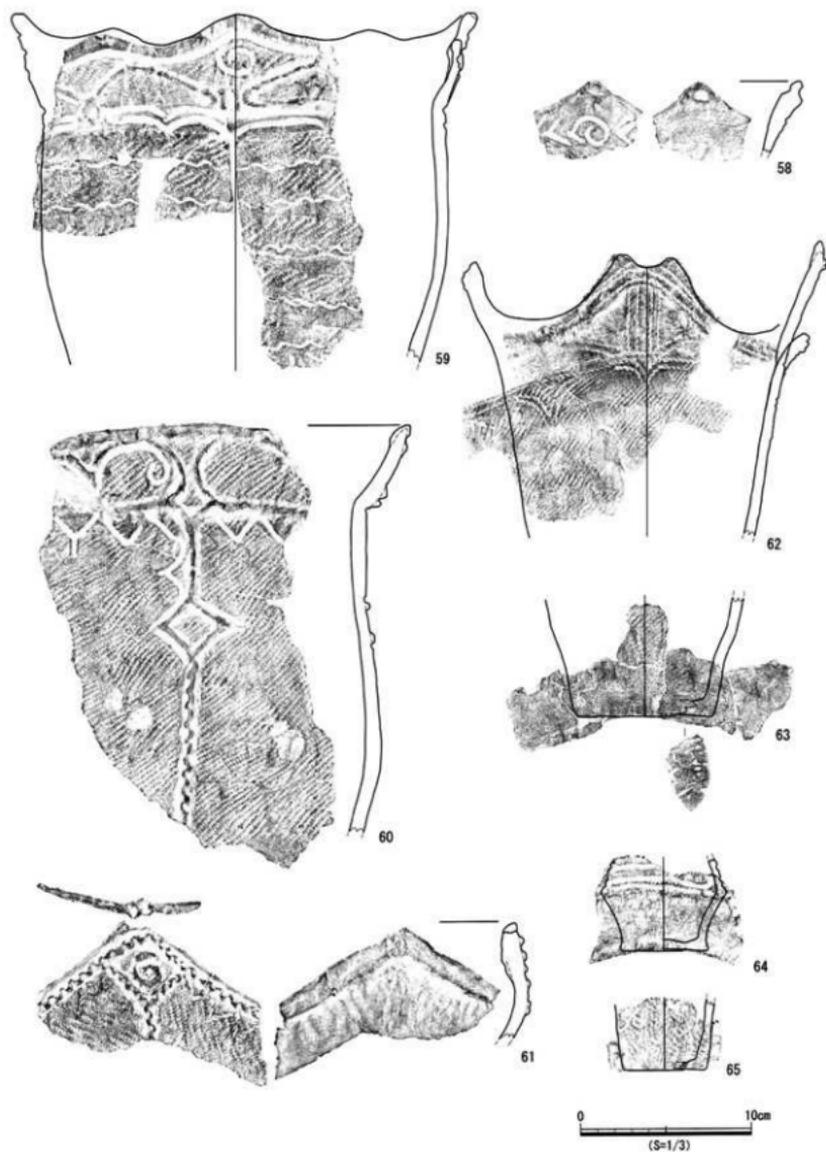
遺物包含層 出土品には、先述したとおり堅穴建物跡内埋土として取り扱うべきものも一部含むほか、調査前から表面採取できる状態であったこと、摩滅がほとんど認められないことから、直下の遺構を削平し造成した際に遺物包含層が形成されたと考えられる。また、北西突出部では、遺物包含層の一部に貝殻や獣骨などの細片が多く含まれ、その直下から磨製石斧が2点（S7・8）出土した。いずれも、明確な層位や掘り込みは認められず、当該部分の周囲は造成により既に削平・攪乱の影響を大きく受けていることなどを勘案し、貝塚があった可能性は否定できないものの、今回検出した状況から判断して二次的な堆積であると判断した。

52～65は、北西突出部を除く調査区西半から出土しており、本来はS102・03の埋土に伴うものも含まれる。長胴のバケツ形を呈する52は、縦位結節縄文の地紋が口縁部直下から施され、口縁部外面に指頭圧痕を加えた突帯が1条貼り付けられた縄文時代前期の大木2式となる他は、縄文時代中期中葉のおおむね大木7a・7b式が主体となる。器形としては、山形・波状口縁になるものを含めて胴部から口縁部まで直線的に立ち上がりバケツ形を呈するもの（54～57・62）、緩やかながら区字に屈曲する頸部を持ち、胴部がやや丸みを帯びるもの（59・60）、口縁部が内湾しキャリパー状を呈するもの（61）がある。地紋は、縦位結束羽状縄文（54・57）・綾格文が明瞭な縦位結節縄文（53・55・56）が主であるが、59の綾格文が明瞭な横位結節縄文のほか、60・62も横位施文である。文様は、口縁部に区画文・円弧文・渦巻文、直下にY字形・菱形などの懸垂文を、貼付け隆帯・沈線・縄圧痕で施す。特徴的な器形としては、底部径5cm・器高数cm程度になる小型品（64・65）がある。胴部最大径部が明瞭に屈曲する64は内外面共に平滑に仕上げ、65は地紋に縄文があるが、いずれも沈線で曲線文を施す。

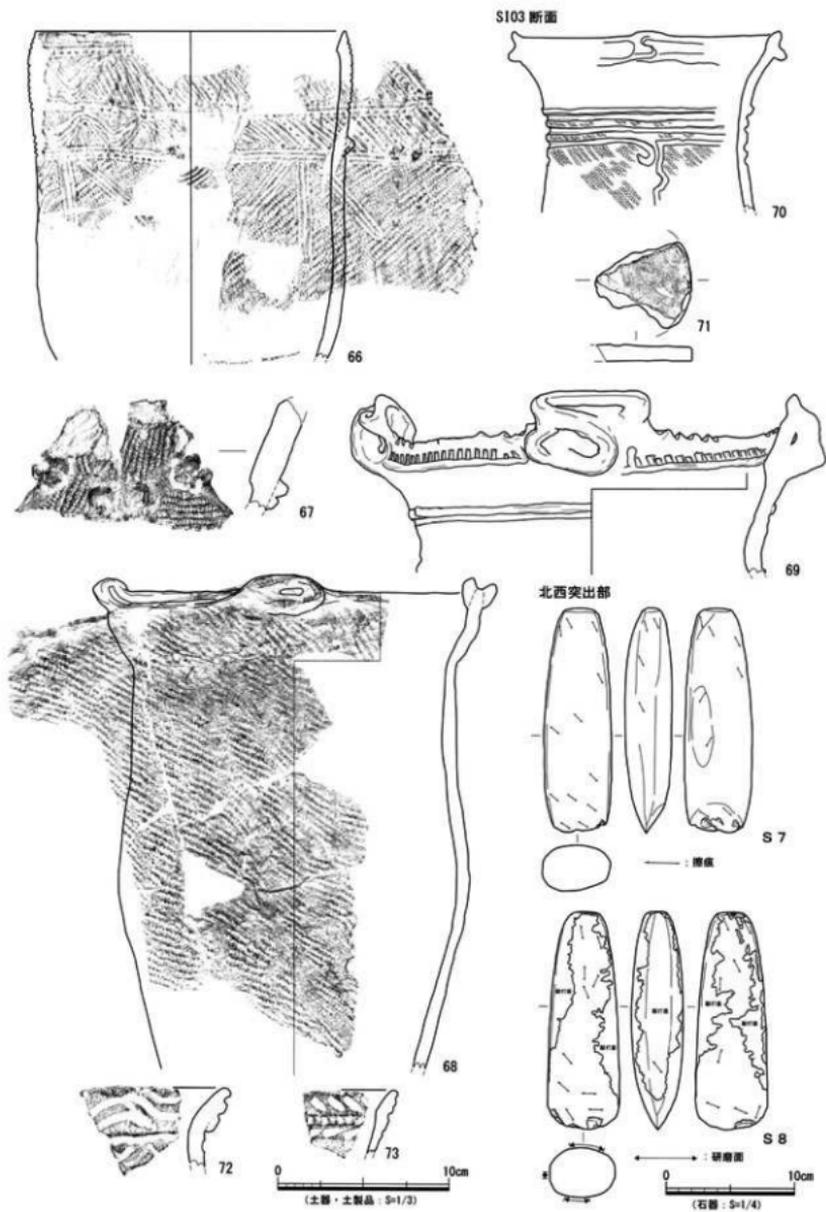
66～69・71は、調査区東半からした縄文土器である。66の3条1単位の沈線による文様は、口縁部には2段の直線文・波状文帯を施し、直下は个状の懸垂文の組み合わせである。68・69は、口唇部に太い粘土紐を貼り付けてS字状あるいは吸盤状の突起を持つ大木8a・8b式の深鉢である。直径7cm程度になる71は、胴部破片を再利用した土製円板である。



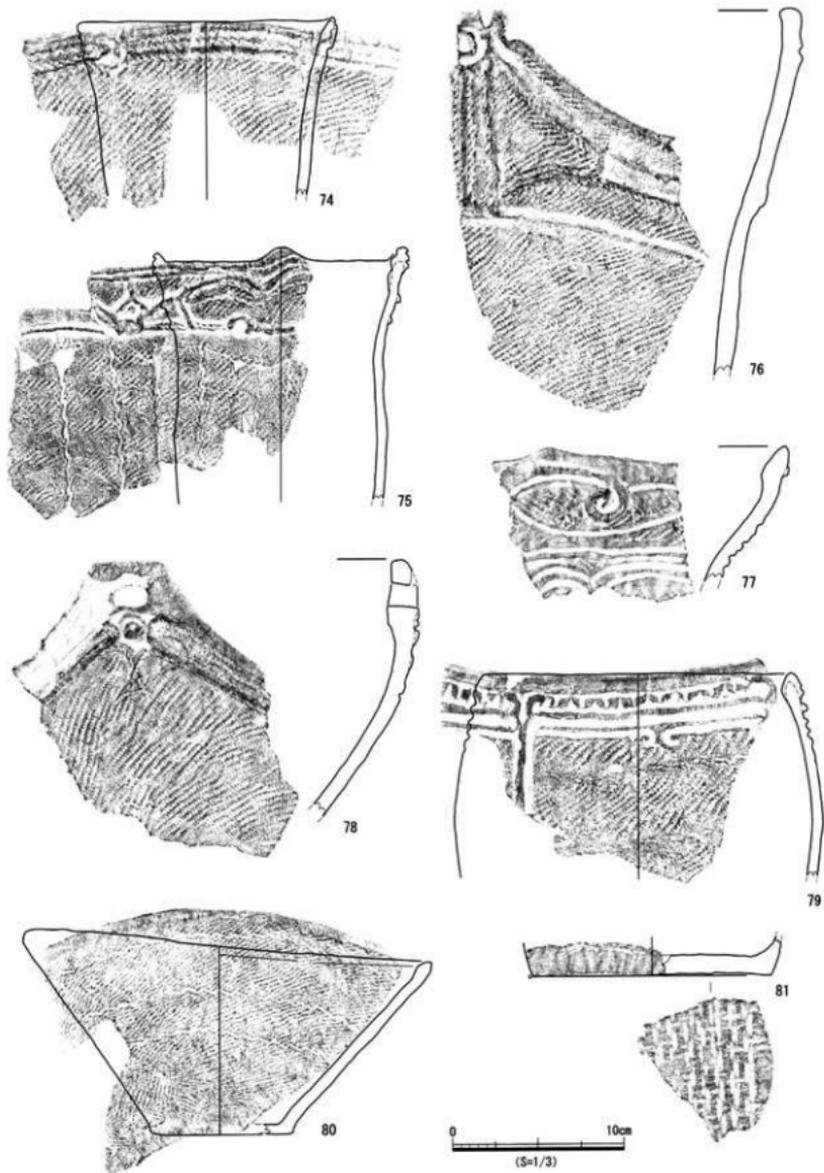
第27图 Ⅲ区西半部出土遗物(1)



第28図 III区西半部出土遺物(2)



第29圖 III区東半部、北西突出部出土遺物(1)



第30図 III区北西突出部出土遺物(2)

72～81は北西突出部からの出土であり、74～80はおおむね大木7b式に相当する。深鉢は、大きな山形口縁となるものを含め明確な頸部屈曲はないものの、楕円横位区画文を意識した明確な文様帯を持つ。施文手法は、隆帯・縄圧痕の組み合わせによる。78は山形口縁、79は椀形、80は播鉢形の浅鉢である。80は、地紋である横位結節縄文の綾絡文が文様効果を持ち、胎土・焼成・地紋などが、SI04出土の浅鉢11・12と極めて近似している。79も地紋は綾絡文が明瞭な横位結節縄文とし、口縁部外面には彫刻的な太い沈線で楕円形区画や渦巻き文を意識した直線文・懸垂文などが描かれている。81の底部外面には、目が詰まった網代圧痕が残る。

IV区の調査結果

調査対象地の東半部にあたるIV区は、調査区のはほぼ全域に家屋・蔵・風呂・便所などが建てられていたため西側半分においてはその攪乱によって遺構がかなり破壊されていたものの、堅穴建物跡1棟(SI01)、土坑4基(SK02・07～09)、ピット25個(SP01～25)のほか、縄文土器・石器素材・動物遺存体が多量に含まれる落ち込み(SX02)を検出した。また、調査区東約1/3は、東及び北に向かって緩やかに落ち込んでおり、この堆積土上層に遺物包含層が形成されていることを確認した。

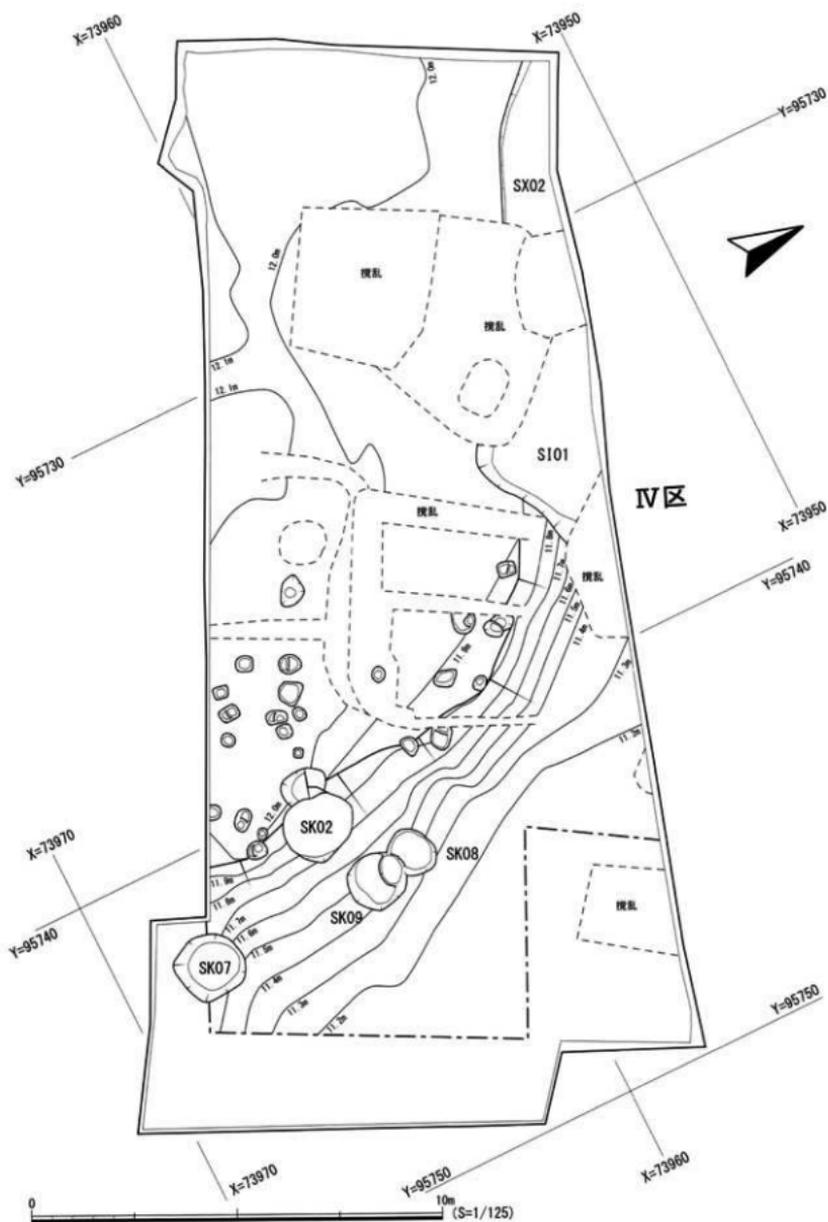
ピット まず、IV区で検出したピット類は、埋土が灰黄褐色砂質系で一辺20～30cm程度の隅丸方形系と黒褐色系埋土で直径30～50cm程度の円形あるいは楕円形の2種類に分類できる。明瞭な出土遺物は認められないが、形状・埋土の特徴などから、前者は古代以降の掘立柱建物跡、後者は縄文時代の堅穴建物跡に伴う柱穴である可能性が高いと判断される。

SI01 調査区北辺は特に攪乱が重複しており遺構としての把握が困難であったが、炭化物と共に縄文土器片や硬質頁岩の石器素材剥片など高い密度で出土することから、平面的な精査を行ったところ、一部であるが堅穴建物跡の可能性のあるSI01を検出した。後世のゴミ穴などによる攪乱が著しく、床面が拳～人頭大以上の風化花崗岩礫を多量に含む地山層となることから明確な床面及び炉・柱穴などは確認できなかったが、おおむね直径5m程度の円形もしくは隅丸方形に近い平面形を呈すると推定される。

SI01の黒褐色系埋土からは、縄文時代中期中葉にあたる大木8b式の縄文土器(83～97)、石器類(S9～14)に加えて素材剥片が出土している。

縄文土器は、深鉢・浅鉢のほか、少なくとも5個体分の小形品が出土している。口径29cmとなる83は、肥厚させた口縁部外面が顎状に大きく突出し、太い沈線で横位の楕円形文・蕨手文を描く。胴部は、3条1組の沈線で描いた間に貼り付けた2条1組の低い隆帯で剣先文を持つ渦巻文を描く大木8b式でも古段階の特徴が顕著である。波形を呈する口縁部がほぼ直口となる84は、口縁部は3条の貼り付け隆帯のみになり、胴部の縦位に展開する2条1組隆帯文の内、蕨手文は2条沈線の1条隆帯となり、文様モチーフ・手法に簡素化の傾向が認められる。小形品(89～97)の内、92・96では3本1単位の沈線と2条1組の低隆帯による施文手法・意図が認められるが、90では2条1組の沈線でその間を磨く磨消縄文、89では1条沈線となる。85～87は、大木8b・8a式の浅鉢になる。

石器は、硬質頁岩製の石錐(S9・10)・磨製石斧(S11)・磨石(S12)・石皿(S13)・石錘(S14)である。30cm×40cm以上の大型品になるS13は、内面は使い込まれて中央部はかなり薄くなり、裏面には脚台の剝離痕が認められる。他の堅穴建物跡と異なる大きな特徴として、写真図版に提示するような石器素材となり得る剥片類が多く出土している。床面直上ではないことからSI01における石器製作を直接的に示す根拠にはなり得ないが、集落内においてもIV区周辺で行われていた可能性は高いと言える。



第31図 IV区遺構配置図

SK02 SI01の西側で検出した落ち込みで、縄文土器・石器剥片が出土し堅穴建物跡の可能性が考えられるが、建物基礎等による掘削・攪乱が著しく明確に形状・規模及び性格を明確に把握し得なかった遺構である。縄文土器は、SI01と比較すると破片は小さく、100・101のような大木6式、104・105のような大木8b式が混在している。硬質頁岩の剥片類の中で、**S15**は刃部調整が認められる資料である。

SK01・SK02 調査区東側で検出した直径1.5～2m前後になる円形土坑である。SK02は、落ち込み埋土であり、当該部分では地山層とほぼ同一面となっている黒褐色土層上面で検出し、西側はガラス片・ビニールゴミを含む現代廃棄土坑(SK01)に切られている。残存する深さは45cm程度と浅いが、上端での直径が1.7m・最大径が2mとなる断面フラスコ状の土坑である。埋土はほぼ水平に堆積し、炭化物が薄い層を成す部分もあり、壁際では迫り出した壁面の崩落の痕跡も認められる。埋土中からは、縄文土器(106～110)と磨石(**S16**)が出土している。106・107は、表裏縄文の特徴から、縄文時代早期末葉～前期初頭に相当する。また、109は大木6式に相当するなど、時期幅が広い土器が混在し、SK02の使用時期を明確に示す遺物はない。

SK07 調査区南壁土層断面精査時にその存在を認識した土坑であり、北側半分については底面部分をわずかに残すのみとなっていたが、調査区を南側に拡張して本来の遺構面で検出、掘削を行い全形の把握に努めた。その結果、SK02と同様に黒褐色土層上面を遺構検出面とする、断面フラスコ状を呈する土坑であることを確認した。さらに、SK07が埋没し上位が削平された後に、後述する遺物包含層が形成されていることも明らかである。埋土には縄文土器の小片・炭化物が若干含まれているが、時期が判明するものはない。

SK08・SK09 落ち込み斜面の地山層面で検出した、断面浅い皿状の重複する円形土坑である。落ち込み埋土と土坑埋土が極めて近似しており、地山層面での検出となったが、本来はSK02・07と同様に、少なくとも落ち込み埋土の黒色土層上面において検出すべき断面フラスコ状となる土坑である。

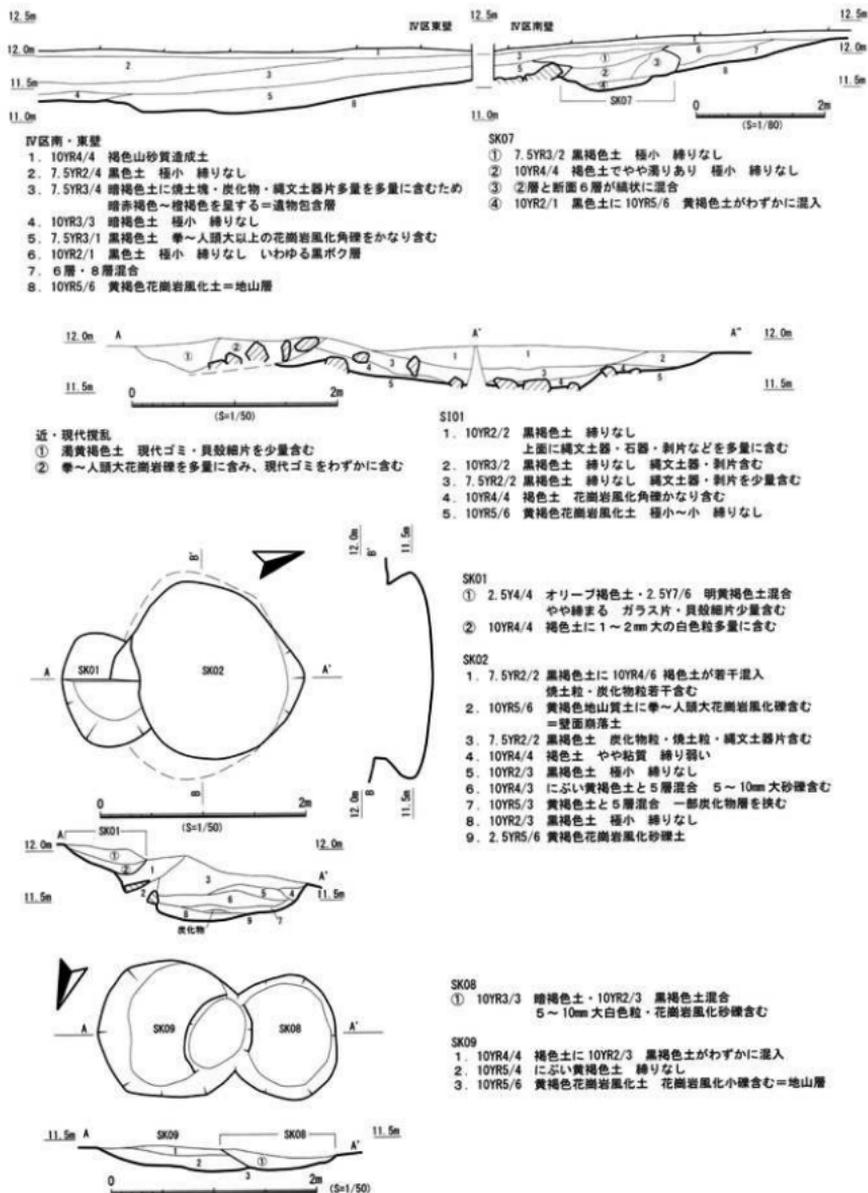
以上のように、SK02・07～09は、上部は削平されて本来の規模を推定することはできないが、堅穴建物跡であるSI01に関連のある貯蔵穴と判断してよからう。

遺物包含層 調査区の東端から北端の落ち込み埋土よりも上層に形成されており、鮮やかな赤褐色～橙褐色を呈する焼土・炭化物を含んでいることから、他の土層との峻別は安易である。出土した縄文土器(113～133)は、付着炭化物がそのまま残る摩滅のない大形破片が多く、119はほぼ一個体分がその場で押し潰されたような状態で出土した。

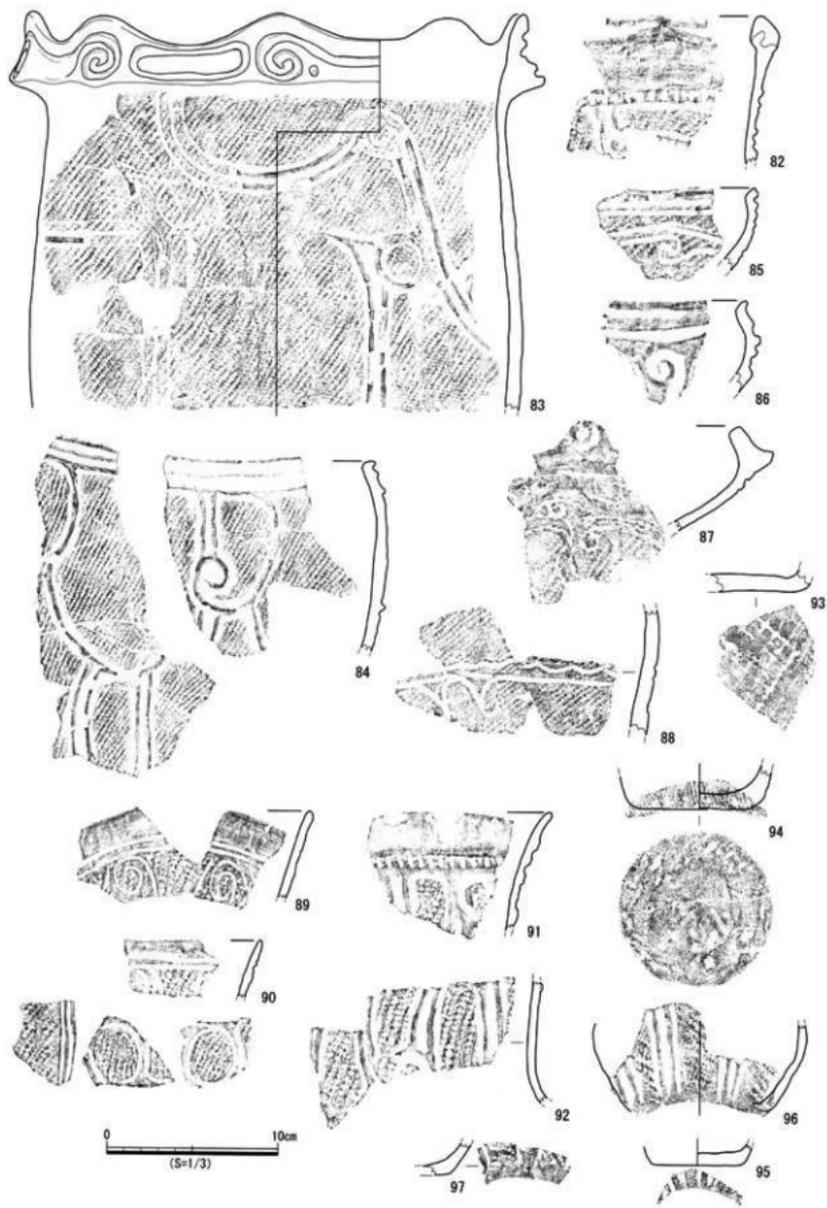
113～116は、口縁部だけでなく胴部も内外面共に条痕調整となる砲弾形になる縄文時代早期末の深鉢である。117・118は、外面と口縁部内面を縄文とし、118の口縁部外面には縄文痕が2条巡る。119～131は、縄文時代前期の大木2式に相当する。119は、胴部は内外面共に同じ原体による縄文を地紋とし、ナデにより平滑に仕上げた口縁部外面に縄文痕が3条巡る。口縁部外面は、縄文を残して文様を加えるもの(121・125～128)、縄文を施さずに文様を加えるもの(120・122・129～132)に2分される。文様は、縄文痕を巡らせる(120～122)ほか、刻み目・押圧を加えた貼り付け隆帯(125～131)及びこれら組み合わせになる。胎土・焼成が条痕縄文系土器類とは異なり黄灰色を呈する133は、特徴的な二枚貝の腹縁による施文手法から、縄文時代早期の物見台式に相当する。

石器類としては、硬質頁岩製の削器(**S17**)・磨石(**S19**)・石皿(**S20**)の他、浮子と考えられる軽石製品(**S18**)が出土している。

以上のように、IV区における遺物包含層は、直下で検出した遺構の時期よりもかなり遡る縄文時代早期末～前期前半の遺物によって構成されており、縄文時代中期の遺構が埋没した後、今回調査地に



第32図 IV区東壁・南壁(SK07)断面図、S101断面図、SK01・SK02・SK08・SK09平面図・断面図

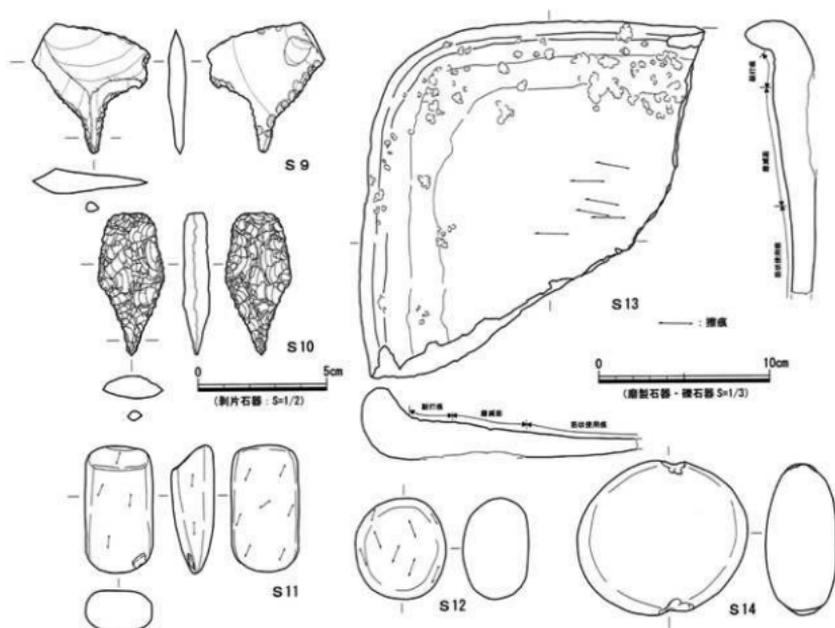


第33图 IV区 S101出土遺物 (1)

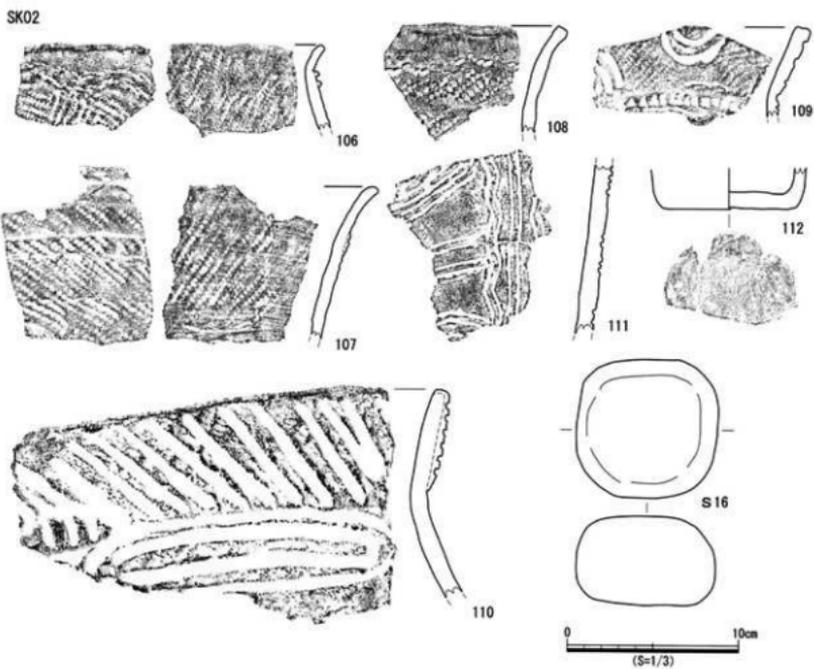
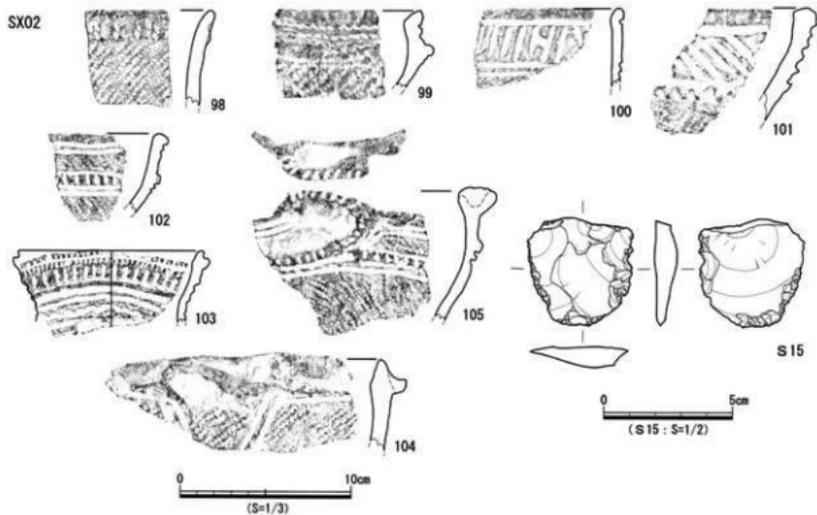
隣接する、より標高の高い丘陵地の縄文時代早期～前期の遺構を破壊した土砂による盛土造成により二次的に形成されたと考えられる。

まとめ

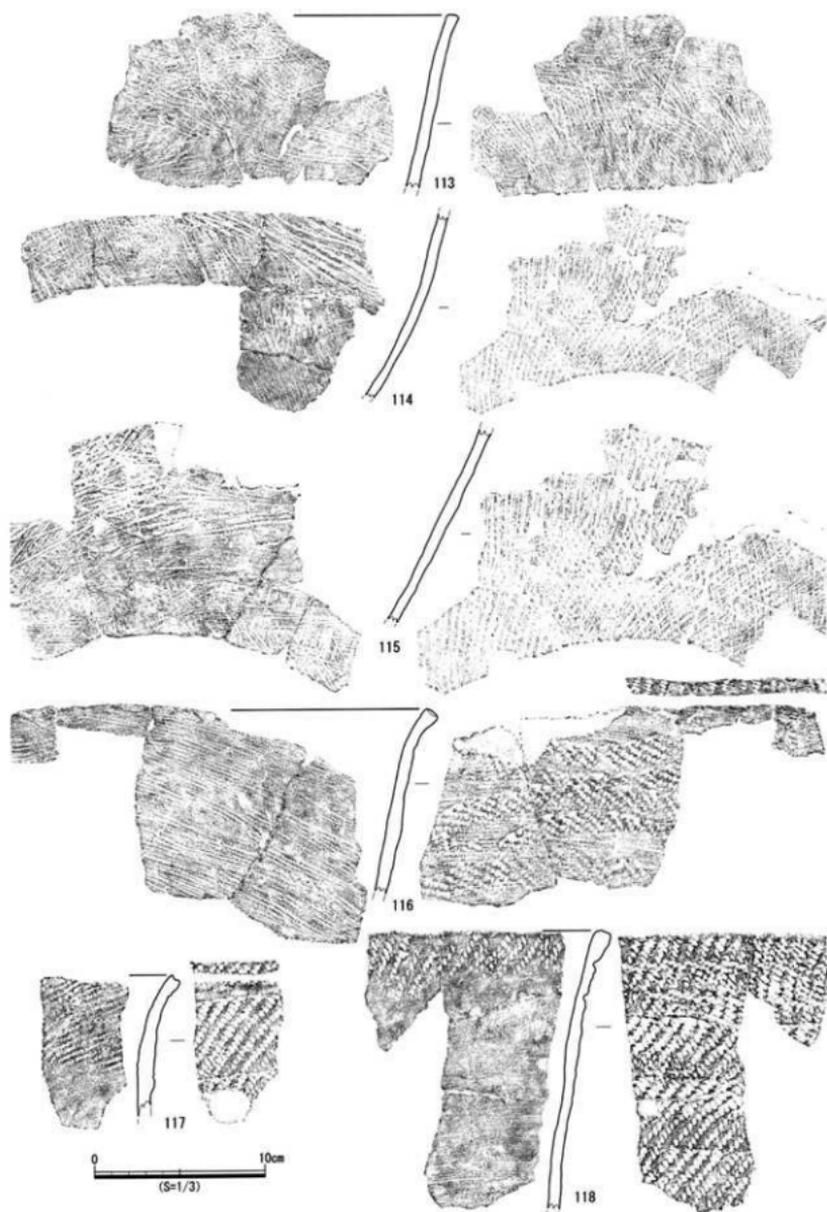
今回の調査では、向山遺跡の北側縁辺部における縄文時代中期の時期の住居となる竪穴建物跡・貯蔵穴や土坑墓の存在を明らかにすることができた。Ⅲ区では、土坑墓域を大木7b～8b式には住居域として利用し、ほぼ同じ場所で連続的に竪穴建物跡が改築されている実態が判明した。一方、Ⅳ区では集落内の石器製作地を示唆する剥片類が多量に出土したことも成果として挙げられる。さらに、この集落の前身が縄文時代早期に遡り、今回調査地よりも標高の高い部分に残されている可能性を示唆する資料を得ることができたことは、今後の向山遺跡調査や箱崎町白浜地区の歴史を考える上で大きな成果であったと言える。



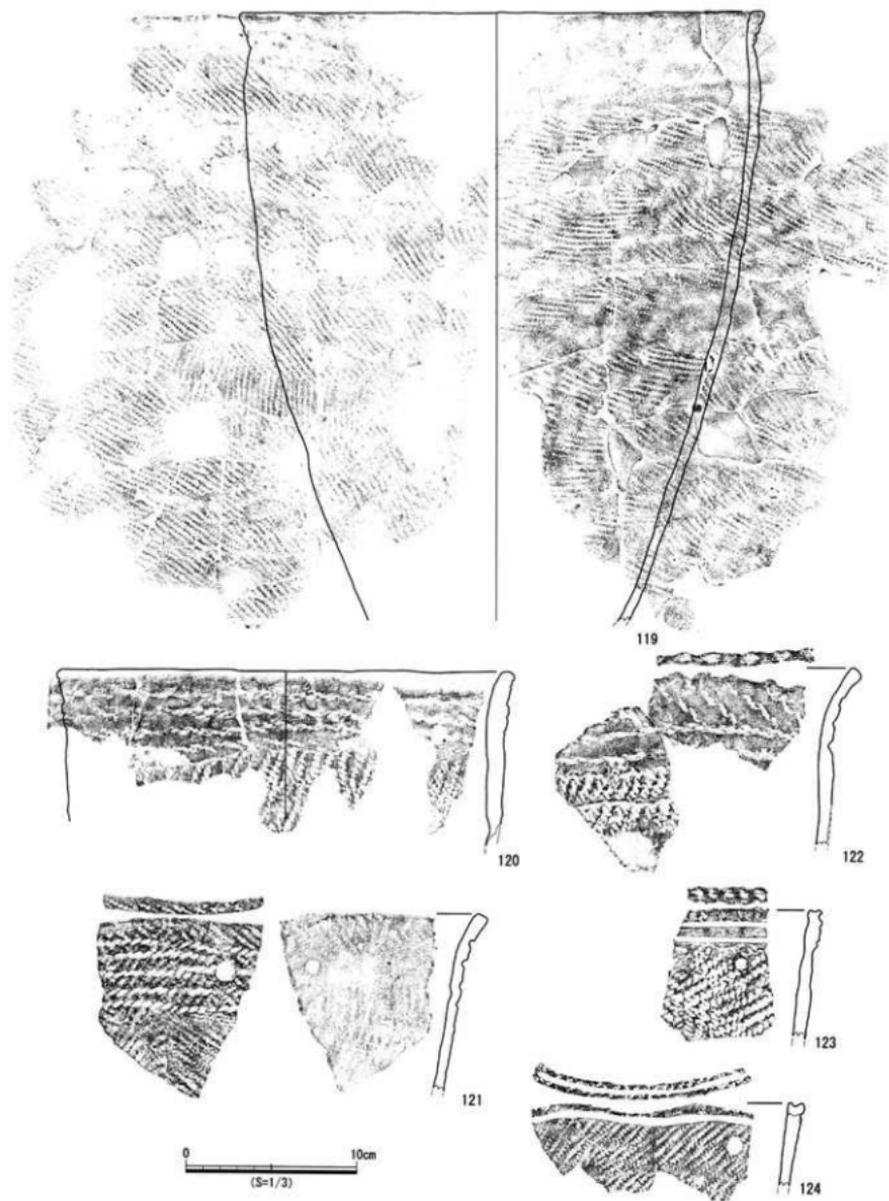
第34図 Ⅳ区 S101出土遺物(2)



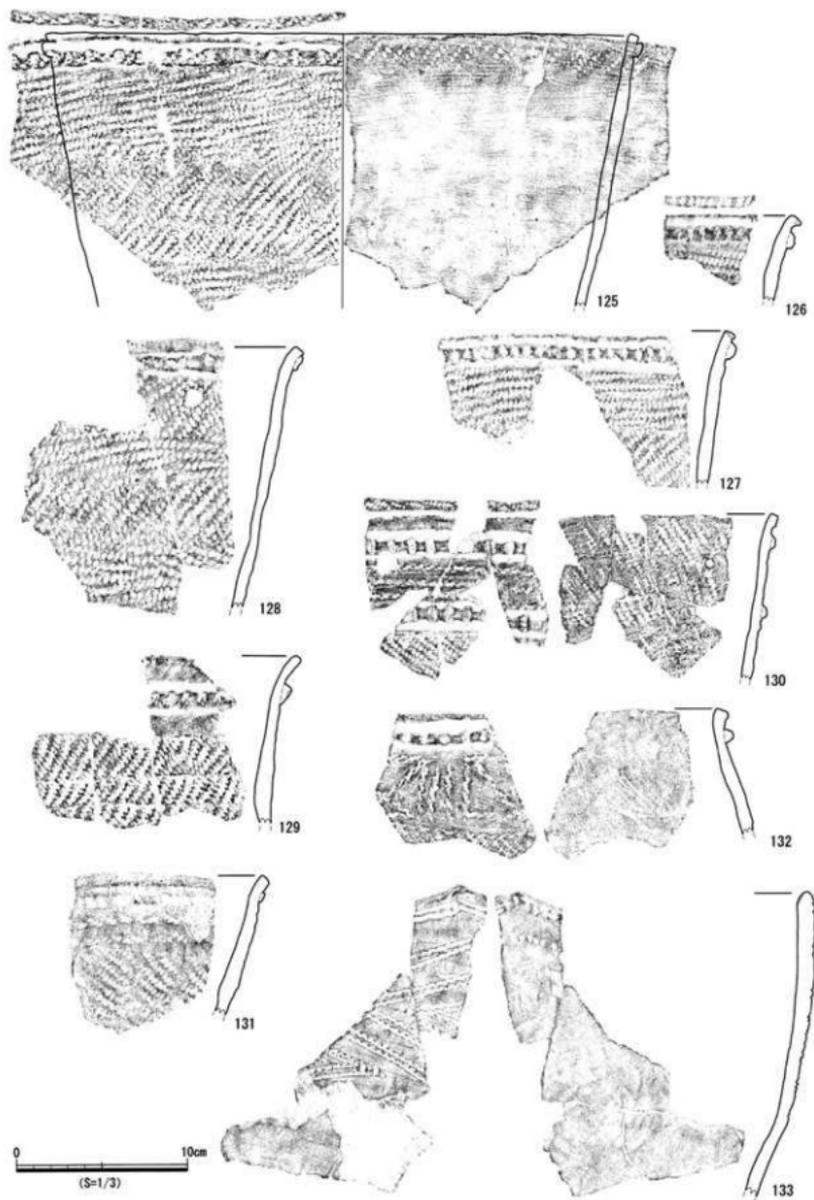
第35图 IV区 SX02・SK02出土遺物



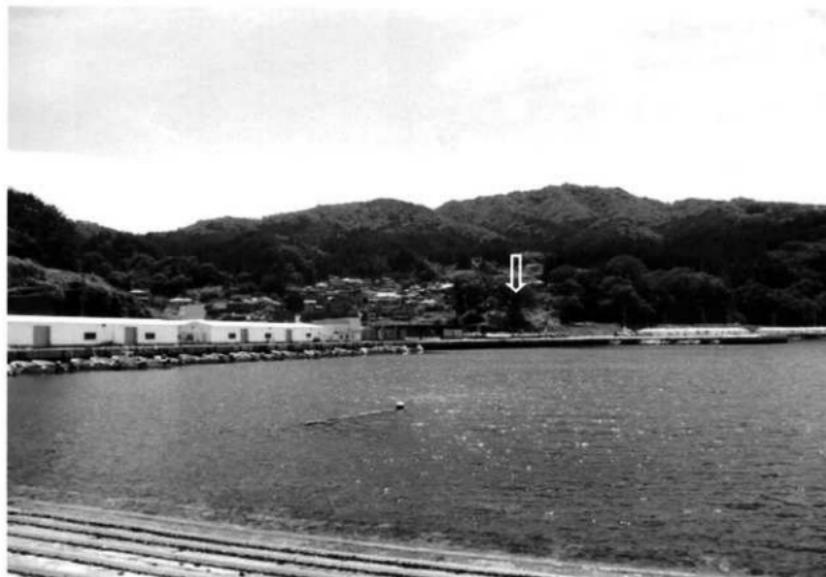
第36図 IV区遺物包含層出土遺物(1)



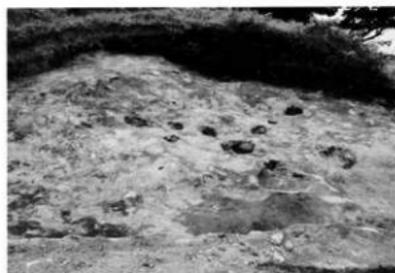
第37圖 IV区遺物包含層出土遺物(2)



第38図 IV区遺物包含層出土遺物(3)



向山遺跡遠景（北東から・矢印：調査対象地）



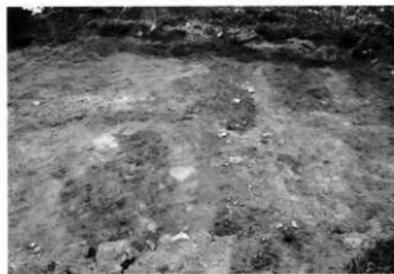
I区全景（東から）



I区-SK06・SP32~37（北西から）



II区全景（東から）

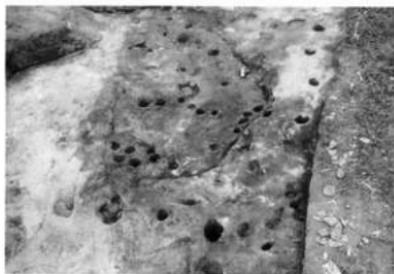


II区近代埋葬施設検出状況

写真図版9 向山遺跡 全景 I・II区



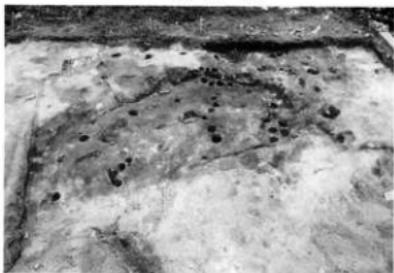
Ⅲ区全景（南西から）



Ⅲ区全景（西から）



Ⅲ区全景（東から）



Ⅲ区全景（北から）



Ⅲ区調査状況



III区-S104・SL01検出状況（西から）



III区-SL04上層完掘状況（東から）



III区-SL01半截状況（東から）



III区-SL04下層検出状況（東から）



III区-SL01炉底面検出状況（東から）



III区-SL04土器出土状況（北から）



III区-SL01石材除去後状況（東から）



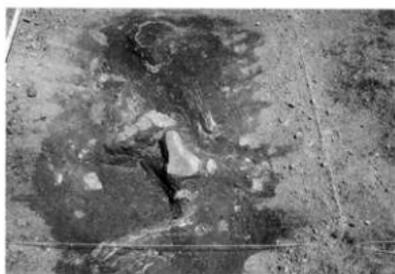
III区-SL07完掘状況（東から）



Ⅲ区-S105遺物 (S3・S4) 出土状況



Ⅲ区-S103・04床面検出・遺物出土状況 (北から)



Ⅲ区-ST01人骨検出状況 (南から)



Ⅲ区-ST01人骨検出状況 (西から)



Ⅲ区-ST01人骨検出状況 (東から)



Ⅲ区-ST01頭部付近 (東から)



Ⅲ区-ST02検出状況 (北から)



Ⅲ区-ST03検出状況 (東から)



IV区全景（東から）



IV区-SK02 土層堆積状況（南から）



IV区-SK02 完掘状況（北東から）

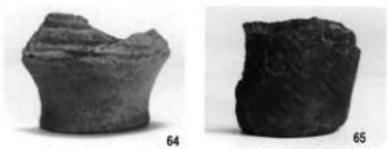
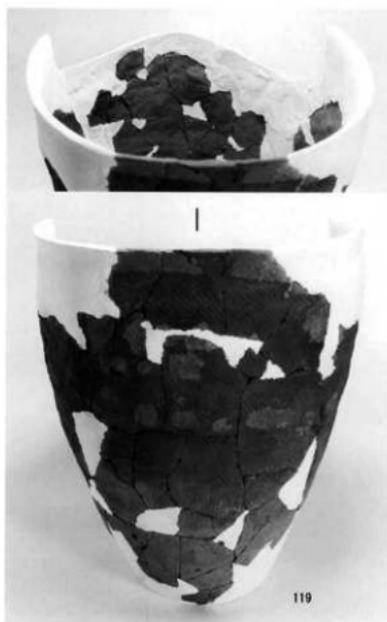
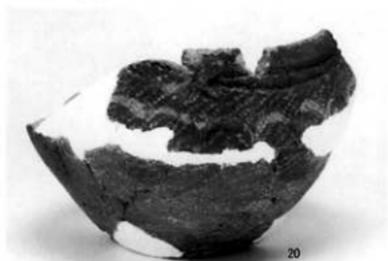


IV区-S101（南東から）

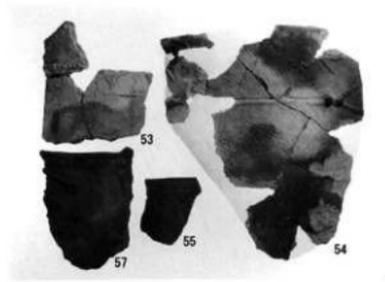
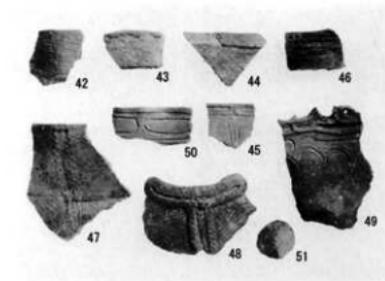
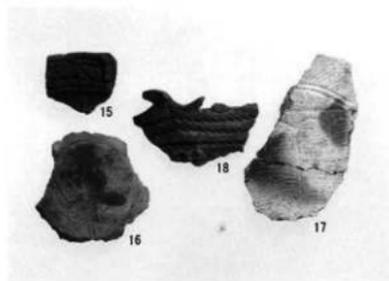
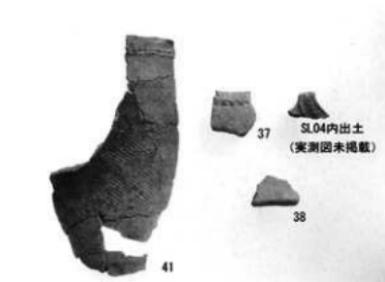
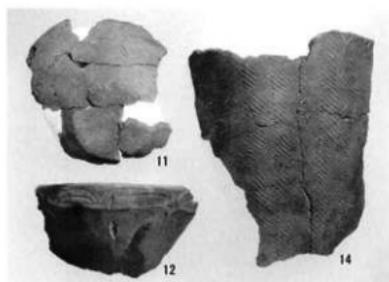
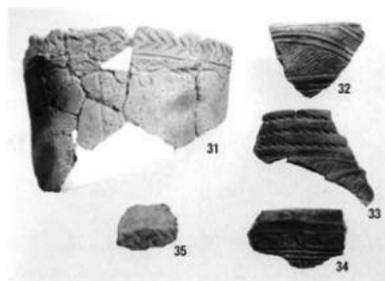
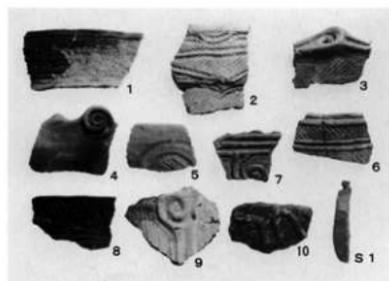


IV区遺物包含層 土器119出土状況

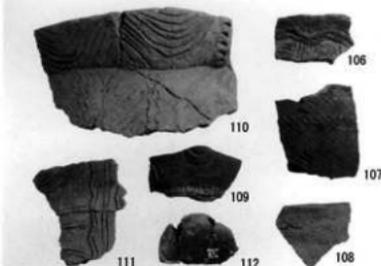
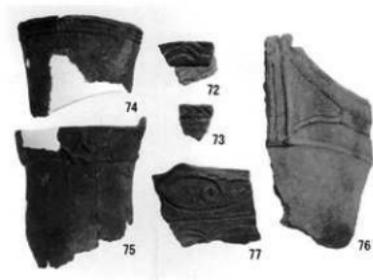
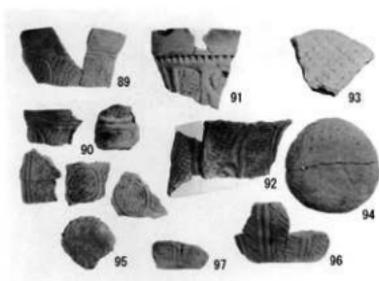
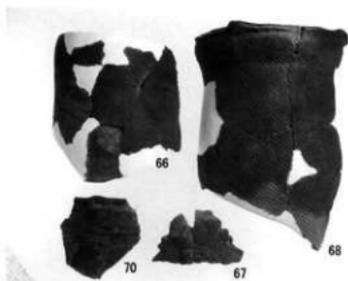
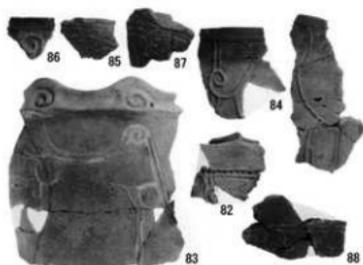
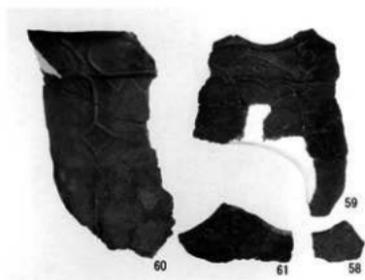
写真図版13 向山遺跡 IV区全景・検出遺構



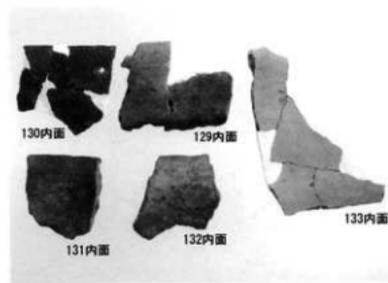
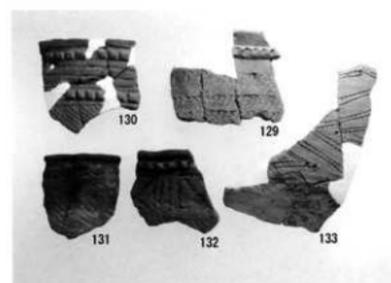
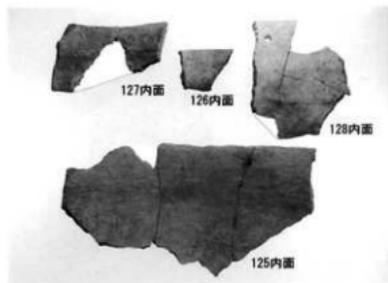
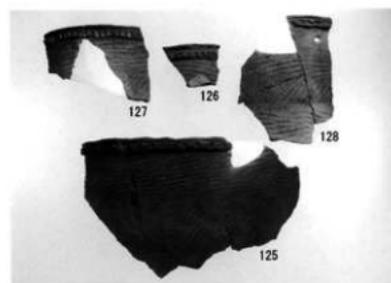
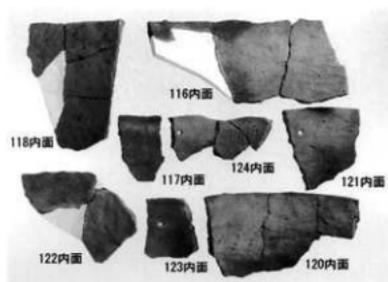
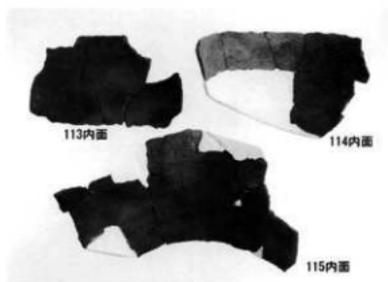
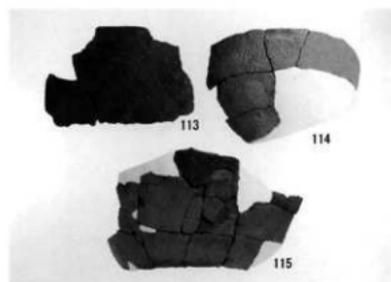
写真図版14 向山遺跡 出土遺物(1)



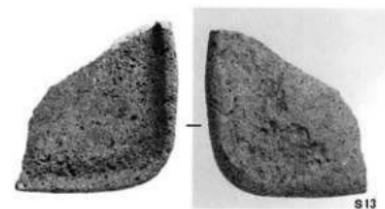
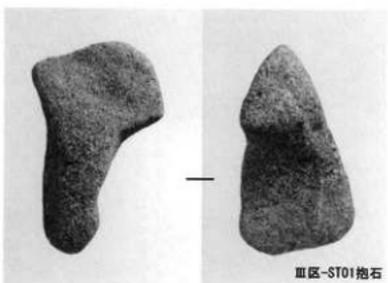
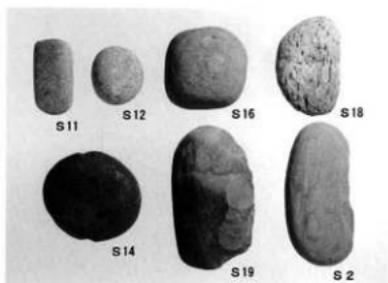
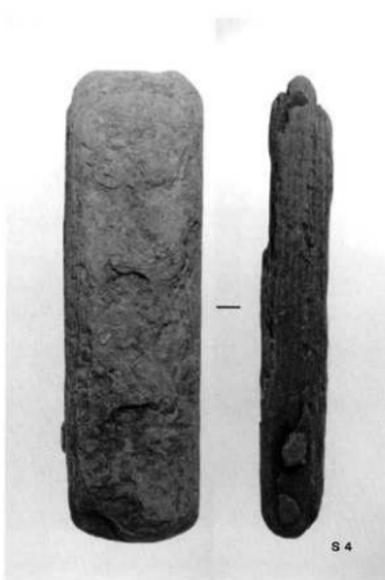
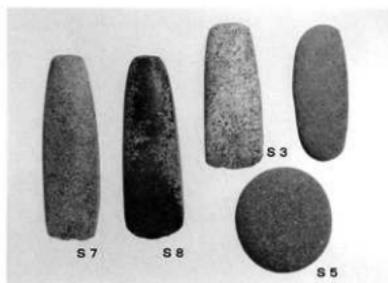
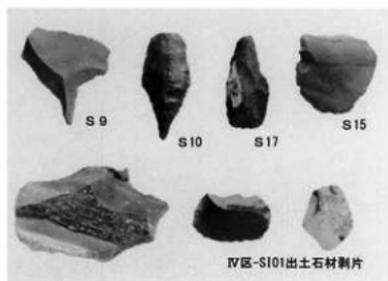
写真図版15 向山遺跡 出土遺物(2)



78同一個体

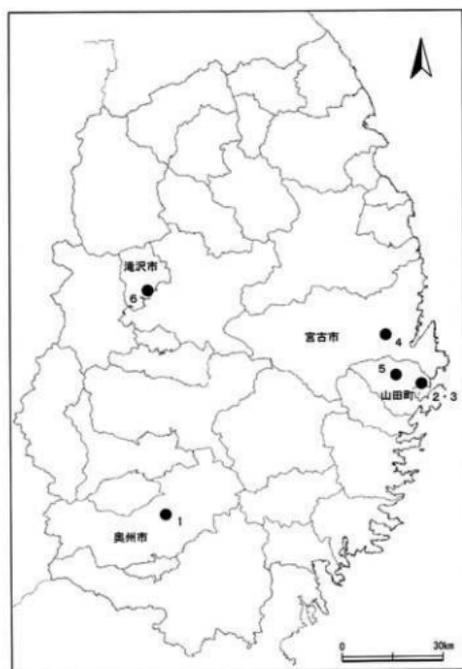


写真図版17 向山遺跡 出土遺物(4)



写真図版18 向山遺跡 出土遺物(5)

Ⅱ 試掘調査



- 1 町屋敷遺跡 (奥州市)
- 2 浜川目沢田Ⅰ遺跡 (山田町)
- 3 浜川目沢田Ⅱ遺跡 (山田町)
- 4 田鎮館跡 (宮古市)
- 5 馬越沢遺跡 (山田町)
- 6 大久保遺跡 (滝沢市)

第40図 試掘調査位置図

1 一般国道4号水沢東バイパス

町屋敷遺跡 (NE27-1029)

所在地：奥州市水沢区真城字町屋敷地内

事業者：国土交通省東北地方整備局

岩手河川国道事務所

調査期日：平成28年1月25日(月)～26日(火)

町屋敷遺跡は奥州市役所の南東2.9km、胆沢扇状地扇端部にあたる低位段丘面(水沢段丘相当)の段丘縁に立地している。国道4号水沢東バイパスが遺跡中央を縦貫する計画となったため、土地取得済の範囲について試掘を実施した。調査地の現況は宅地及び畑地・果樹林で、東西に走る現道で南北に分割される(便宜的に北区・南区と呼称する)。

北区は北側の宅地跡にコンクリートの基礎やタタキが残存していたため、その場所を避けてトレンチ7箇所を設定した(T6～12)。そのうちT12の地山面で柱穴4個(径30～40cm、掘り方は不明瞭)が検出された。その他のトレンチでは遺構は確認されなかった。遺物は出土していない。

南区はトレンチ5箇所を設定した(T13～17)。T13で柱穴17個を検出した。掘り方は径20～60cmの円形基調、柱痕は径20cm程度である。その配置から、南北棟の建物跡と推測される。また、T13・16で東西方向に延びる溝跡(幅1.7m)を検出した。この溝跡は建物跡の柱穴群と重複しており、それらより古い。T14・15では焼土各1基を検出している。付近は近代以降の家屋が建っていた場所であり、表土には建物基礎コンクリート片等が混入していた。付近の表土下には50cm程度の整地土が見られ、周辺は家屋建設の際に攪乱・改変されていると考えられる。焼土の検出面はこの整地層上面であり、新期(近代以降)に属する可能性が考えられる。各トレンチともに遺物は出土していない。

南北両区で確認された柱穴については時期不明であるが、柱穴の形態や柱間寸法から中世～近世に属するものと推測される。『水沢市史』によれば、当遺跡付近には正保年間から享保年間(1645～1718年)の70余年間に仙台藩御蔵場が置かれ、北上川岸には瀧台野河港が設けられていた、とされる。また、奥州市埋蔵文化財調査センターによる発掘調査では、蔵跡の可能性ある掘立柱建物跡が約30棟検出されている。今回調査で検出した柱穴は中世～近世のものとして推測されるが、この地域の歴史的背景から考えると御蔵場との関連性を否定できないところである。また、当遺跡の他地点の調査では縄文時代の堅穴建物跡も確認されており、今回試掘でははっきりしなかったが該期の集落跡にもなる遺構・遺物が存在している可能性もある。(平成28年度追加試掘調査実施)



第41図 町屋敷遺跡位置図



第42図 町屋敷遺跡調査位置図

2 主要地方道重茂半島線大沢～浜川目地区

地域連携道路整備事業

はまかわめざわたいちいせき

浜川目沢田 I 遺跡 (LG84-2393)

所在地：下閉伊郡山田町大沢浜川目地内

事業者：沿岸広域振興局土木部宮古土木センター

調査期日：平成27年6月18日(木)～19日(金)

浜川目沢田 I 遺跡は、山田町役場の東北東約3.6km、山田湾北岸に面する浜川目地区に所在している。遺跡は地区西側の丘陵尾根部から丘陵東裾の緩斜面にかけて広がるとされている。低位の緩斜面部については、集団移転事業にともなって発掘調査が行われた。

調査では、縄文時代の堅穴建物跡が検出され、多量の縄文土器(中・晩期)が出土し、中期中葉を中心とする海辺の集落跡が確認されている。

調査は道路整備事業に係るもので、調査地は遺跡北西部の丘陵尾根頂部の平坦面である。この平坦面はかつて開墾されて畑地として利用されていたが、その後植林されたらしく、現在は林となっている。調査時点では未伐採であるため調査地への重機進入が難しく、人力でトレンチを掘削した。畑を開く際に地形改変されているためか、全般に堆積土は薄く、平坦面では表土下で厚さ20cm程度のぶい黄褐色土(Ⅱ層)、次いで20cm程度の暗褐色土(Ⅲ層)、地山のマサ土(V層)、という層序となっている。なお斜面肩部では、Ⅱ・Ⅲ層が40～50cmと厚くなる。

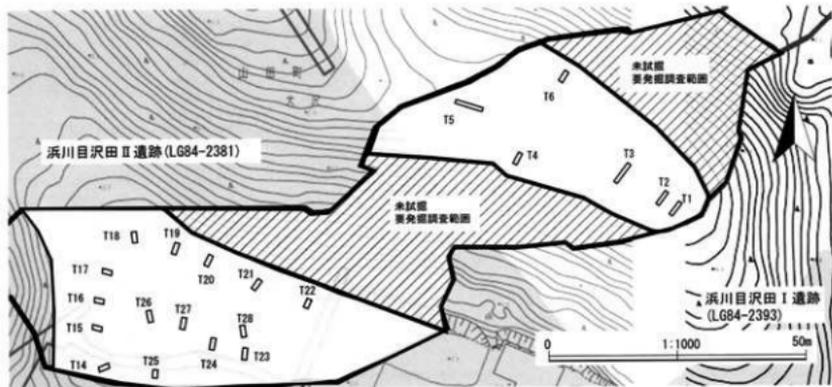
尾根先端部にT1～3を設定したところ、T2・3のV層面で濁った褐灰色(外側に淡黄色土が巡るものもある)の略円形の広がりそれぞれ3基検出された。一部で断ち割りを行ったところ、深さ50cm程で平坦な底面にあたり、壁は内彎している。検出面で縄文土器片が出土していること及び断面の形状から見て、上部を削平された縄文時代の袋状土坑(フラスコビット)と推測される。同様の土坑は、造成により削平されていたT5でも1基検出され、縄文土器と石器が出土している。一方、南北両側の斜面落ち際にT4・6を設定したところ、遺構は検出されなかったが、縄文土器片が出土している。出土遺物は、縄文土器片(特定できないが前期後半～中期初頃か)、礫石器である。

以上の結果から、工事範囲内に遺構(袋状土坑)・遺物が所在することを確認した。今回は人力による調査だったためトレンチを密に設定できなかったが、尾根頂部全体に貯蔵穴群が存在している可能性は高い。なお、宮古地域他遺跡の調査事例では、尾根上に貯蔵穴群、斜面部に堅穴建物が配置されるものがあり、斜面部分についても遺構の有無を確認する必要がある。

(平成28年度県埋蔵文化財センターにより発掘調査実施)



第43図 浜川目沢田 I 遺跡位置図



第44図 浜川目沢田 I・II 遺跡調査位置図

3 主要地方道重茂半島線大沢～浜川目地区
地域連携道路整備事業

はまかめめさわたに いせき
浜川目沢田Ⅱ遺跡 (LG84-2381)

所在地：下閉伊郡山田町大沢浜川目地内
事業者：沿岸広域振興局土木部宮古土木センター
調査期日：平成27年7月28日(火)～31日(金)

浜川目沢田Ⅱ遺跡は、山田町役場の北東約3.5km、山田湾北岸に面する浜川目地区に所在している。遺跡は地区西側の丘陵尾根部及び谷部にかけて広がる。今回の調査は道路整備事業に係るものである。調査対象範囲は遺跡中央の谷と西側の尾根頂部平坦面である。この平坦面はかつて畑地として開墾された後に植林されたらしく、現在は杉林となっている。

尾根頂部ではトレンチ13箇所を設定し人力でトレンチ掘削を行った。頂部平坦面では20～30cmほど掘削すると検出面であるIV層面に達し、堆積は浅い。畑地開墾により削平されたものと推測される。T4で土坑1基と溝跡1条、T11・12で土坑各1基、T10・13で竪穴建物跡各1棟が検出された。T4の土坑は径1.2mの円形を呈するもので、埋土は地山ブロックを含む黒褐色土である。深さは1.5mで、底面が張り出して壁がやや内彎していることから、袋状土坑と推測された。T12で検出された円形の土坑も同様のものである。両土坑ともに埋土から縄文土器が数点出土した。これらの土坑は縄文時代の貯蔵穴と推測され、同様の貯蔵穴が他にも存在して群をなしている可能性が高い。またT4南端付近で溝跡1条が検出された。一方、T10・13の竪穴建物跡は径5m程の暗褐色土の広がりを検出し、床面と思われる平坦面を確認したものである。緩斜面であるため下方が流失していると推測される。

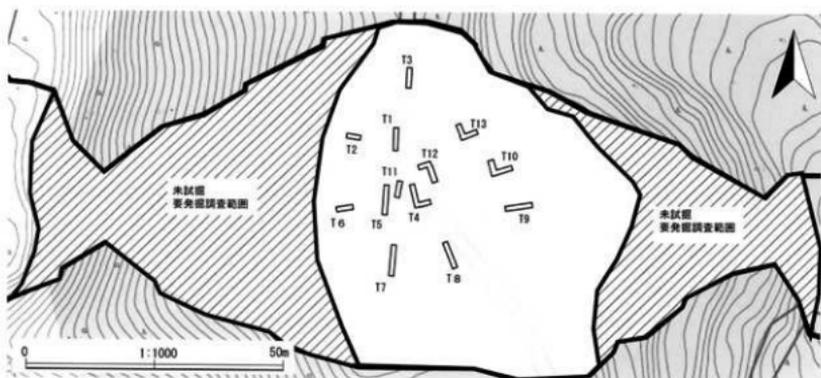
谷部ではトレンチ15箇所を設定し、重機により掘削を行った。谷の埋没土である暗褐色～黒褐色土の堆積が厚く、遺構・遺物ともに検出されなかった。

以上のとおり、尾根の頂部で縄文時代の遺構・遺物が検出された。検出状況から見て、頂部には土坑(貯蔵穴)群、頂部縁辺の緩斜面に住居跡群が存在していると推測される。調査範囲のうち斜面部分については把握していないが、他遺跡の事例から斜面部に住居跡等の遺構が存在している可能性があるため、谷部を除く範囲について発掘調査が必要と考えられる。

(平成28年度県埋蔵文化財センターにより発掘調査実施)



第45図 浜川目沢田Ⅱ遺跡位置図



第46図 浜川目沢田Ⅱ遺跡調査位置図

4 一般国道106号宮古西道路 地域連携道路整備事業

たぐまりたて きんごうなみたて あと
田鎖館(三合並館)跡 (LG32-2333)

所在地：宮古市田鎖地内

事業者：沿岸広域振興局土木部宮古土木センター
 調査期日：平成27年7月7日(火)

田鎖館跡は宮古市役所の西南西5.5km、閉伊川右岸に面する山稜に立地している。遺跡は14世紀末頃に普請された中世城館跡とされており、尾根上に見られる複数の平場が館の曲輪と推測されている。

調査箇所は田鎖トンネル(仮称)の東西両側で、田鎖館跡の東～中央部及び北西橋にあたる。調査箇所について現況地形の確認を行った。

東～中央部には尾根2箇所が含まれており、切土予定の東側尾根では頂部に平坦な地形面が見られる。またトンネル坑口が設置される西側尾根でも、小規模な平坦面が見られた。両尾根ともに斜面が城館の切岸〔防禦施設としての急斜面〕にあたり、斜面部に城館関連の遺構が存在している可能性がある。当事業に係り発掘調査が実施された松山館跡では、斜面部裾で製鉄関連の遺構・遺物が検出されており、本遺跡でも同種の遺構・遺物が存在している可能性もある。

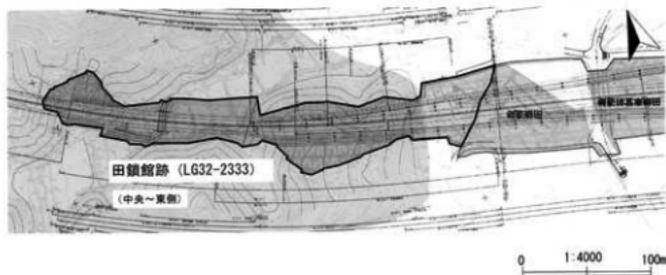
一方、トンネル西側の北西橋は急斜面であり、斜面裾が地形改変(削平)されている様相ではあるが、遺構・遺物の有無を確認する必要がある。

なお、本遺跡と東側の田鎖遺跡(平成27年度県埋蔵文化財センターが発掘調査を実施済)との間に遺跡範囲外の地区(現況は宅地等)があるが、この部分まで遺跡が広がっている可能性もある。今回依頼のあった範囲については全面発掘調査が必要であると現況地形から判断されるため、試掘調査を省略することとする。

(北西橋は平成28年1月18日(月)試掘調査実施：遺構・遺物なし⇒工事着手可、東～中央部は平成28年度県埋蔵文化財センターにより発掘調査実施)



第47図 田鎖館跡位置図



第48図 田鎖館跡調査位置図

5 農用地災害復旧関連区画整理事業

山田北地区（豊間根工区）

まごしざわいせき

馬越沢遺跡（LG83-0017）

所在地：下閉伊郡山田町豊間根地区内

事業者：沿岸広域振興局農林部宮古農林振興センター

調査期日：平成28年2月2日（火）

馬越沢遺跡は山田町役場の北西5.9km、豊間根川右岸の砂礫段丘（低位）面に所在している。遺跡付近は水田化しているが、人為的に造成された平場があり、周辺では鉄滓が採取される。時代は不明であるが製鉄関連の遺跡と推測されている。

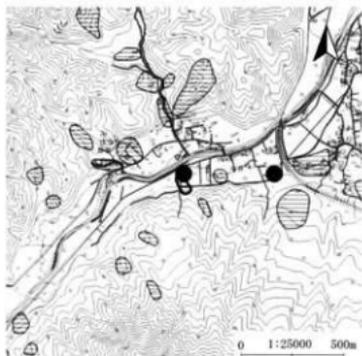
調査は豊間根地区における農地区画整理工事に関連して、工事予定地に含まれる遺跡範囲について試掘を行ったものである。

まず工事範囲南端の田面（切土予定）にトレンチを設定したが、耕作土が凍結していたため掘削できなかった。そこで北側に隣接している田面にトレンチ設定して掘削した。表土直下には赤褐色ブロックを含んだ床土（Ⅱ層）が見られる。この床土は過去の圃場整備に際して上段の田面を切土して盛ったものと推測される。赤褐色ブロックは焼土と見られ、層中には鉄滓が含まれていた。床土を除去すると、黒褐色土（Ⅲ層）、にぶい黄褐色土（Ⅳ層）、暗褐色土（Ⅴ層）となり、明黄褐色土の地山（Ⅵ層）となる。このうち、Ⅳ層は人為堆積の様相（焼土やマサ土の混入）を示している。掘削範囲が狭いためはっきりしないが、Ⅱ・Ⅲ層が盛土造成にともなうものであり、Ⅳ層以下が旧地形と思われる。またⅣ層は製鉄に関連する可能性がある。

Ⅵ層面まで掘り下げたところ、環状に赤変した箇所が2箇所見られた。ともに不明瞭であるが、焼土と思われる。土器等の遺物は出土していない。

以上の状況から、工事範囲内に製鉄関連の遺構・遺物が存在している可能性を否定できない。但し、今回は調査条件が悪いため、田面1枚分しか掘削できず、十分な検証が適わなかった。工事による埋蔵文化財への影響を判断するためには、今回調査できなかった田面及び水路・道路予定地についても調査が必要である。

（平成28年度再試掘調査実施）



第49図 馬越沢遺跡位置図



第50図 馬越沢遺跡調査位置図

6 東北自動車道

滝沢南スマートインターチェンジ事業

おおくほいざき

大久保遺跡 (KE95-1277)

所在地：滝沢市滝沢字大久保地内

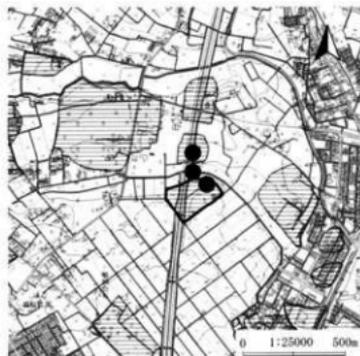
事業者：東日本高速道路株式会社東北支社

盛岡管理事務所

調査期日：平成27年8月27日(水)、9月9日(水)

11月13日(金)、12月9日(水)、10日(木)

大久保遺跡は滝沢市役所から北東に約1.9km離れた火山灰砂台地上に位置する。過去に東北自動車道整備に係り発掘調査が行われ、陥し穴と考えられる溝状土坑が数基検出されている。(岩手県教育委員会1979『岩手県文化財調査報告書第31集』)。事業はス



第51図 大久保遺跡位置図

スマートインターチェンジ整備に係るもので計4回に分けて試掘調査を行った。いずれも重機により遺構や遺物の有無を確認しながら掘り下げた。基本層序は以下のとおりである。

- I層 黒褐色 層厚 10~20cm シルト層 (表土層)
- II層 暗褐色 層厚 10~20cm シルト層 (自然堆積層)
- III層 黄褐色 層厚 30~40cm シルト層 (自然堆積層) (本来の遺構検出面か)
- IV層 灰黄褐色層厚 不明 シルト層 (自然堆積層) (遺構検出面)

1回目 試掘トレンチを6箇所設定した。T1ではIV層上で直径約5mの堅穴建物跡と考えられる円形のプランの一部を確認した。遺物は出土していない。他のトレンチは全体的に湿地帯の様相を示す堆積であった。

2回目 試掘トレンチを8箇所設定した。遺構・遺物とも発見されなかった。

3回目 試掘トレンチを6箇所設定した。T6において直径2mの黒褐色の円形の落ち込みが確認された。遺物は出土していないものの、過去の調査より縄文時代の遺構である可能性が高い。他のトレンチからは遺構・遺物とも発見されなかった。

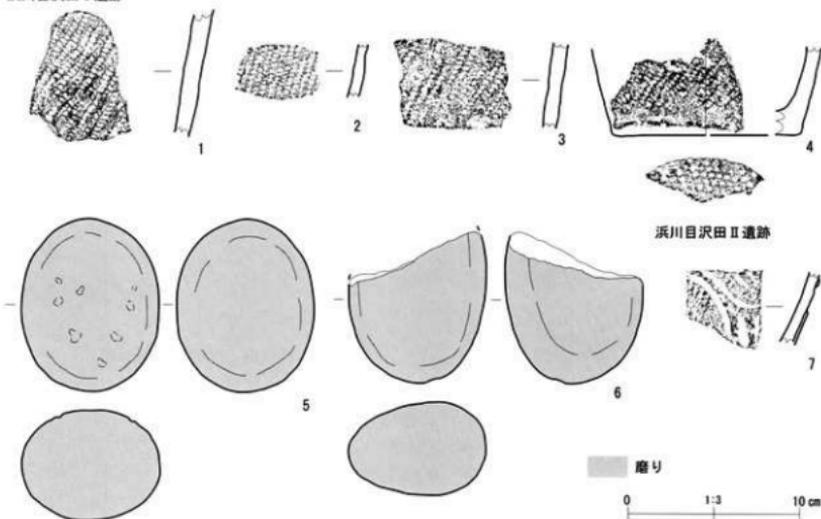
4回目 試掘トレンチを17箇所設定した。T11において直径約3.3mの黒褐色の長楕円形の落ち込みが確認された。遺物は出土していないものの、過去の調査より縄文時代の遺構である可能性が高い。他のトレンチからは遺構・遺物とも発見されなかった。

(平成28年度当課により発掘調査実施)



第52図 大久保遺跡調査位置図

浜川目沢田Ⅰ遺跡



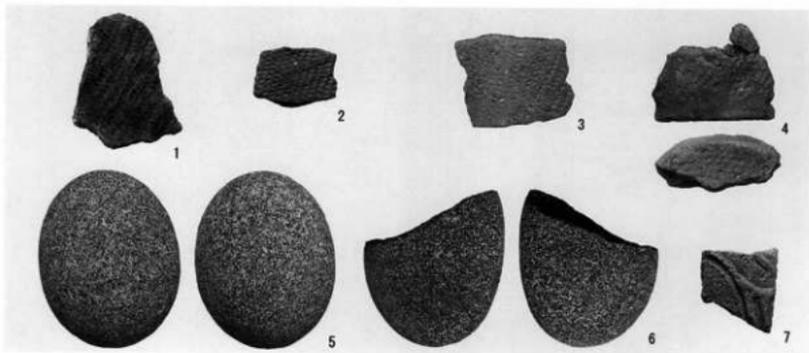
浜川目沢田Ⅱ遺跡

第53図 試掘調査出土遺物

第4表 試掘調査出土遺物観察表

掲載 番号	遺跡名	出土 地点	層位	種別	器種	部位	計測値 (cm・g)				特 徴
							口径 縦	器高 横	底部径 厚さ	重量	
1	浜川目沢田Ⅰ	T2		縄文土器	深鉢	胴部					RL縦
2	浜川目沢田Ⅰ	T4		縄文土器	深鉢	胴部					RL縦
3	浜川目沢田Ⅰ	T4		縄文土器	深鉢	胴部					RL縦
4	浜川目沢田Ⅰ	T5		縄文土器	深鉢	底部					LR横、底面LR回転
5	浜川目沢田Ⅰ	T5		石器	磨石		10.2	8.0	6.6	7820	叩き痕
6	浜川目沢田Ⅰ	T6		石器	磨石		(9.0)	8.0	5.9	5140	叩き痕
7	浜川目沢田Ⅱ	T4		縄文土器	深鉢	胴部					LR斜、貼付文、沈線

計測値の [] は推定値、() が残存値を表す。



写真図版19 試掘調査 出土遺物

Ⅲ 調査一覧

1 発掘調査一覧

No.	調査期日	事業名	事業者	遺跡名	所在地	主な検出遺構・遺物	面積
1	平成27年6月1日～2日	主要地方道北上東和線才の羽々地区地域連携道路整備事業	岩手広域振興局土木部 花巻土木センター	野田1遺跡	北上市	溝跡、土師器、須恵器・縄文土器	65㎡
2	平成27年7月13～16日、 21～22日、11月9～10日	一般国道340号和井内地区地域連携道路整備事業	沿岸広域振興局土木部 宮古土木センター	和井内西遺跡	宮古市	掘立柱建物跡、柱穴群、陶磁器、土器	511㎡
3	平成27年6月15日～19日	主要地方道重茂半島線大沢～浜川目地区地域連携道路整備事業	沿岸広域振興局土木部 宮古土木センター	浜川目沢田1遺跡	山田町	柱穴、縄文土器、鉄滓	140㎡
4	平成27年6月22日～ 7月16日	災害復旧工事白浜(磯)地区	沿岸広域振興局水産部	向山遺跡	釜石市	竪穴建物跡、土坑、柱穴、焼土、土器、石器、その他(人骨)	600㎡

2 試掘調査一覧(1)

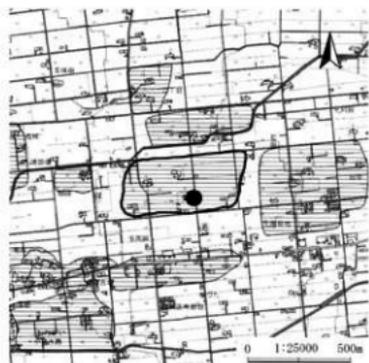
※アミフセはⅡ章で記載したもの

No.	調査期日	事業名	事業者	遺跡名	所在地	結果
1	平成27年4月13日	経営体育成基盤整備事業 南下幅北部地区	県南広域振興局農政部 農村整備室	沢田遺跡	奥州市	影響なし
2	平成27年4月16日	地域連携道路整備事業 主要地方道一関北上線橋の補修	県南広域振興局土木部 一関土木センター	古館遺跡隣接 地、可能性あり	一関市	影響なし
3	平成27年5月25日	農地整備事業(通作条件整備) 上野2期地区	県北広域振興局農政部 二戸農林振興センター 農村整備室	大沢遺跡	一戸町	影響なし
4	平成27年6月11日	湿地帯総合整備事業(担い手育成型) 男勢・赤沢・湯田地区	県北広域振興局農政部 二戸農林振興センター 農村整備室	上平Ⅲ遺跡	二戸市	影響なし
5	平成27年6月18日～19日	主要地方道重茂半島線大沢～浜川目地区 地域連携道路整備事業	沿岸広域振興局土木部 宮古土木センター	浜川目沢田Ⅰ 遺跡	山田町	本発掘調査
6	平成27年7月7日	一般国道106号宮古西道路地域連携道路 整備事業	沿岸広域振興局土木部 宮古土木センター	田鎖館跡	宮古市	本発掘調査
7	平成27年7月22日	一般国道106号宮古西道路地域連携道路 整備事業	沿岸広域振興局土木部 宮古土木センター	可能性あり7	宮古市	影響なし
8	平成27年7月14日～15日、 7月30日	牛舎等建設	株式会社田野畑牧場 (県教委支援)	大芦Ⅰ遺跡	田野畑村	影響なし
9	平成27年7月8日～ 9日、14日～15日	主要地方道大船渡線里三陸線赤崎地区 地域連携道路整備事業	沿岸広域振興局土木部 大船渡土木センター	札林遺跡、 可能性あり 2、4、5、6	大船渡市	影響なし
10	平成27年7月28日～31日	主要地方道重茂半島線大沢～浜川目地区 地域連携道路整備事業	沿岸広域振興局土木部 宮古土木センター	浜川目沢田Ⅱ 遺跡	山田町	本発掘調査
11	平成27年8月19日	主要地方道大船渡線里三陸線赤崎地区 地域連携道路整備事業	沿岸広域振興局土木部 大船渡土木センター	可能性あり 4、5	大船渡市	影響なし
12	平成27年8月25日～26日	一般国道45号 橋本市仮車線整備事業	国土交通省東北地方整備 局三陸国道事務所	八森遺跡	洋野町	影響なし
13	平成27年8月27日	東北自動車道 滝沢南スマートインターチェンジ事業	東日本高速道路株式会社 東北支社盛岡管理事務所	大久保遺跡	滝沢市	本発掘調査
14	平成27年9月9日	東北自動車道 滝沢南スマートインターチェンジ事業	東日本高速道路株式会社 東北支社盛岡管理事務所	大久保遺跡	滝沢市	影響なし
15	平成27年9月7日	警察施設災害復旧事業	警察本部警務部会計課	泉沢屋敷遺跡	釜石市	影響なし
16	平成27年9月14日	上平地区復旧治山工事	県北広域振興局農政部 二戸農林振興センター 林務室	田岡Ⅲ遺跡	一戸町	影響なし
17	平成27年9月28日	一般国道106号宮古西道路地域連携道路 整備事業	沿岸広域振興局土木部 宮古土木センター	可能性あり8	宮古市	影響なし
18	平成27年10月5日	中山間地域総合整備事業 江刈地区	盛岡広域振興局農政部 農村整備室	小森遺跡	葛巻町	影響なし
19	平成27年10月14日	船越南地区海岸災害復旧工事(迂回路)	沿岸広域振興局土木部 宮古土木センター	岩ヶ沢遺跡	山田町	影響なし
20	平成27年10月14日	海岸保全災害復旧事業	沿岸広域振興局土木部 宮古土木センター	岩ヶ沢遺跡、 船越御所遺跡	山田町	影響なし
21	平成27年10月8日	一関遊水地事業	国土交通省東北地方整備 局岩手河川国道事務所	和田遺跡	一関市	影響なし
22	平成27年10月22日	集落基盤整備事業(地域用水型) 鹿妻新環地区	盛岡広域振興局農政部 農村整備室	上越場A遺跡	盛岡市	影響なし

試掘調査一覧(2)

※アミフセはⅡ章で記載したもの

No.	調査期日	事業名	事業者	遺跡名	所在地	結果
23	平成27年10月26日	主要地方道重茂半島線千歳地区 地域連携道路整備事業	沿岸広域振興局土木部 宮古土木センター	千歳Ⅳ遺跡	宮古市	本発掘調査 (事業見直し)
24	平成27年11月4日	地域連携道路整備	県南広域振興局土木部 花巻土木センター	耳取Ⅰ遺跡	西和賀町	影響なし
25	平成27年11月9日	折嶺地区予防治山工事	県南広域振興局農政部 花巻農林振興センター	折嶺Ⅱ遺跡	花巻市	影響なし
26	平成27年11月13日	東北自動車道 滝沢南スマートインターチェンジ事業	東日本高速道路株式会社 東北支社盛岡管理事務所	大久保遺跡	滝沢市	本発掘調査
27	平成27年11月25日	農地整備事業(通作条件整備) 上野2期地区	県北広域振興局農政部 二戸農林振興センター 農村整備室	大沢遺跡	一戸町	影響なし
28	平成27年11月26日	経営体育成基盤整備事業 小瀬川地区	県南広域振興局農政部 北上農村整備センター	小瀬川館跡	花巻市	影響なし
29	平成27年11月27日	地域連携道路整備	県南広域振興局 花巻土木センター	戸板遺跡	北上市	影響なし
30	平成27年11月24日～25日	吉里吉里港沿岸災害復旧事業/ 大船港沿岸災害復旧事業	沿岸広域振興局水産部	赤浜Ⅰ遺跡 向館跡	大船町	影響なし
31	平成27年11月16日～24日	農地整備事業(経営体育成型)	盛岡広域振興局農政部 農村整備室	八幡館跡	盛岡市	再試掘
32	平成27年12月9日～10日	東北自動車道 滝沢南スマートインターチェンジ事業	東日本高速道路株式会社 東北支社盛岡管理事務所	大久保遺跡 高屋敷Ⅱ遺跡	滝沢市	本発掘調査
33	平成27年12月14日～15日	中山間地域総合整備事業 霞沢地区	県南広域振興局農政部 一関農村整備センター	可能性あり 7・9	一関市	影響なし
34	平成28年1月18日	一般国道106号宮古西道路 地域連携道路整備事業	沿岸広域振興局土木部 宮古土木センター	田鎖館跡	宮古市	影響なし
35	平成28年1月13日	個人住宅の建築事業	田野畑村(県教委支援)	真木沢Ⅳ遺跡	田野畑村	影響なし
36	平成28年1月25日	一般国道4号水沢東バイパス	国土交通省東北地方整備局 岩手河川国道事務所	大学Ⅰ遺跡	奥州市	影響なし
37	平成28年1月25日	一般国道4号水沢東バイパス	国土交通省東北地方整備局 岩手河川国道事務所	瀬台野館跡	奥州市	影響なし
38	平成28年1月25日	一般国道4号水沢東バイパス	国土交通省東北地方整備局 岩手河川国道事務所	大学Ⅱ遺跡	奥州市	影響なし
39	平成28年1月25日～26日	一般国道4号水沢東バイパス	国土交通省東北地方整備局 岩手河川国道事務所	町屋敷遺跡	奥州市	本発掘調査
40	平成28年1月26日	一般国道4号水沢東バイパス	国土交通省東北地方整備局 岩手河川国道事務所	垣ノ内Ⅱ遺跡	奥州市	影響なし
41	平成28年2月2日	農用地災害復旧開灌区画整理事業 山田北地区(豊岡機工区)	沿岸広域振興局農林部 宮古農林振興センター	馬越沢遺跡 可能性あり①	山田町	再試掘
42	平成28年2月24日	広域河川改修事業 一級河川北上川	盛岡広域振興局土木部 岩手土木センター	土峰Ⅰ遺跡	岩手町	影響なし
43	平成28年3月1日	畑地帯総合整備事業(担い手育成型) 男神・米沢・湯田地区	県北広域振興局農政部 二戸農林振興センター 農村整備室	下村遺跡	二戸市	影響なし
44	平成28年3月8日	一般国道106号宮古西道路 地域連携道路整備事業	沿岸広域振興局土木部 宮古土木センター	田鎖館跡	宮古市	影響なし



No. 1 沢田遺跡 (奥州市)



No. 2 古館遺跡 (一関市)



No. 3・27 大沢遺跡 (一戸町)



No. 4 上平皿遺跡 (二戸市)

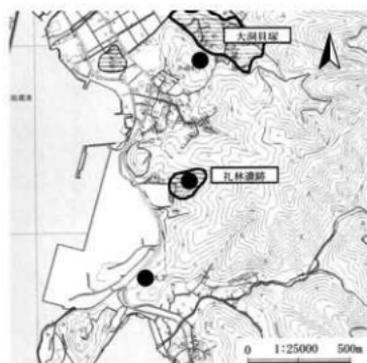


No. 7 可能性あり7 (宮古市)

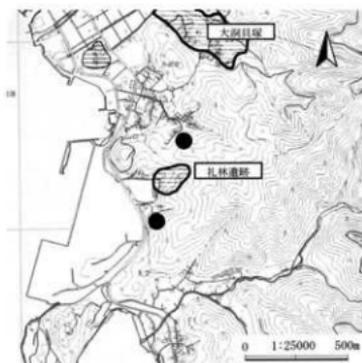


No. 8 大芦I遺跡 (田野畑村)

第54図 試掘調査位置図一覽(1)



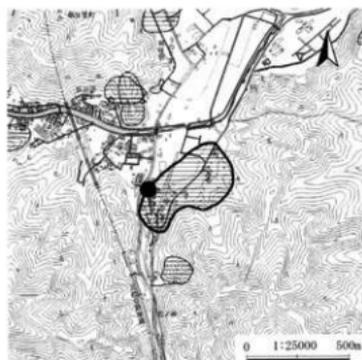
No. 9 礼林遺跡・可能性あり (大船渡市)



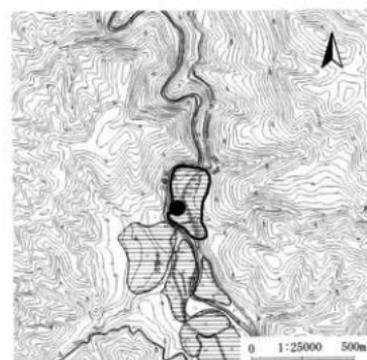
No. 11 可能性あり4・5 (大船渡市)



No. 12 八森遺跡 (洋野町)



No. 15 泉沢屋敷遺跡 (釜石市)



No. 16 田岡川遺跡 (一戸町)



No. 17 可能性あり8 (宮古市)

第55図 試掘調査位置図一覧(2)



No. 18 小森遺跡 (高松市)



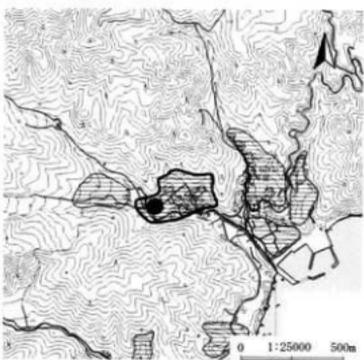
No. 19・20 岩ヶ沢・船越御所遺跡 (山田市)



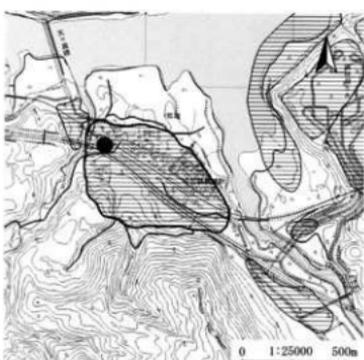
No. 21 和田遺跡 (一関市)



No. 22 上越場A遺跡 (盛岡市)



No. 23 千鶴IV遺跡 (宮古市)



No. 24 耳取I遺跡 (西和賀町)

第56図 試掘調査位置図一覽(3)



No. 25 折壁Ⅱ遺跡 (花巻市)



No. 28 小瀬川館跡 (花巻市)



No. 29 戸桜遺跡 (北上市)



No. 30 赤浜Ⅰ遺跡 (大槌町)

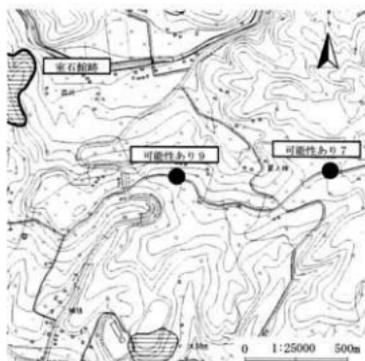


No. 30 向館跡 (大槌町)

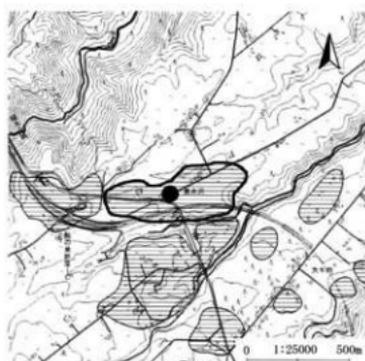


No. 31 八幡館跡 (盛岡市)

第57図 試掘調査位置図一覽(4)



No. 33 可能性あり7・9 (一関市)



No. 35 真木沢IV遺跡 (田野畑村)



No. 36-37 大学I遺跡・瀬台野館跡 (奥州市)



No. 38-40 大学II・堀ノ内II遺跡 (奥州市)



No. 42 土峰I遺跡 (岩手町)



No. 43 下村遺跡 (二戸市)

第58図 試掘調査位置図一覽(5)

3 工事立会一覧

No.	調査期日	事業名	事業者	道 路 名	所在地	結果
1	平成27年6月26日	予防治山事業 上和野地区予防治山工事	盛岡広域振興局林務部	上和野館跡	雫石町	影響なし
2	平成27年6月29日	岩手県立北上翔南高等学校校舎 下水道切替工事	教育企画室	高前塚Ⅱ遺跡	北上市	影響なし
3	平成27年7月1日、6日	岩の目地区県単治山（施設維持補修） 工事	県南広域振興局農政部 花巻農林振興センター	岩ノ目館跡	北上市	影響なし
4	平成27年8月26日	広田漁港海岸災害復旧（23災第522号 その2）工事	沿岸広域振興局水産部 大船渡水産振興センター	中沢浜貝塚	陸前高田 市	影響なし
5	平成27年10月1日	中山間地域総合整備事業 大清水地区	県北広域振興局農政部 二戸農林振興センター 農村整備室	上新井田遺跡	軽米町	影響なし
6	平成27年11月5日	国営和賀中央農業水利事業 上環幹線水路改修工事	東北農政局和賀中央農業 水利事業所	下村遺跡	北上市	影響なし
7	平成27年11月12日	県単交通安全施設整備事業 一般国道397号宇南田地区歩道整備工事 宇南田工区	県南広域振興局土木部	宇南田遺跡	奥州市	影響なし
8	平成27年11月20日	経営体育成基盤整備事業 郡島3期地区	県南広域振興局農政部 農村整備室	作原敷遺跡	奥州市	影響なし
9	平成28年1月12日	国営和賀中央農業水利事業 中央幹線放水路改修工事	東北農政局和賀中央農業 水利事業所	本宿遺跡	北上市	影響なし
10	平成28年1月13日	真木沢自治会集会所の給水管敷設工事	田野畑村（県教委支援）	真木沢Ⅳ遺跡	田野畑村	影響なし
11	平成28年1月28日～29日	経営体育成基盤整備事業 郡島3期地区	県南広域振興局農政部 農村整備室	漆町遺跡	奥州市	影響なし
12	平成28年2月8日～9日	宮古西道路 地域連携道路整備事業	沿岸広域振興局土木部 宮古土木センター	田鎖館跡	宮古市	影響なし
13	平成28年2月19日	北上川中流部緊急対策事業 北上川上流北上地区築堤工事	国土交通省東北地方整備 局岩手河川国道事務所	立花南遺跡	北上市	影響なし
14	平成28年2月19日	村道菅窪和野線側溝改修工事	田野畑村（県教委支援）	菅窪中山遺跡	田野畑村	影響なし



No. 1 上和野館跡(栄石町)



No. 2 高前壇Ⅱ遺跡(北上市)



No. 3 岩ノ目館跡(北上市)



No. 4 中沢浜貝塚(陸前高田市)



No. 5 上新井田遺跡(軽米町)



No. 6 下村遺跡(北上市)

第59図 工事立会位置図一覽(1)



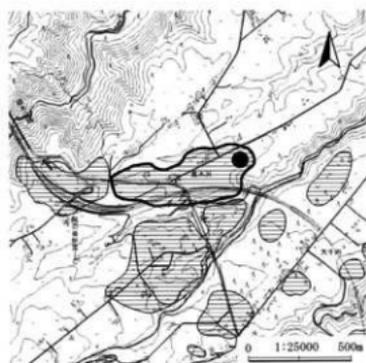
No. 7 宇南田遺跡 (奥州市)



No. 8・11 作屋敷・漆町遺跡 (奥州市)



No. 9 本宿遺跡 (北上市)



No. 10 真木沢IV遺跡 (田野畑村)



No. 13 立花南遺跡 (北上市)



No. 14 菅窪中山遺跡 (田野畑村)

第60図 工事立会位置図一覽(2)

4 分布調査一覧(1)

1 農業水利施設保全合理化事業 国見地区						県南広域振興局農政部北上農村整備センター		
No.	道路コード	道路名	時代	遺構・遺物	種別	所在地	調査日	備考
1	ME76-0277	国見山楽寺跡	平安		寺院跡	北上市稲瀬町内門岡地内	平成27年4月21日	要工事立会
2	ME76-2119	女岡沢遺跡	縄文		散布地	北上市稲瀬町上台地内	平成27年4月21日	要慎重工事
2 農業水利施設保全合理化事業 十文字地区						県南広域振興局農政部北上農村整備センター		
No.	道路コード	道路名	時代	遺構・遺物	種別	所在地	調査日	備考
1	ME68-0122	大町遺跡	縄文		散布地	北上市口内町大町地内	平成27年4月21日	要慎重工事
3 農村地域防災減災事業 東和北地区						県南広域振興局農政部北上農村整備センター		
No.	道路コード	道路名	時代	遺構・遺物	種別	所在地	調査日	備考
1	ME17-1276	陣ヶ森遺跡	中世		城館跡	花巻市矢沢地内	平成27年4月21日	要慎重工事
4 農地整備事業(経営体育成型) 矢次地区						盛岡広域振興局農政部農村整備室		
No.	道路コード	道路名	時代	遺構・遺物	種別	所在地	調査日	備考
1		可能性あり				紫波郡矢次町矢次地内	平成27年5月7日	要試掘調査
2	LE36-2277	木代遺跡	平安	土師器 須恵器	散布地	紫波郡矢次町矢次地内	平成27年5月7日	要試掘調査
3	LE46-0244	上矢次1遺跡	平安	土師器 須恵器	散布地 キャンプ地	紫波郡矢次町矢次地内	平成27年5月7日	要慎重工事
5 経営体育成基盤整備事業 小宿同地区						県南広域振興局農政部一関農村整備センター		
No.	道路コード	道路名	時代	遺構・遺物	種別	所在地	調査日	備考
1		可能性あり				一関市飯美町地内	平成27年5月14日	影響なし
6 一級河川和賀川筋ほくほ保護地区ほくほ河川維持修繕工事						県南広域振興局土木部北上土木センター		
No.	道路コード	道路名	時代	遺構・遺物	種別	所在地	調査日	備考
1	ME64-2202	岩崎城跡	縄文~中世	縄文土器 須恵器	集落跡・ 城館跡	北上市和賀町保孫地内	平成27年5月18日	要慎重工事
7 中山間地域総合整備事業 清田地区						県南広域振興局農政部一関農村整備センター		
No.	道路コード	道路名	時代	遺構・遺物	種別	所在地	調査日	備考
1	NF91-1127	樋ノ口館跡	中世		城館跡	一関市千賀町清田字融実地内	平成27年5月18日	要慎重工事
2	NF91-1158	新地II遺跡	縄文		散布地	一関市千賀町清田字新地地内	平成27年5月18日	要慎重工事
3	NF91-1169	新地I遺跡	縄文		散布地	一関市千賀町清田字新地地内	平成27年5月18日	要慎重工事
4		可能性あり			散布地	一関市千賀町清田字上台地内	平成27年5月18日	要試掘調査
5	NF92-2053	塚遺跡			塚	一関市千賀町清田字山崎地内	平成27年5月19日	要慎重工事
6	NF91-1127	西沢I遺跡	縄文		散布地	一関市千賀町清田字西沢地内	平成27年5月19日	要慎重工事
7	NF92-2191	清水馬場城跡	中世		城館跡	一関市千賀町清田字東沢地内	平成27年5月18日	要慎重工事
8	OF02-0130	南沢I遺跡	縄文		散布地	一関市千賀町清田字南沢地内	平成27年5月19日	要慎重工事
8 産業廃棄物処理施設設置調査事業 桃沢地区						環境生活部廃棄物特別対策室		
No.	道路コード	道路名	時代	遺構・遺物	種別	所在地	調査日	備考
1		可能性あり1	縄文	土器		八幡平市平館桃沢地内	平成27年5月20日	要試掘調査
2		可能性あり2				八幡平市平館桃沢地内	平成27年5月20日	要試掘調査
9 森林管理道平沢沢開設工事						沿岸広域振興局農林部宮古農林振興センター林務室		
No.	道路コード	道路名	時代	遺構・遺物	種別	所在地	調査日	備考
1	KG22-1243	平沢沢I遺跡	縄文	縄文土器	散布地	下閉伊郡田野畑村菅窪地内	平成27年5月26日	要慎重工事
2	KG22-1243	平沢沢II遺跡	弥生	弥生土器	散布地	下閉伊郡田野畑村菅窪地内	平成27年5月26日	要慎重工事
10 高森高原風力発電所(仮称)建設事業						企業局業務課		
No.	道路コード	道路名	時代	遺構・遺物	種別	所在地	調査日	備考
1		可能性あり				二戸郡一戸町高森高原ほく	平成27年6月4日	影響なし

分布調査一覧(2)

11 地域連携道路整備事業 一般国道396号上宮守地区道路改良工事								県南広域振興局土木部造野土木セクター
No.	道路コード	道路名	時代	遺構・遺物	種別	所在地	調査日	備考
1		可能性あり1				造野市宮守町下宮守地内	平成27年6月24日	要試掘調査
2		可能性あり2				造野市宮守町下宮守地内	平成27年6月24日	要試掘調査
3		可能性あり3				造野市宮守町下宮守地内	平成27年6月24日	要試掘調査
4	MF32-1026	西伏道路	縄文		散布地	造野市宮守町上宮守15地割	平成27年6月24日	要試掘調査
12 主要地方道赤波江磐線星山地区道路改良工事								盛岡広域振興局土木部
No.	道路コード	道路名	時代	遺構・遺物	種別	所在地	調査日	備考
1		可能性あり				赤波郡赤波町瓦山地区内	平成27年7月3日	影響なし
13 一般県道不動盛岡線上天次地区道路改良事業								盛岡広域振興局土木部
No.	道路コード	道路名	時代	遺構・遺物	種別	所在地	調査日	備考
1		可能性あり				赤波郡赤波町上天次地内	平成27年7月3日	影響なし
14 一般県道盛岡滝沢線下朝阿地区道路改良工事								盛岡広域振興局土木部
No.	道路コード	道路名	時代	遺構・遺物	種別	所在地	調査日	備考
1		可能性あり				滝沢市下朝阿地内	平成27年7月3日	影響なし
15 地域連携道路整備事業 一般国道397号小谷木地区								県南広域振興局土木部
No.	道路コード	道路名	時代	遺構・遺物	種別	所在地	調査日	備考
1	NE27-0100	杉の堂道路	縄文、弥生、奈良、平安		集落跡	奥州市水沢区住倉河字杉の堂地内	平成27年8月4日	要試掘調査
2	NE27-0048	熊之堂道路	縄文、奈良、平安		集落跡	奥州市水沢区真城字ノ堂地内	平成27年8月4日	要慎重工事
16 船越南地区海岸外復旧工事								沿岸広域振興局土木部宮古土木セクター
No.	道路コード	道路名	時代	遺構・遺物	種別	所在地	調査日	備考
1	MG14-0206	船越N道路	縄文		散布地	下閉伊郡山田町船越地内	平成27年8月4日	要慎重工事
2		可能性あり				下閉伊郡山田町船越地内	平成27年8月4日	影響なし
3	MG14-0321	岩ヶ沢道路	縄文		集落跡	下閉伊郡山田町船越地内	平成27年8月4日	要試掘調査
17 災害復旧事業 大槌漁港海岸白石地区、赤浜地区								沿岸広域振興局水産部
No.	道路コード	道路名	時代	遺構・遺物	種別	所在地	調査日	備考
1	MG43-0102	白石道路	縄文		散布地	上閉伊郡大槌町小碓28地割	平成27年8月5日	要慎重工事
2	MG33-2361	三日月神社跡塚	近世		基石、礎石礎	上閉伊郡大槌町赤浜二丁目	平成27年8月5日	要慎重工事
3	MG33-2371	赤浜1道路	縄文		散布地	上閉伊郡大槌町赤浜二丁目	平成27年8月5日	要試掘調査
18 船崎漁港海岸災害復旧事業								沿岸広域振興局水産部
No.	道路コード	道路名	時代	遺構・遺物	種別	所在地	調査日	備考
1	MG43-2196	横瀬道路	縄文		散布地	釜石市船崎町船崎地内	平成27年8月31日	要慎重工事
2	MG35-0114	野川前道路	縄文、近世		散布地	釜石市船崎町船崎地内	平成27年8月31日	要慎重工事
19 地域連携道路整備事業(残土捨て場候補地) 主要地方道重平半島線既の平～堀内地区								沿岸広域振興局土木部宮古土木セクター
No.	道路コード	道路名	時代	遺構・遺物	種別	所在地	調査日	備考
1	LG45-2099	熊の平道路	縄文	縄文土器	散布地	宮古市首節地内	平成27年8月31日	要慎重工事
20 地域連携道路整備事業 一般国道343号民地区								県南広域振興局土木部一関土木セクター
No.	道路コード	道路名	時代	遺構・遺物	種別	所在地	調査日	備考
1	NF60-0265	中野台道路	縄文		散布地	一関市大東町大原地内～一関市大東町築沢地内	平成27年9月2日～3日	要慎重工事
2	NF60-0267	下沢民道路	縄文、古代		散布地	一関市大東町大原地内～一関市大東町築沢地内	平成27年9月2日～3日	要試掘調査
3		可能性あり1				一関市大東町大原地内～一関市大東町築沢地内	平成27年9月2日～3日	要試掘調査
4		可能性あり2				一関市大東町大原地内～一関市大東町築沢地内	平成27年9月2日～3日	要試掘調査
5	NF61-1137	水無1道路	縄文		散布地	一関市大東町大原地内～一関市大東町築沢地内	平成27年9月2日～3日	要試掘調査
6	NF61-1240	根城廻路	中世		城跡跡	一関市大東町大原地内～一関市大東町築沢地内	平成27年9月2日～3日	要試掘調査
7		可能性あり3				一関市大東町大原地内～一関市大東町築沢地内	平成27年9月2日～3日	要試掘調査

分布調査一覧(3)

21 一般国道107号無地内地区落石防護設置工事							県南広域振興局土木部北上土木センター	
No.	道路コード	道路名	時代	遺構・遺物	種別	所在地	調査日	備考
1	MD59-2385	安倍館跡	中世		城館跡	和賀郡西和賀町無地内	平成27年9月7日	要慎重工事
22 活力湧出基盤整備事業 災害防除(社会交際関係)一般国道340号悪悪地区							県南広域振興局土木部遠野土木センター	
No.	道路コード	道路名	時代	遺構・遺物	種別	所在地	調査日	備考
1		可能性あり				遠野市土道町33林道内	平成27年9月16日	影響なし
23 地域連携道路整備事業 一般国道106号宮古西道路							沿岸広域振興局土木部宮古土木センター	
No.	道路コード	道路名	時代	遺構・遺物	種別	所在地	調査日	備考
1	LG33-2166	松山大地田沢遺跡	古代		集落跡	宮古市松山内	平成27年9月28日	要慎重工事
24 地域振興道路整備事業 主要地方道重茂平島線							沿岸広域振興局土木部宮古土木センター	
No.	道路コード	道路名	時代	遺構・遺物	種別	所在地	調査日	備考
1	LG75-0248	千鶴平遺跡	縄文	縄文土器	集落跡	宮古市重茂第12地割上野地内	平成27年9月28日	要試掘調査
25 地域連携道路整備事業 主要地方道重茂平島線の一部内地区							沿岸広域振興局土木部宮古土木センター	
No.	道路コード	道路名	時代	遺構・遺物	種別	所在地	調査日	備考
1		可能性あり				宮古市橋の平～堀内地区	平成27年9月30日	影響なし
26 折壁地区平防治水工事							県南広域振興局花巻農林振興センター	
No.	道路コード	道路名	時代	遺構・遺物	種別	所在地	調査日	備考
1	LP60-2213	折壁日遺跡	縄文		散布地	花巻市大迫町内川折壁内	平成27年10月20日	要試掘調査
27 畑地帯総合整備事業(担い手支援型) 穴牛・松村・谷地区							県北広域振興局農政部二戸農林振興センター農村整備室	
No.	道路コード	道路名	時代	遺構・遺物	種別	所在地	調査日	備考
1		可能性あり1		石蔵、土器		二戸市石切所字上野々地内	平成27年10月6日～7日	要試掘調査
2	JE09-1345	上野々遺跡	縄文	縄文土器	集落跡	二戸市石切所字上野々地内	平成27年10月6日～7日	要試掘調査
3	JF00-1070	村松館跡	中世		城館跡	二戸市石切所字合野々地内	平成27年10月6日～7日	要慎重工事
4	JF00-1005	柿木平遺跡	縄文、奈良、平安		散布地	二戸市石切所字柿木平内	平成27年10月6日～7日	要慎重工事
5		可能性あり2				二戸市石切所字柿木平内	平成27年10月6日～7日	要試掘調査
6	JF00-1007	天神下1遺跡	縄文、奈良、平安		散布地	二戸市石切所字天神下内	平成27年10月6日～7日	要慎重工事
7	JF00-0087	上穴牛遺跡	縄文、奈良、平安		散布地	二戸市石切所字上穴牛内	平成27年10月6日～7日	要慎重工事
8	JF00-0079	中穴牛遺跡	縄文		散布地	二戸市石切所字中穴牛・穴牛長久保地内	平成27年10月6日～7日	要試掘調査
9		可能性あり3		土器		二戸市石切所字上穴牛内	平成27年10月6日～7日	要試掘調査
10	JF00-0048	穴牛遺跡	縄文、中世		散布地	二戸市石切所字穴牛内	平成27年10月6日～7日	要慎重工事
11	IE79-2077	海上館跡	中近世		城館跡	二戸市野々上字谷地内	平成27年10月6日～7日	要試掘調査
12	IE89-0118	上ノ沢1遺跡	縄文		散布地	二戸市野々上字橋地内	平成27年10月6日～7日	要慎重工事
28 国営かんがけ排水事業 岩手山麓(一期) 地区							東北農政局和賀中部農業水利事業所岩手山麓農業水利事業建設所	
No.	道路コード	道路名	時代	遺構・遺物	種別	所在地	調査日	備考
1	KF61-0251	岩洞湖1遺跡	縄文		散布地	盛岡市玉山区蔵川字亀橋地内	平成27年10月30日	要慎重工事
2	KF61-0251	岩洞湖1遺跡	縄文		散布地	盛岡市玉山区蔵川字亀橋地内	平成27年10月30日	要発掘調査
3	KF60-0260	岩洞湖D遺跡	縄文	土坑、土器片	散布地	盛岡市玉山区蔵川字亀橋地内	平成27年11月26日	要発掘調査
4	KF60-0285	岩洞湖E遺跡	縄文		散布地	盛岡市玉山区蔵川字亀橋地内	平成27年11月26日	要発掘調査
5	KF61-0029	岩洞湖H遺跡	縄文		散布地	盛岡市玉山区蔵川字亀橋地内	平成27年11月30日	要発掘調査
29 地域連携道路整備事業 一般国道284号石法華地区							県南広域振興局土木部一関土木センター	
No.	道路コード	道路名	時代	遺構・遺物	種別	所在地	調査日	備考
1		可能性あり				一関市滝沢字石法華～一関市弥生字岩崎地内	平成27年11月5日	影響なし
30 県南水産部保管施設整備事業							農林水産部畜産課	
No.	道路コード	道路名	時代	遺構・遺物	種別	所在地	調査日	備考
1	ME94-1054	和光6区道路	縄文		散布地	胆沢郡金ヶ崎町西根和光地内	平成27年11月5日	要慎重工事

分布調査一覧(4)

31 災害公営住宅整備事業 陸前高田市脇の沢地区							県土整備部建築住宅課	
No.	遺跡コード	遺跡名	時代	遺構・遺物	種別	所在地	調査日	備考
1		可能性あり				陸前高田市本崎町地内	平成27年11月12日	影響なし
32 埋地帯総合整備事業(担い手支援型) 奥中山中央地区							県北広域振興局二戸農林振興センター農村整備室	
No.	遺跡コード	遺跡名	時代	遺構・遺物	種別	所在地	調査日	備考
1	JE78-1048	西田子XⅡ遺跡				二戸郡一戸町奥中山西田子地内	平成27年11月25日	要慎重工事
33 農業競争力強化基盤整備事業 林郷下地区							県北広域振興局農政部農村整備室	
No.	遺跡コード	遺跡名	時代	遺構・遺物	種別	所在地	調査日	備考
1		可能性あり				九戸郡洋野町大野地内	平成27年12月3日	影響なし
34 交番駐在所建設事業盛岡市交番新築							岩手県警察本部警務部会計課	
No.	遺跡コード	遺跡名	時代	遺構・遺物	種別	所在地	調査日	備考
1	LE26-2013	新井田日遺跡隣接地				盛岡市羽場第13地割24番、27番1	平成27年12月3日	要慎重工事
35 交番駐在所建設事業江釣子駐在所新築							岩手県警察本部警務部会計課	
No.	遺跡コード	遺跡名	時代	遺構・遺物	種別	所在地	調査日	備考
1	ME65-0152	塚遺跡隣接地				北上市江釣子17地割119番3	平成27年12月3日	要慎重工事
36 農業競争力強化基盤整備事業 泉沢・中平地区							県北広域振興局農政部農村整備室	
No.	遺跡コード	遺跡名	時代	遺構・遺物	種別	所在地	調査日	備考
1		可能性あり				九戸郡野田村野田地内	平成27年12月4日	要試験調査
37 農用地災害復旧関連事業 宮古地区(津軽石・赤前工区)							沿岸広域振興局農林部宮古農林振興センター	
No.	遺跡コード	遺跡名	時代	遺構・遺物	種別	所在地	調査日	備考
1	LG54-1072	赤前1牛子沢遺跡	縄文		散布地	宮古市赤前第3地割牛子沢地内	平成28年1月19日	要慎重工事
2	LG54-1064	赤前船跡	中世		城船跡	宮古市赤前第5地割神田地内	平成28年1月19日	要慎重工事
3	LG54-1025	赤前Ⅱ遺跡	縄文・平安		集落跡	宮古市赤前第7地割御倉地内	平成28年1月19日	要工事立会
38 一般県道村崎野停車場線村崎野地区舗装修復工事							県南広域振興局土木部北上土木センター	
No.	遺跡コード	遺跡名	時代	遺構・遺物	種別	所在地	調査日	備考
1	ME56-0001	大下遺跡	縄文		散布地	北上市村崎野地内	平成28年3月3日	要慎重工事
39 基幹水利施設ストックマネジメント事業 岩手4期地区大田第一							盛岡広域振興局農政部農村整備室	
No.	遺跡コード	遺跡名	時代	遺構・遺物	種別	所在地	調査日	備考
1	LE15-0188	細田遺跡	古代(平安)		散布地	盛岡市上大田字細田地内	平成28年3月10日	要慎重工事

報告書抄録

ふりがな	いわてけんないせきはくつちょうさほうこくしょ							
書名	岩手県内遺跡発掘調査報告書							
副書名	平成27年度 国庫補助事業							
シリーズ名	岩手県文化財調査報告書							
シリーズ番号	第148集							
編集者名	岩手県教育委員会							
編集機関	岩手県教育委員会事務局生涯学習文化課							
所在地	〒020-8570 岩手県盛岡市内丸10-1 TEL 019-629-6180							
発行年月日	平成29年3月24日							
ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード		北緯	東経	調査期間	調査 面積 (m)	調査 原因
		市町村	遺跡番号					
野田Ⅰ遺跡	北上市二子町才の羽々地内	03206	ME56-2213	39度 18分 25秒	141度 8分 22秒	20150601～0602	65	記録保存 調査
和井内西遺跡	宮古市和井内11地割	03202	LF18-1335	39度 41分 23秒	141度 42分 39秒	20140609～0624 20150713～0716 20150721～0722 20151109～1110	1,747	記録保存 調査
浜川目沢田Ⅰ遺跡	下閉伊郡山田町大沢浜川目地内	03482	LG84-2393	39度 29分 8秒	141度 59分 9秒	20150615～0619	140	記録保存 調査
向山遺跡	釜石市稲崎町白浜	03211	MG43-2358	39度 19分 43秒	141度 56分 38秒	20150622～0716	600	記録保存 調査
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構		主な遺物		特記事項	
野田Ⅰ遺跡	集落跡	古代	溝跡1		土師器、須恵器、 縄文土器			
和井内西遺跡	集落跡	近世	掘立柱建物跡3 溝2 土坑墓4 柱穴群		陶磁器、金属製品、 縄文土器、弥生土器			
浜川目沢田Ⅰ遺跡	散布地	縄文	柱穴3		縄文土器、鉄滓			
向山遺跡	集落跡	縄文	竪穴建物跡6 土坑6 土坑墓3 柱穴36		縄文土器、石器、人骨			

岩手県文化財調査報告書 第148集
岩手県内遺跡発掘調査報告書
(平成27年度 国庫補助事業)

発行日 平成29年 3月24日
発行 岩手県教育委員会
〒020-8570 岩手県盛岡市内九10-1
編集 岩手県教育委員会事務局生涯学習文化課
印刷 小松総合印刷㈱
〒020-0827 岩手県盛岡市鈍屋町15-4